

金融先物取引に関する個人投資家の意識調査

～調査結果報告書～

2017年4月

目 次

調査概要	2
対象者属性	3
調査結果の要約	4
調査結果の詳細	7
1. 金融商品や資産に対する意識	8
2. 先物取引・オプション取引・証拠金取引・CFD 取引について	18
3. デリバティブ取引について	40
4. 外国為替証拠金取引 (FX) について	43
5. 金融商品に対する知識	62
付) 調査票	66

調査概要

調査目的：

金融先物取引に関する認知、意識および金融商品まわりの意識と実態を把握する。

調査対象者

全国 20～70 代一般男女個人（㈱日本リサーチセンターWEB パネルより抽出）

計 2,000 名

対象者構成と地域区分

地域区分：全国を一都三県／二府二県／その他の 3 地域に分割し、平成 27 年国勢調査結果に沿って、以下の通り対象者を構成した。

※一都三県：東京都／埼玉県／神奈川県／千葉県

二府二県：大阪府／京都府／兵庫県／奈良県

その他：上記以外の道府県

(人)

	全体	男性							女性						
		男性計	20代	30代	40代	50代	60代	70代	女性計	20代	30代	40代	50代	60代	70代
一都三県	584	293	43	54	63	47	49	37	291	41	51	60	45	51	43
二府二県	290	140	19	23	29	22	26	21	150	20	24	29	24	28	25
その他	1126	554	72	92	105	94	113	78	572	69	90	105	97	117	94
計	2000														

調査方法

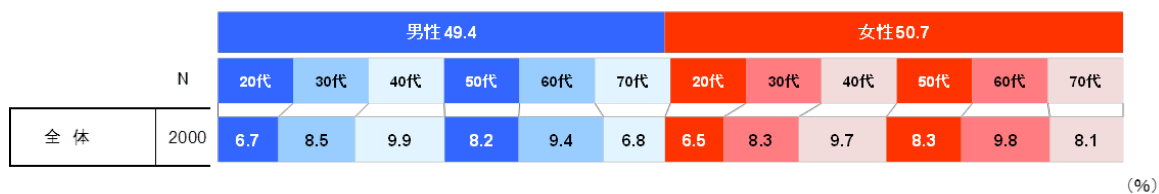
インターネット調査

調査実施期間

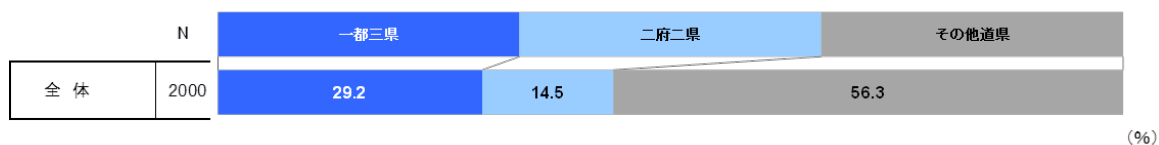
2017 年 2 月 17 日（金）～23 日（木）

対象者属性

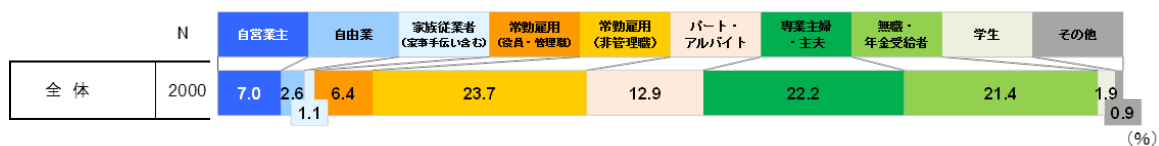
性・年代



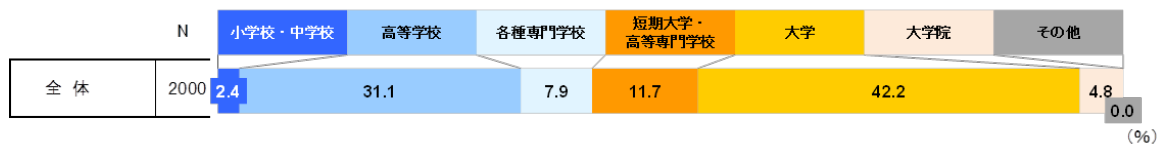
地域



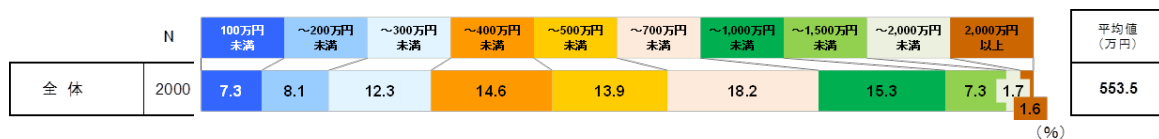
職業



最終学歴



世帯年収



調査結果の要約

1. 金融商品や資産に関する意識

取引経験のある金融商品は、「株式」が34.9%で最も高く、次いで「国内投資信託」(21.6%)。「株式」「国内投資信託」はいずれも男性が女性より経験率が高く、男女とも高齢層ほど経験率が高い。「外国為替証拠金取引(FX)」は6.8%で、男性30~40代では1割半~2割強が経験を有している。

預貯金を含む保有金融資産合計額は、平均値で982.5万円。性・年代別にみると、30代以上では男性のほうが金額が高い。平均値でみると男性は50代以上、女性は60代以上で1000万円を超える。預貯金を除く保有金融資産合計額は、平均値で444.3万円。やはり30代以上で男性が女性より高くなっている。平均値でみると、男性は50代以上で700万円超となっており、女性は60代以上で500万円超。

金融商品選択時の重視点としては、「利回りが良いこと」(58.4%)が最も高く、次いで「元本が安全なこと」(52.1%)、「値上がりが見込めること」(42.8%)等。「利回りが良い」は男性20代と女性40~50代、「元本が安全」は男性60代と女性50代以上で他より高くなっている。

金融商品以外の投資経験としては、「貯蓄型の保険」(23.0%)、「年金型の保険」(20.2%)が20%を超えていた。「年金型の保険」は男性50~60代と女性60代以上で高い。

2. 先物取引・オプション取引・証拠金取引・CFD取引について

先物取引・オプション取引・証拠金取引・CFD取引それぞれの認知度については、『知っている・計』の比率(「よく知っており、内容を十分に理解している」+「知っているが、内容を十分には理解していない」)でみると、先物取引が26.0%、オプション取引が13.6%、証拠金取引が13.5%、CFD取引が8.0%であった。いずれの取引も男性で女性より認知度が高く、CFD取引以外は男女差が大きい。また、先物取引については『知っている・計』でみると男女ともに高齢層ほど認知度が高くなっている。

先物・オプション・証拠金・CFD取引のいずれかを十分に理解していない人に対し、内容を理解したいかを聞いた結果では、『理解したい・計』(「とても理解したい」+「機会があれば理解したい」)が30.7%。性・年代別では、男性20~30代と女性20代で『理解したい・計』が4割以上と高く、男女ともに高齢になるほど意向が低くなっている。

先物・オプション・証拠金・CFD取引の内容を理解したくない理由としては、「興味がないから」が63.7%が最も高くなっている。次いで「投資する資金がないから」(25.0%)、「危険な取引なので」(22.6%)、「理解すること自体が難しそうで面倒」(20.5%)等。「興味がないから」は男性20代と女性20代・40代で、「危険な取引なので」は女性50代以上で高くなっている。

先物・オプション・証拠金・CFD取引の内容を理解するためにどのような方法(環境)があればよいかを内容理解者および内容を理解したい人に聞いた結果では、「金融商品取引業者や金融機関によるインターネットでの学習環境の提供」(36.2%)、「金融商品取引業者や金融機関の担当者によるお客様向けの説明をわかりやすくする」(35.3%)が3割台半ばでほぼ同率となり、1位・2位。「業者等の担当者による説明をわかりやすく」は、男性70代と女性50~60代で高い。

ヘッジ取引について、先物・オプション・証拠金・CFD取引のいずれかを「十分に理解している」または「知っているが十分には理解していない」人に聞いた結果では、『知っていた・計』(「知っていて、利用したことがある」+「知っていたが、利用したことはない」)が65.5%であった。このうち、利用経

験者は10.6%。男性の20代では、利用経験者が36.8%と高く、男性30代では20.4%。

先物・オプション・証拠金・CFD取引を、投資を検討している人に勧めたいかについて、いずれかを「十分に理解している」または「知っているが十分には理解していない」人に聞いた結果では、『そう思う・計』（「そう思う」+「ややそう思う」）で19.6%。男性では、20代で『そう思う・計』が60.5%と高く、高齢になるほど低くなっている。

先物・オプション・証拠金・CFD取引を勧めたい理由としては、「ハイリターンが期待できるから」が62.6%、「現物株式や外国通貨などの原資産の価格変動に対するリスクヘッジができるから」が58.9%。逆に、勧めたくない理由は、「ハイリスクだから」が55.3%と最も高く、次いで「元手を上回る損失が発生する可能性があるから」（34.5%）、「商品内容が難しいから」（28.8%）等の順となっている。

3. デリバティブ取引について

デリバティブ取引を行う場合、どの方法で投資したいかについては、「直接自分で行う方が良い」が12.9%、「プロに任せて間接的に投資を行う方が良い」が12.4%、「直接投資と間接投資を状況によって使い分ける」が10.1%で3つのそれぞれが1割強ずつとなった。一方、「いずれの方法でも取引は行わない」は42.4%と多数。男性は20代で「直接自分で」「プロに任せて」が2割ずつと高く、高齢になるほど「取引は行わない」が高まっている。女性も40代までに比べて50代以上では「取引は行わない」の比率が高くなっている。

金融商品の売買時に、自動売買を利用したいかについてみると、「利用したい」は11.6%、「利用したくない」が60.2%であった。利用意向は男性で女性より高く、男女ともに若年層ほど高くなっている。

4. 外国為替証拠金取引（FX）について

外国為替証拠金取引（FX）の認知度は、「よく知っており、内容を十分に理解している」（10.8%）、「知っているが、内容を十分には理解していない」（22.5%）で、この2つを合わせた『知っている・計』は33.3%であった。認知度は男性で女性より高く、男性では30～40代、女性では50代以上で他よりも高い傾向がみられる。

外国為替証拠金取引（FX）経験者の、現在の取引状況は、「行っている」人が60.7%であった。また、取引経験者で現在取引していない人の理由としては「期待したほどの利益が得られなかったので」（41.5%）、「投資する余裕がなくなったので」（32.1%）、「急激な相場変動によって、予期せぬ大きな損失を被ったので」（28.3%）等となっている。

外国為替証拠金取引（FX）の、今後の取引意向は、『行いたい・計』（「取引を行いたい」+「やや行いたい」）で15.8%。取引意向は、男性で女性より高く、男女いずれも若年層ほど高くなっている。取引を行いたい理由としては、「ハイリターンが期待できるから」が54.6%と最も高く、以下「手軽に外国通貨への投資が行えるから」（35.6%）、「多くの投資者が利益を得ているから」（29.8%）等。一方、取引を行いたくない理由は、「リスクが高いから」（50.0%）、「投資する余裕がないから」（36.7%）、「商品内容が難しいから」（15.4%）等の順。「リスクが高い」は女性50～60代で高い、等の傾向がみられる。

外国為替証拠金取引（FX）について、上場取引と店頭取引の2つの市場があることの認知率は16.1%。男性40代で31.0%と高く、男性30代（25.4%）・50代（20.9%）も2割台。女性はいずれの年代も1

割前後の認知率であった。

金融商品取引において、金融商品取引業者（日本の金融庁にて登録をされている者）以外が日本に居住する者を勧誘・取引することは違法であることの認知率は、14.9%と1割台。概ね、男性では2割前後、女性は1割前後の認知率であった。また、金融庁や国民生活センターが、無登録海外所在業者との契約を行わないように注意喚起していることの認知率は12.1%で、やはり女性に比べて男性のほうが高い傾向となっている。

金融先物取引業協会の認知についてみると、「団体の内容も含めて知っている」が3.5%、「名前は聞いたことがある」が21.4%で、「名前は聞いたことがある」まで含めた認知率は2割台半ば。「名前は聞いたことがある」まで含めた認知率でみると、女性より男性の方が高く、3割前後となっている。

金融商品あっせん相談センター（FINMAC）の認知については、「団体の内容も含めて知っている」が3.0%、「名前は聞いたことがある」が13.7%で、「名前は聞いたことがある」まで含めた認知率は2割弱であった。「名前は聞いたことがある」まで含めた認知率でみると、女性より男性の方が高く、2割前後。

外国為替証拠金取引（FX）業者の印象は、「破たんリスクが高そう」が25.2%で最も高く、以下「インターネット取引が多い」（21.4%）、「信頼性が低い」（11.6%）、「新しい会社が多い」（11.2%）等。「破たんリスクが高そう」は女性60代で、「インターネット取引が多い」は男性30～40代で他より高い。

外国為替証拠金取引（FX）の市場が、今後どのようなになると思うかについては、「現状と変わらない」が31.0%、「現在がピークで今後は市場縮小に向かう」が9.5%、「ますます一般投資家が参加して市場が拡大する」が7.5%であった。なお、「わからない」が52.1%と過半数を占めている。「市場が拡大する」は男女ともに20～30代で高齢層よりやや高く、「わからない」は60代以上で高い。

5. 金融商品に対する知識

金融商品選択時の知識・情報をどのような機会を得ているかについては、「ウェブサイト」が21.7%で最も高く、次いで「マスメディア（テレビ・ラジオ番組、新聞・雑誌等）」（12.5%）、「金融商品取引業者や金融機関の窓口での相談」（11.8%）等となっている。「ウェブサイト」は男性30～40代で高く、「マスメディア」は男性60代で高い等の特徴がみられる。

金融商品とその投資に関して、どのような知識を得たいかをみると、「個別の金融商品の仕組みやリスクに関する知識」が21.4%で最も高く、以下「経済に関する全般的な知識」（18.6%）、「金融商品税制の仕組みに関する知識」（15.5%）、「金融商品取引の始め方に関する知識」（14.1%）等の順。「金融商品の仕組みやリスクに関する知識」は男性40代で、「経済に関する全般的な知識」は男性40代と女性30代で高くなっている。

調査結果の詳細

※下記の設問については、各選択肢に以下の代表値を与えて平均値を算出している。

Q2 保有している金融資産の合計額

1. 10 万円未満	5
2. 10～50 万円未満	30
3. 50～100 万円未満	75
4. 100～300 万円未満	200
5. 300～500 万円未満	400
6. 500～1,000 万円未満	750
7. 1,000～3,000 万円未満	2,000
8. 3,000～5,000 万円未満	4,000
9. 5,000 万円以上	6,000

Q32 世帯年収

1. 100 万円未満	50
2. 100～200 万円未満	150
3. 200～300 万円未満	250
4. 300～400 万円未満	350
5. 400～500 万円未満	450
6. 500～700 万円未満	600
7. 700～1,000 万円未満	850
8. 1,000～1,500 万円未満	1,250
9. 1,500～2,000 万円未満	1,750
10. 2,000 万円以上	2,250

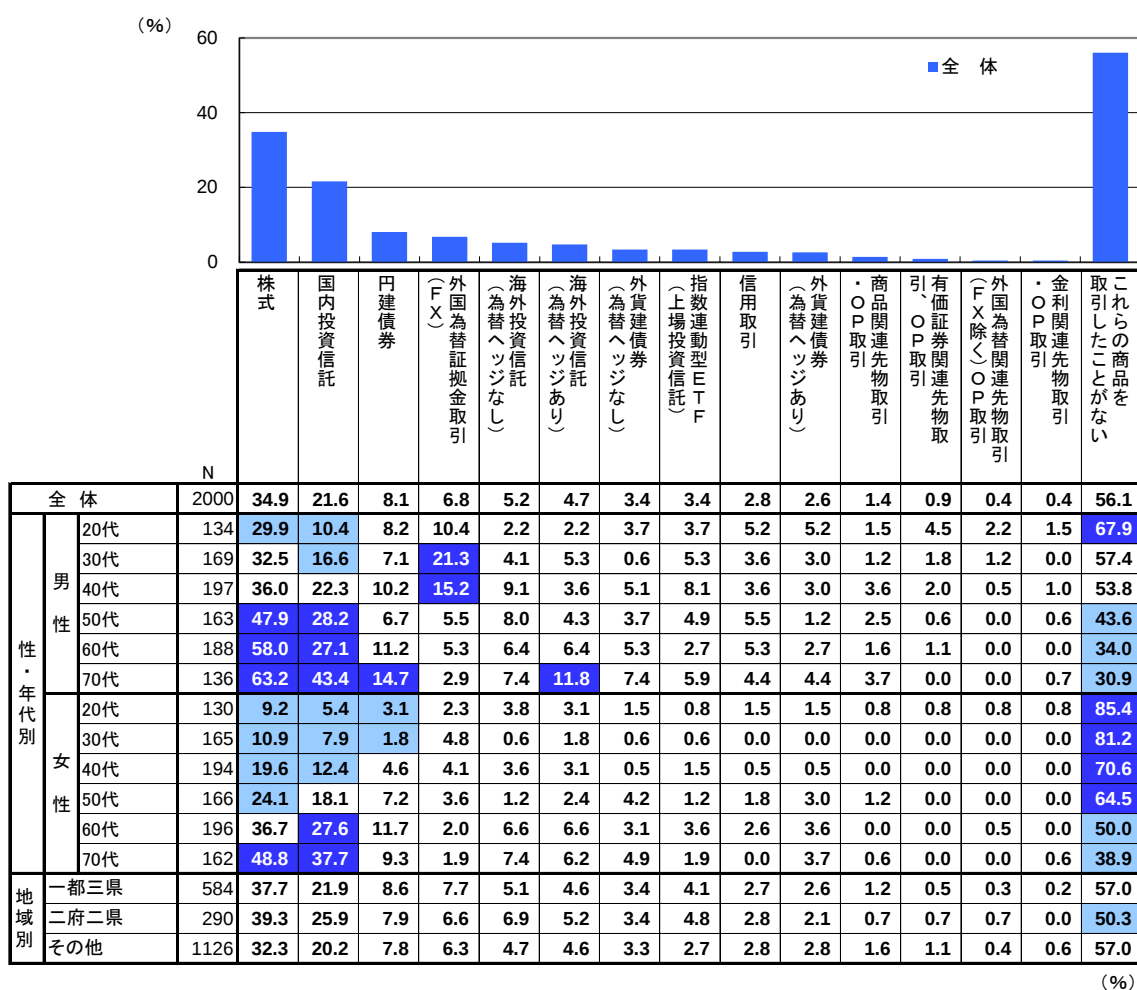
1. 金融商品や資産に対する意識

取引したことがある金融商品についてみると、全体では「株式」が34.9%と最も高く、次いで「国内投資信託」が21.6%となっている。以下、「円建債券」(8.1%)、「外国為替証拠金取引 (FX)」(6.8%)、「海外投資信託(為替ヘッジなし)」(5.2%) 等と続く。なお、「これらの商品を取引したことがない」は56.1%で過半数を占めている。

性・年代別にみると「株式」「国内投資信託」はいずれも男性で女性より高く、男女ともに高齢層ほど高くなっている。特に男性60代以上では、「株式」の取引経験が6割前後と高いのが目立つ。また「外国為替証拠金取引(FX)」は、男性20～40代で1割以上となっており、特に男性30代は21.3%と最も高い。

地域別にみると、二府二県では「取引したことがない」の比率が他より低くなっている。

Q1 取引したことがある金融商品（複数回答）

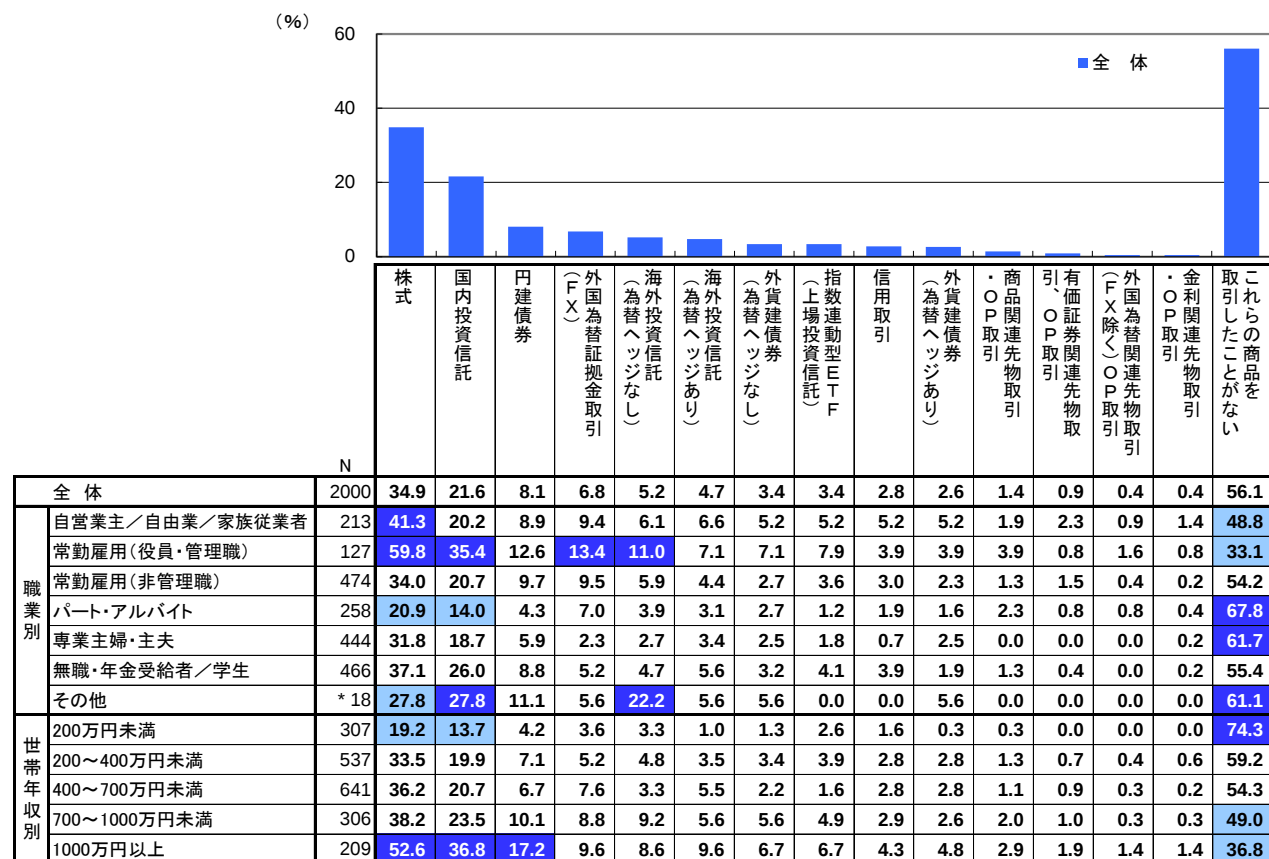


全体と比べ5ポイント以上高い
全体と比べ5ポイント以上低い

次に、職業別にみると、常勤雇用（役員・管理職）では「株式」「国内投資信託」「外国為替証拠金取引（FX）」「海外投資信託（為替ヘッジなし）」の取引経験が他より高く、中でも「株式」は約6割となっている。また、自営業主／自由業／家族従業者も、「株式」の取引経験は4割以上と高い。一方、パート・アルバイトは「株式」「国内投資信託」の取引経験率が低い。

世帯年収別にみると、いずれの金融商品も年収が高いほど経験率がほぼ高くなっている。

Q1 取引したことがある金融商品（複数回答）



* 件数が30未満のため参考

(%)

	全体と比べ5ポイント以上高い
	全体と比べ5ポイント以上低い

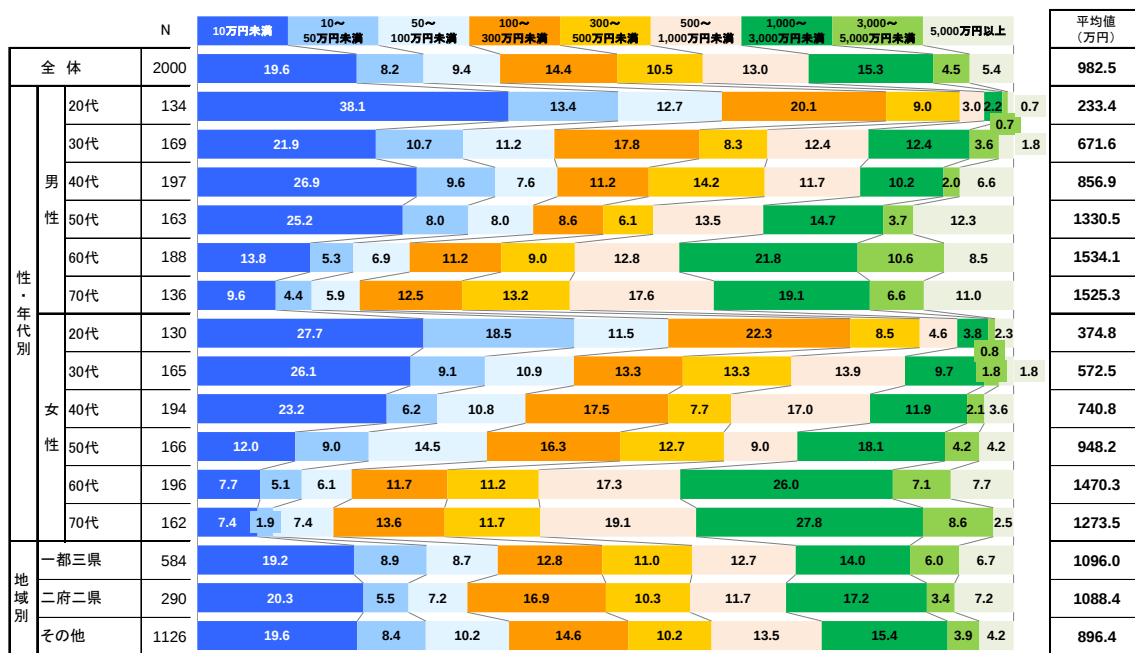
預貯金を含む保有している金融資産合計額についてみると、全体では「10 万円未満」(19.6%)、「1,000～3,000 万円未満」(15.3%)、「100～300 万円未満」(14.4%) の順に高く、分布が分散しており、平均値では 982.5 万円であった。

性・年代別にみると、30 代以上では総じて男性のほうが金額が高い。また男女ともに 60 代までは高齢層になるほど金額が高くなり、平均値でみると男性で 50 代以上、女性で 60 代以上で 1,000 万円を超えている。

地域別にみると、その他の地域では一都三県や二府二県に比べて合計額の平均値が低い。

Q2 保有している金融資産合計額

a) 預貯金含む

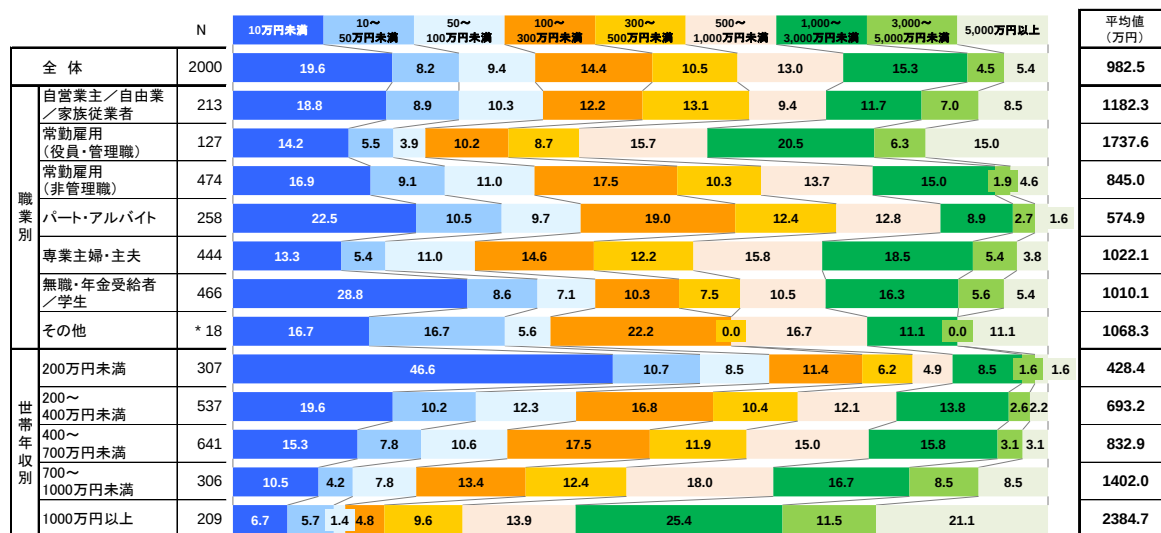


(%)

職業別に平均値でみると、常勤雇用（役員・管理職）では 1737.6 万円と最も高く、次いで自営業主／自由業／家族従業者が 1182.3 万円となっている。

Q2 保有している金融資産合計額

a) 預貯金含む



* 件数が 30 未満のため参考

(%)

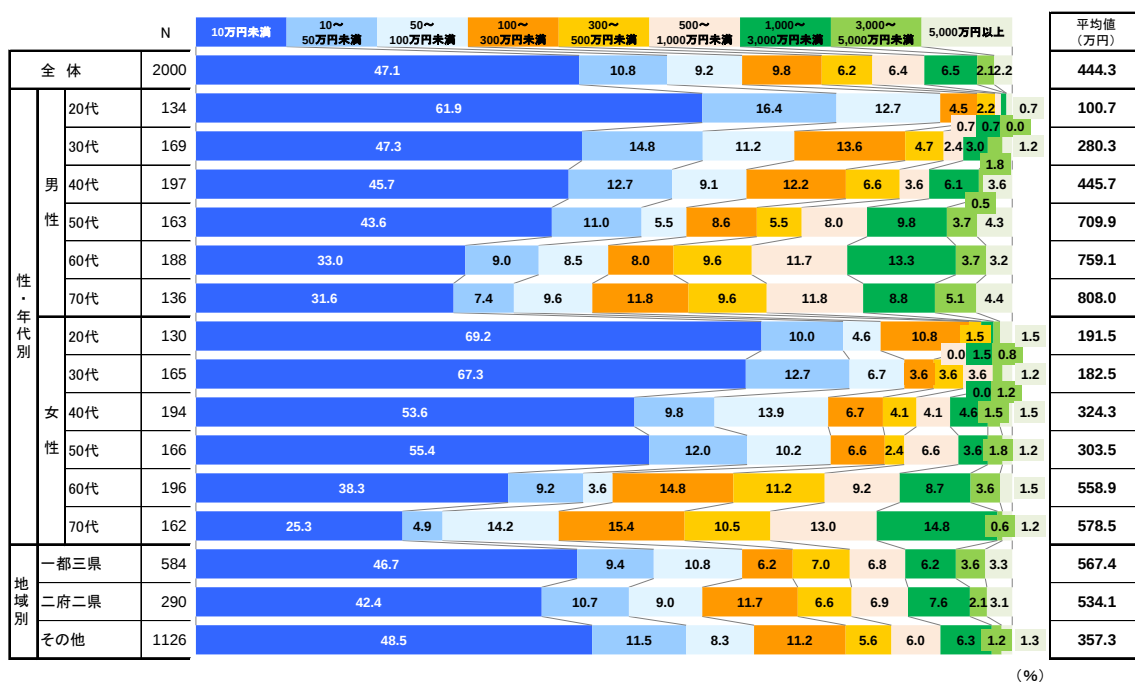
預貯金を除く保有金融資産合計額については、全体で「10 万円未満」が 47.1%と半数弱を占めており、平均値では 444.3 万円であった。

性・年代別にみると、30 代以上では男性の方が高くなっている。また男女ともに高齢層になるほど金額が高くなっており、平均値でみると男性では 50 代以上で 700 万円を超え、女性は 60 代以上で 500 万円を超えている。

地域別にみると、その他の地域では、一都三県や二府二県に比べて、合計額の平均値がやはり低い。

Q2 保有している金融資産合計額

b)預貯金除く

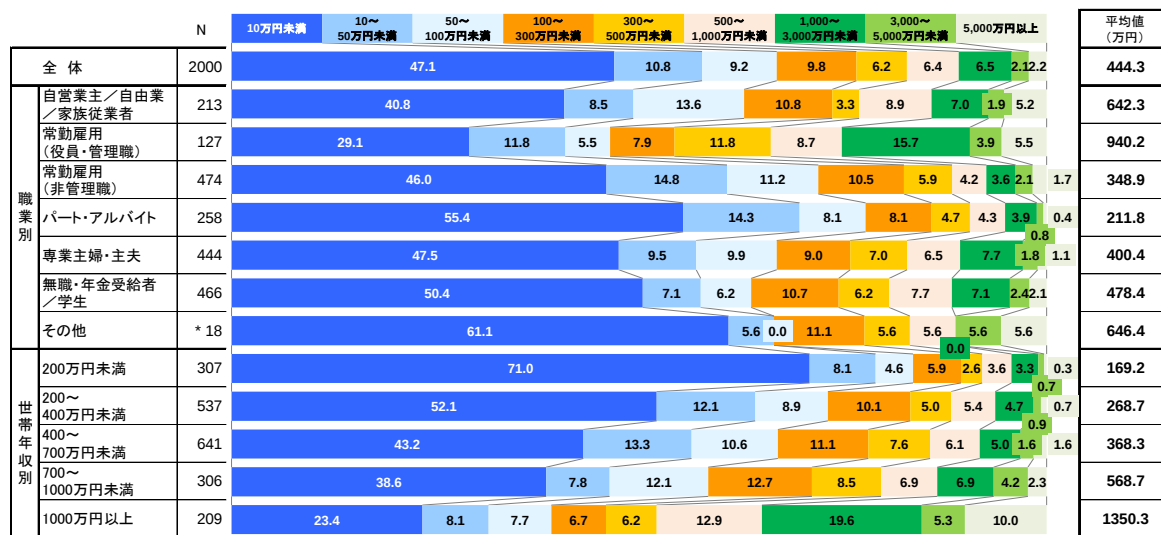


(%)

職業別に平均値でみると、常勤雇用（役員・管理職）では940.2万円と最も高く、次いで自営業主／自由業／家族従業者が642.3万円となっている。

Q2 保有している金融資産合計額

b)預貯金除く



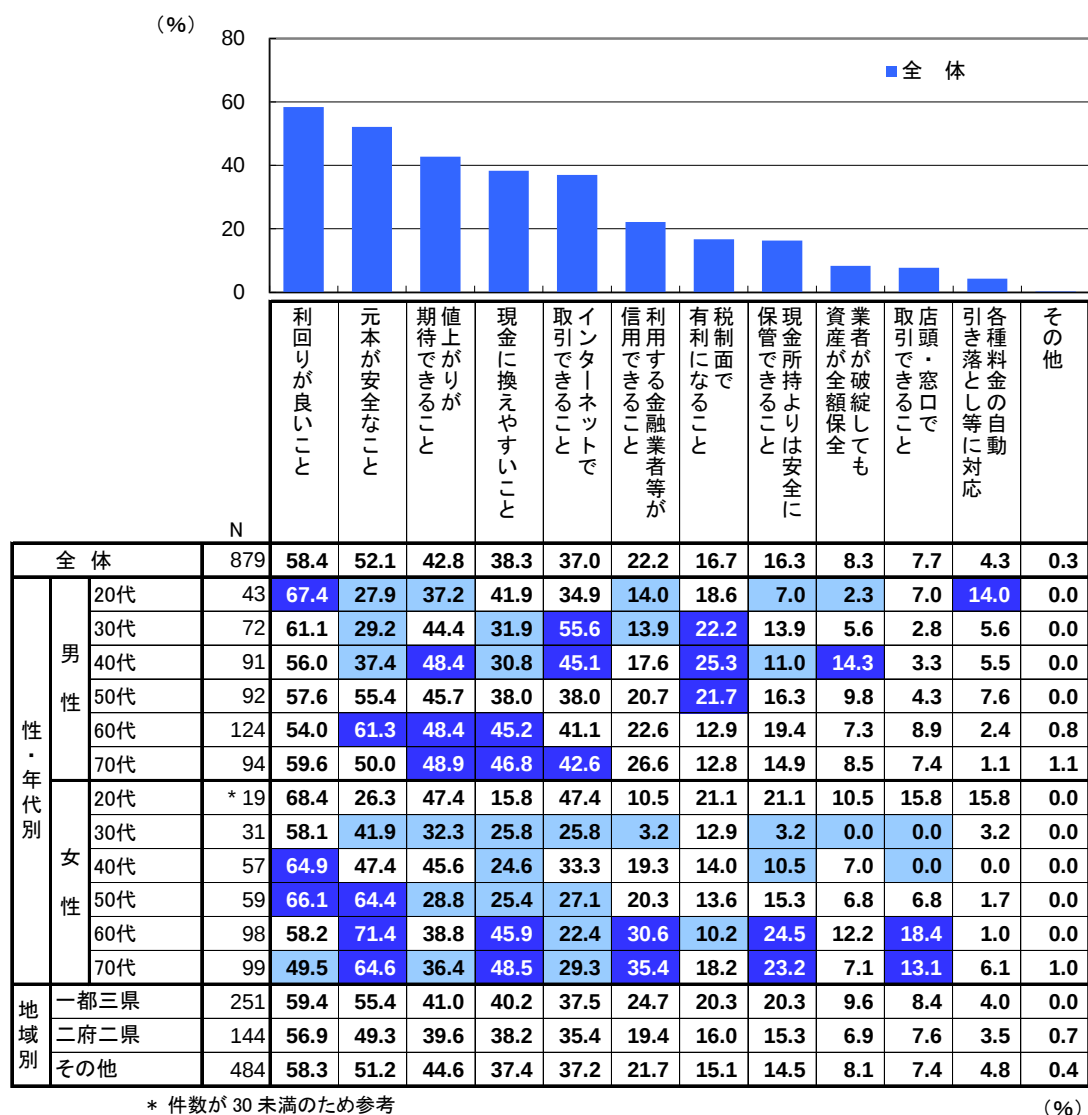
* 件数が30未満のため参考

(%)

金融商品を選ぶときの重視点としては、「利回りが良いこと」が 58.4%で最も高い。以下「元本が安全なこと」(52.1%)、「値上がり期待できること」(42.8%)、「現金に換えやすいこと」(38.3%)、「インターネットで取引できること」(37.0%)等と続き、ここまでの5項目が3割以上となっている。

性・年代別にみると、「利回りが良い」は男性 20 代と女性 40～50 代、「元本が安全」は男性 60 代と女性 50 代以上、「現金に換えやすい」は男女ともに 60 代以上で高い、等の特徴がみられる。

Q3 金融商品選択時重視点（複数回答）

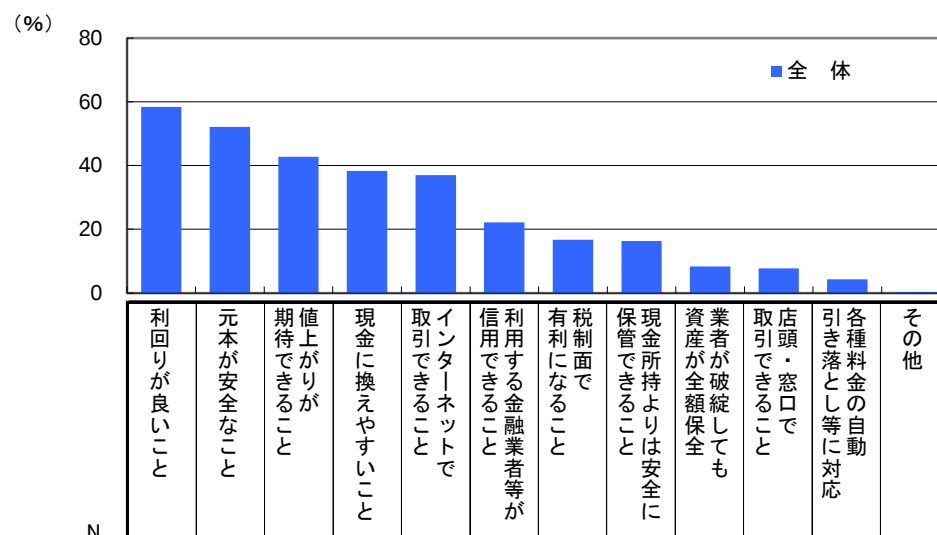


全体と比べ5ポイント以上高い
全体と比べ5ポイント以上低い

職業別にみると、常勤雇用（役員・管理職）では「利回りが良いこと」「値上がりが期待できること」「税制面で有利になること」が高く、専業主婦・主夫では「元本が安全なこと」「利用する金融業者等が信用できること」「現金を所持するよりは安全に保管できること」が高い等の傾向がみられる。

世帯年収別にみると、「利回りが良い」は年収 700 万円以上の高所得者層で高くなっている。

Q3 金融商品選択時重視点（複数回答）



N		利回りが良いこと	元本が安全なこと	期待できること	値上がりが期待できること	現金に換えやすいこと	インターネットで見られること	信用できる金融業者等が利用できること	税制面で有利になること	現金所持よりは安全に保管できること	資産が破綻しても業者が全額保全	店頭・窓口で取引できること	各種料金の自動引き落とし等に対応	その他
全 体		879	58.4	52.1	42.8	38.3	37.0	22.2	16.7	16.3	8.3	7.7	4.3	0.3
職業別	自営業主／自由業／家族従業者	109	57.8	46.8	45.9	40.4	39.4	17.4	16.5	15.6	9.2	7.3	5.5	0.9
	常勤雇用(役員・管理職)	85	64.7	54.1	49.4	35.3	31.8	20.0	24.7	11.8	5.9	5.9	5.9	0.0
	常勤雇用(非管理職)	217	62.7	41.0	41.0	30.9	39.2	17.5	17.1	9.2	5.5	2.8	3.7	0.0
	パート・アルバイト	83	55.4	55.4	28.9	38.6	31.3	22.9	10.8	15.7	10.8	10.8	4.8	0.0
	専業主婦・主夫	170	58.2	61.2	39.4	40.0	28.2	31.2	16.5	24.7	7.6	11.8	4.1	0.0
	無職・年金受給者／学生	208	52.9	56.3	48.6	45.7	44.2	22.1	15.9	19.2	10.6	9.6	3.8	1.0
	その他	* 7	57.1	71.4	42.9	14.3	57.1	42.9	14.3	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0
世帯年収別	200万円未満	79	54.4	58.2	43.0	41.8	50.6	19.0	15.2	22.8	11.4	8.9	5.1	1.3
	200～400万円未満	219	52.1	53.9	39.3	41.1	32.0	23.7	13.7	15.1	9.1	7.8	4.1	0.0
	400～700万円未満	293	57.3	50.9	42.0	39.9	39.2	24.2	19.5	15.7	7.8	8.9	3.4	0.3
	700～1000万円未満	156	64.1	44.2	48.1	32.1	34.0	15.4	14.1	14.7	7.7	5.8	6.4	0.6
	1000万円以上	132	66.7	57.6	43.9	35.6	35.6	25.0	19.7	17.4	6.8	6.8	3.8	0.0

* 件数が30未満のため参考

(%)

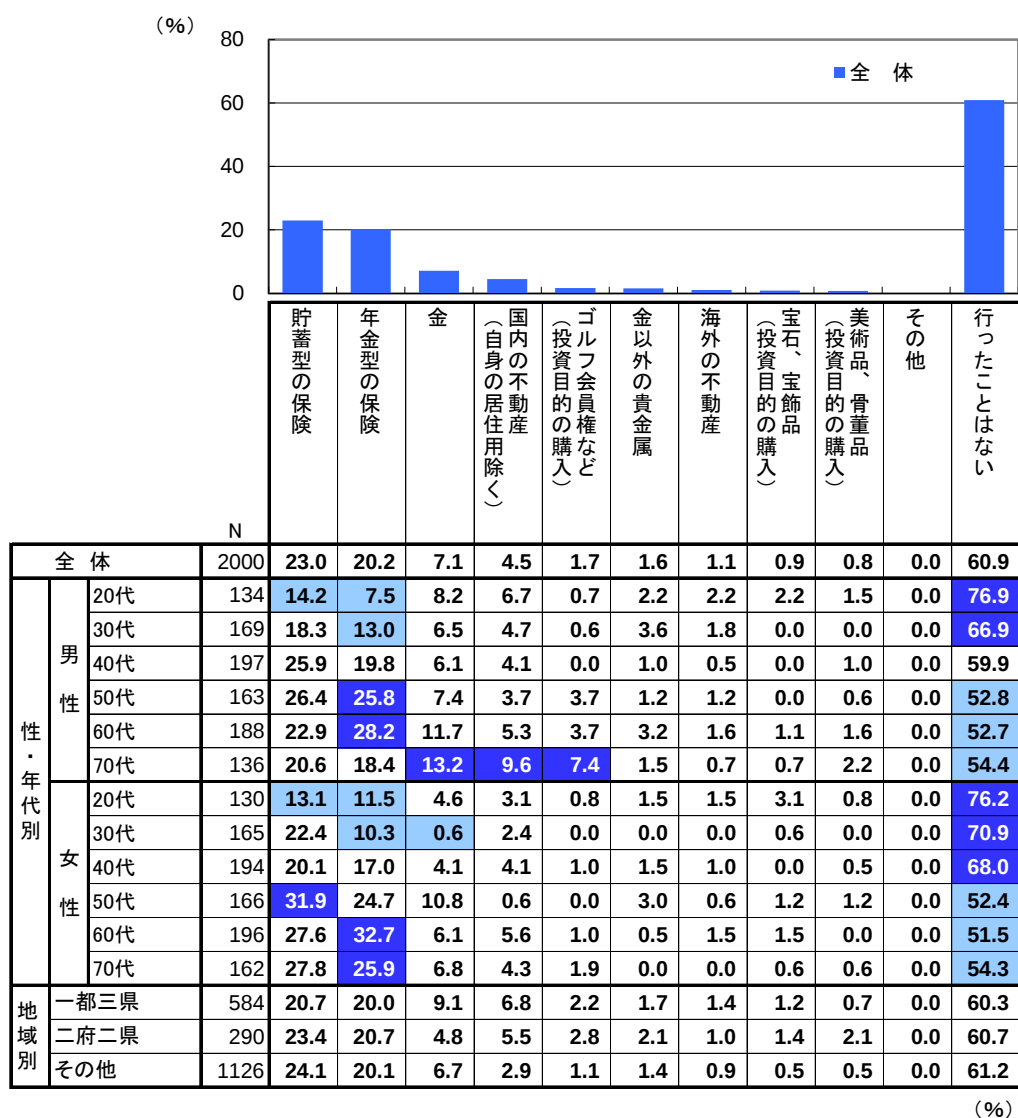
	全体と比べ5ポイント以上高い
	全体と比べ5ポイント以上低い

金融商品以外の投資経験についてみると、全体では「貯蓄型の保険」(23.0%)、「年金型の保険」(20.2%)が2割以上を占めており、上位2項目となった。なお「行ったことはない」が60.9%と、多数となっている。

性・年代別にみると、「年金型の保険」は男性50～60代と女性60代以上、「金」「国内の不動産」「ゴルフ会員権など」は男性70代で高くなっている。また、「行ったことはない」は男女とも若年層ほど高い。

地域別には、差がみられない。

Q4 金融商品以外の投資経験（複数回答）

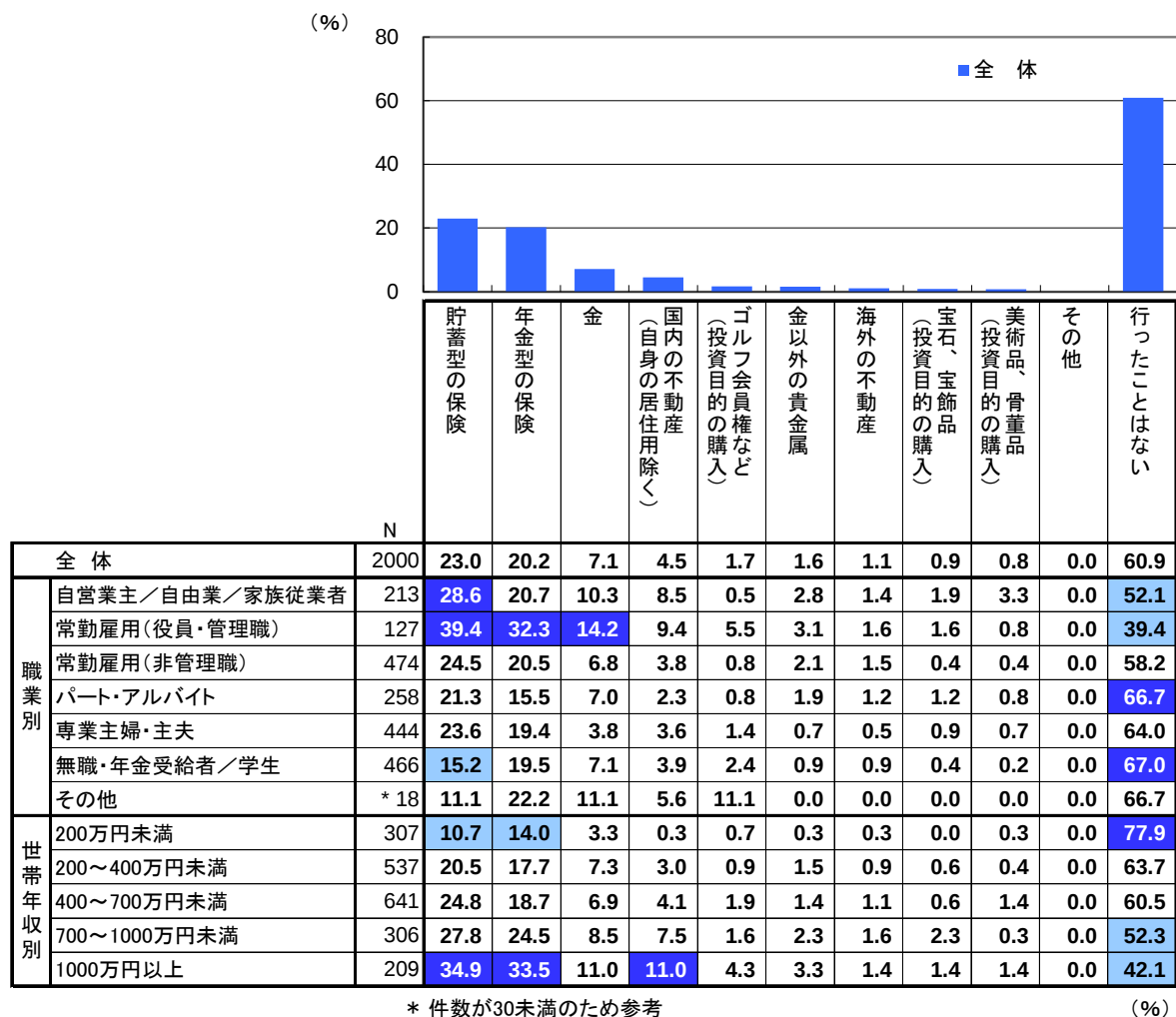


全体と比べ5ポイント以上高い
全体と比べ5ポイント以上低い

職業別にみると「貯蓄型の保険」「年金型の保険」「金」は常勤雇用（役員・管理職）で高くなっている。

世帯年収別にみると、ほとんどの項目で年収が高いほど投資経験率も高くなっている。

Q4 金融商品以外の投資経験（複数回答）

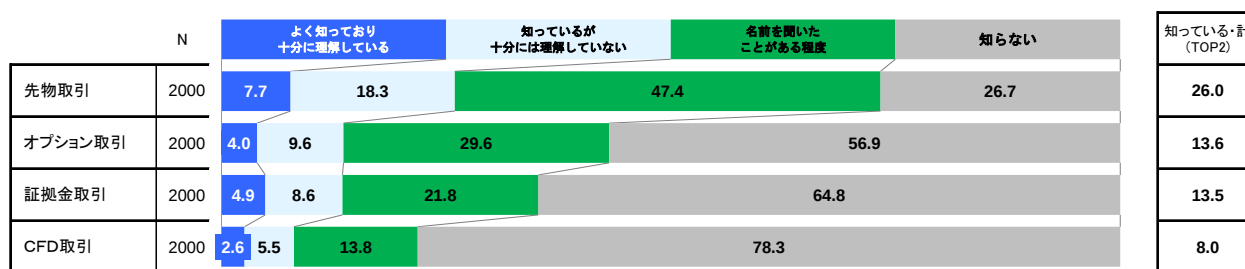


全体と比べ5ポイント以上高い
全体と比べ5ポイント以上低い

2. 先物取引・オプション取引・証拠金取引・CFD取引について

先物取引、オプション取引、証拠金取引、CFD 取引それぞれについて、認知度をみていく。4つの取引について『知っている・計』の比率（「よく知っており、内容を十分に理解している」+「知っているが、内容を十分には理解していない」）でみると、先物取引が 26.0%と最も認知度が高く、次いでオプション取引（13.6%）、証拠金取引（13.5%）が同程度、CFD 取引は 8.0%と1割未満であった。また、先物取引については、「名前を聞いたことがある程度」が5割弱と多数を占めている。

Q5 先物取引やオプション取引、証拠金取引、CFD 取引の認知



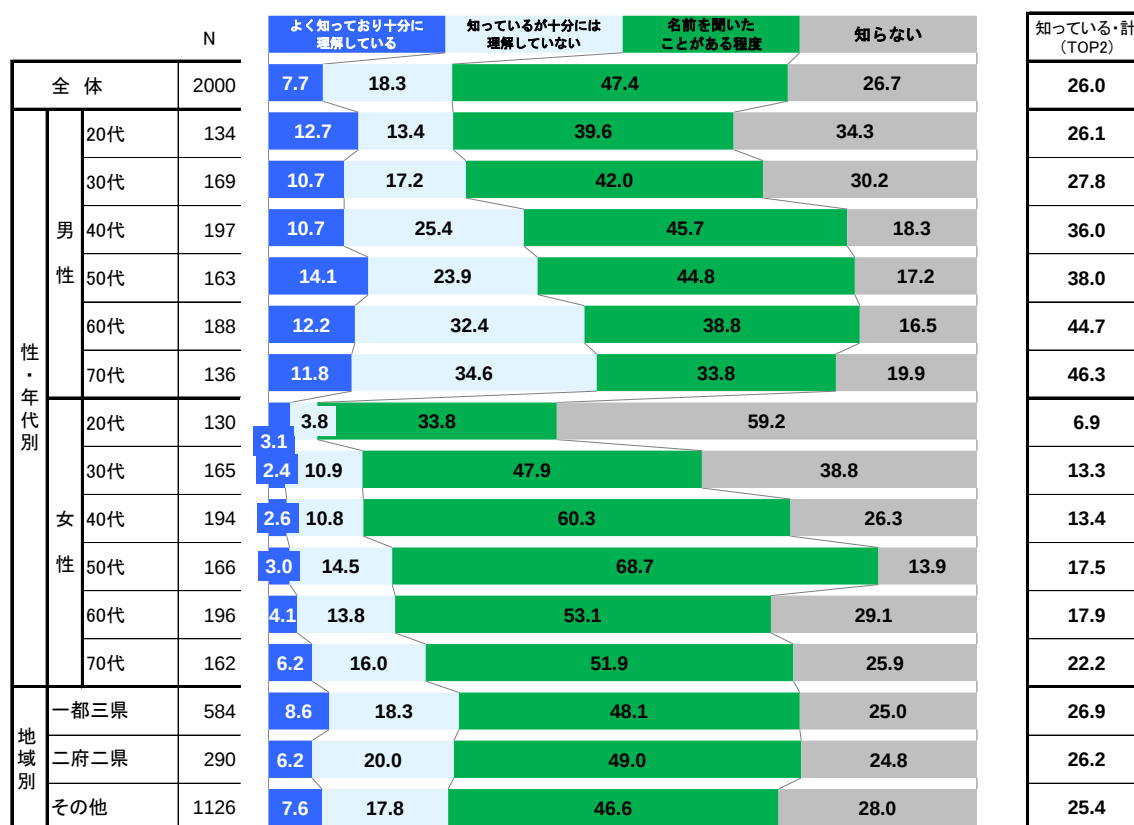
(%)

先物取引について、性・年代別にみると、『知っている・計』は男性で女性よりも明らかに高く、男女いずれも高齢層になるほど高くなっている。なお、女性はその年代においても、男性の認知度の半分にも満たない。特に男性 60 代以上は『知っている・計』で 4 割以上を占めており、高水準である。

地域別には、差がみられない。

Q5 先物取引やオプション取引、証拠金取引、CFD 取引の認知

a)先物取引



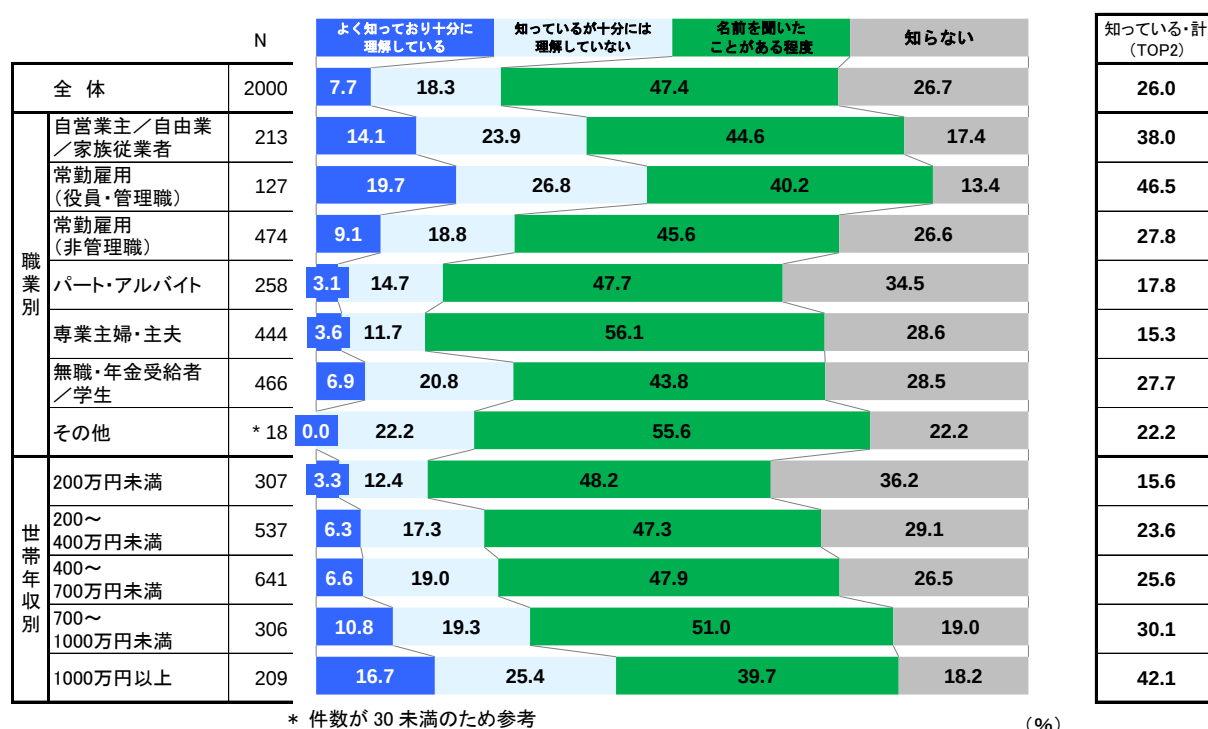
(%)

職業別にみると、常勤雇用（役員・管理職）では『知っている・計』で46.5%と高く、次いで自営業主／自由業／家族従業者が38.0%となっている。

世帯年収別では、年収が高くなるほど認知度も高くなっている。

Q5 先物取引やオプション取引、証拠金取引、CFD取引の認知

a)先物取引

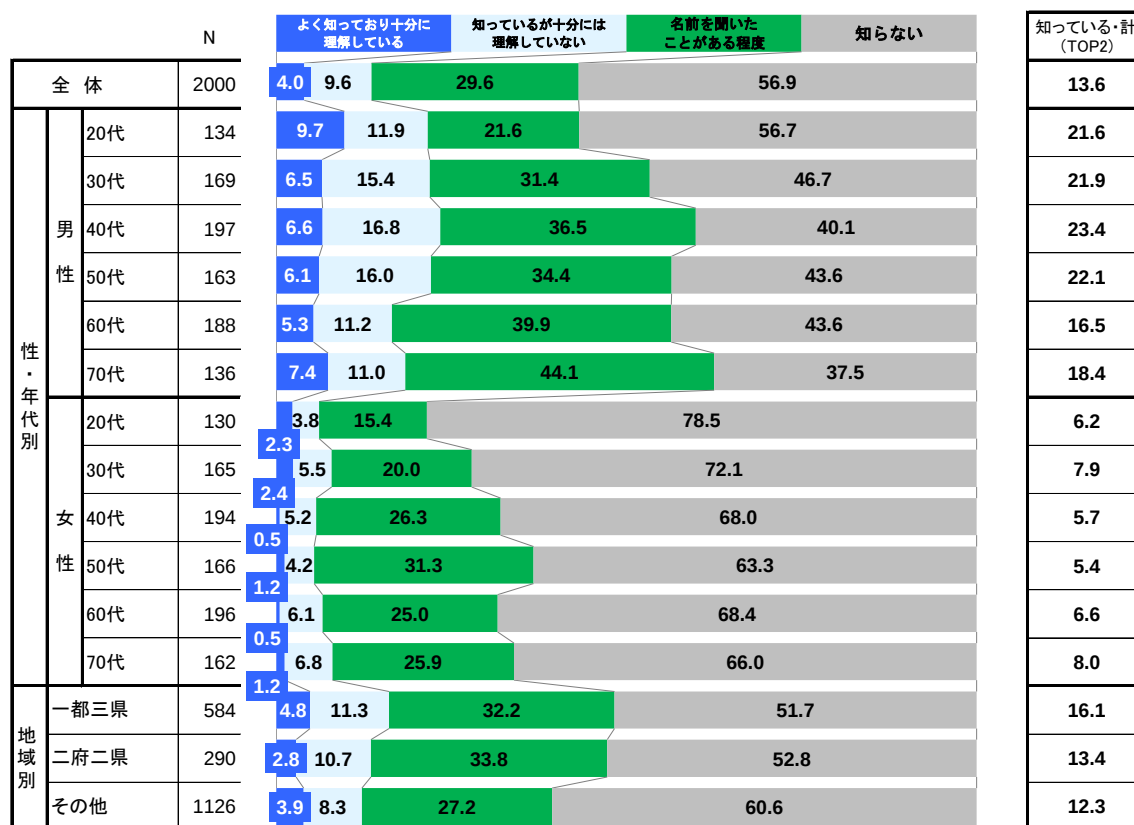


オプション取引について、性・年代別にみると、認知率は先物取引同様、男性で女性よりも明らかに高い。『知っている・計』でみると、男性は20～50代では2割強であり差がないが、60代以上になると1割台になり、やや低くなる。女性は、いずれの年代も『知っている・計』が1割未満で差がみられない。

地域別にみると、『知っている・計』では差がないが、「名前を聞いたことがある程度」まで含めてみると、その他の地域は一都三県や二府二県に比べて認知度が低い。

Q5 先物取引やオプション取引、証拠金取引、CFD取引の認知

b)オプション取引



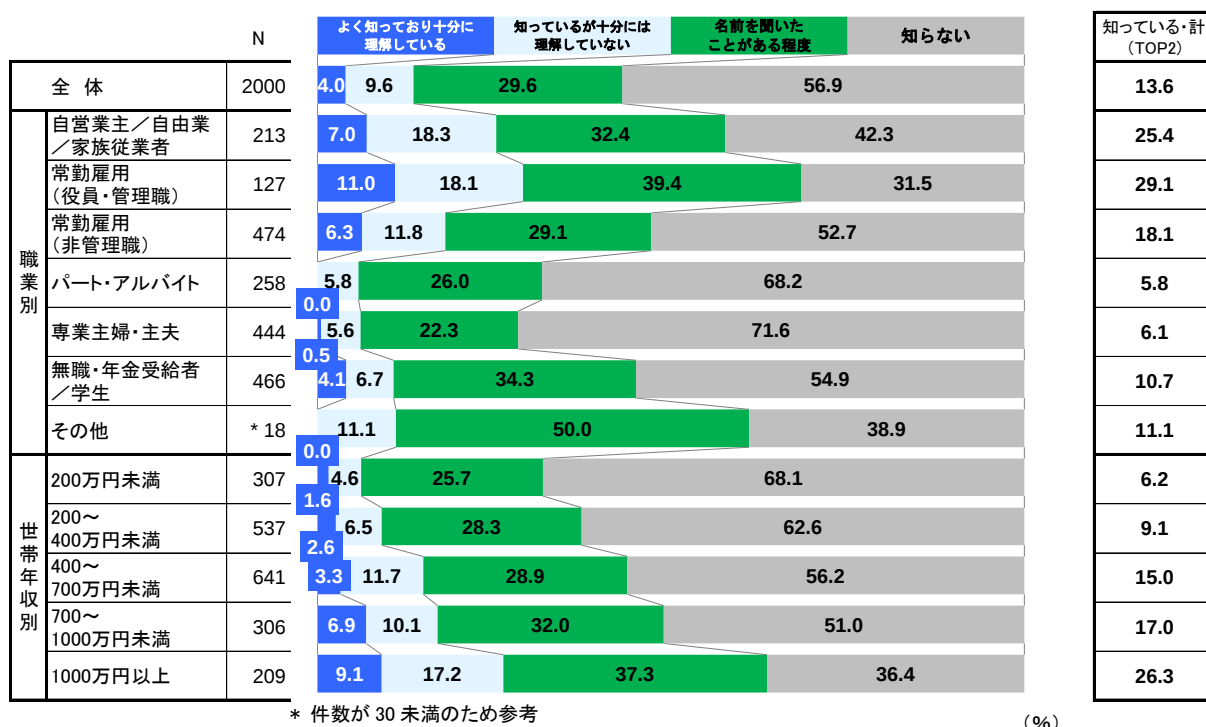
(%)

職業別にみると、先物取引と同様に、常勤雇用（役員・管理職）では『知っている・計』が29.1%と高く、次いで自営業主／自由業／家族従業者が25.4%となっている。

世帯年収別では、やはり先物取引と同じく、年収が高くなるほど認知度も高くなっている。

Q5 先物取引やオプション取引、証拠金取引、CFD取引の認知

b)オプション取引

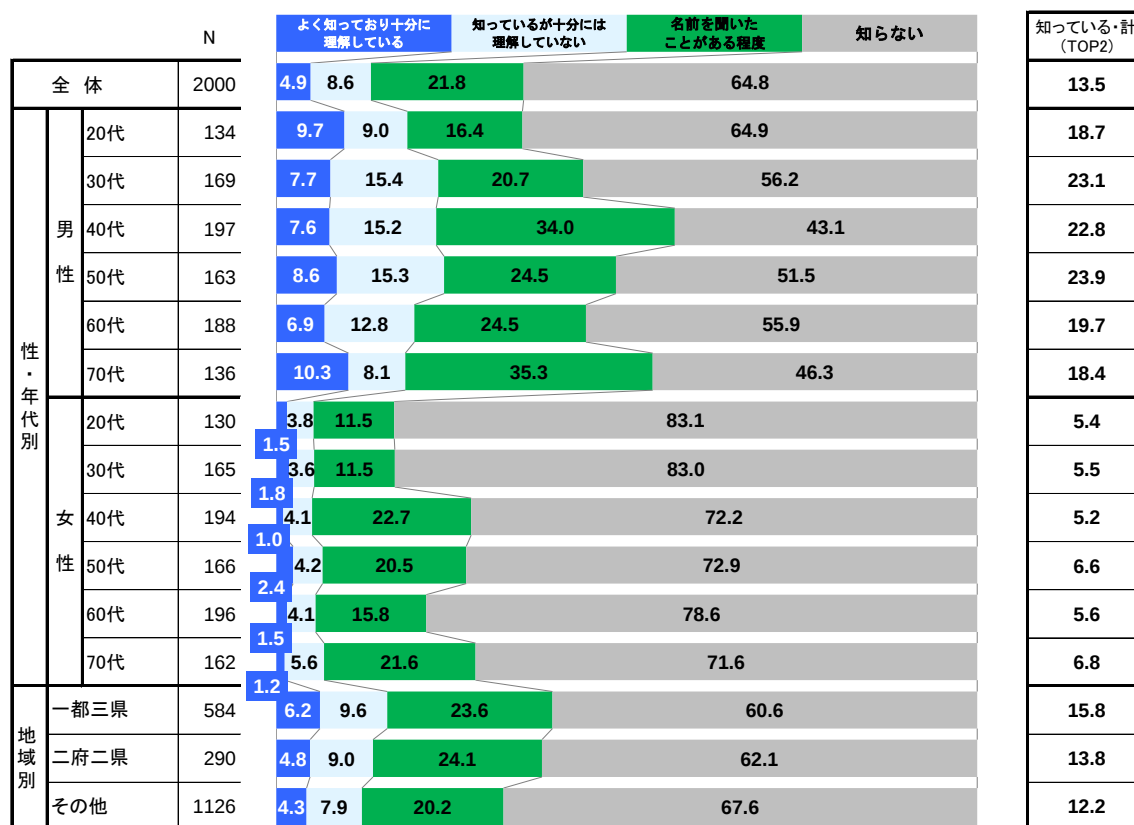


証拠金取引について、性・年代別にみると、認知率は前述の2つの取引同様、男性で女性よりも顕著に高い。『知っている・計』でみると、男性は30～50代では2割以上となっているが、その前後の年代ではやや低くなっている。女性については、いずれの年代も『知っている・計』が1割未満で、オプション取引と同様に差がみられない。

地域別にみると、『知っている・計』では差がないが、「名前を聞いたことがある程度まで含めてみると、その他の地域は一都三県や二府二県に比べて認知度がやや低い。

Q5 先物取引やオプション取引、証拠金取引、CFD取引の認知

c)証拠金取引



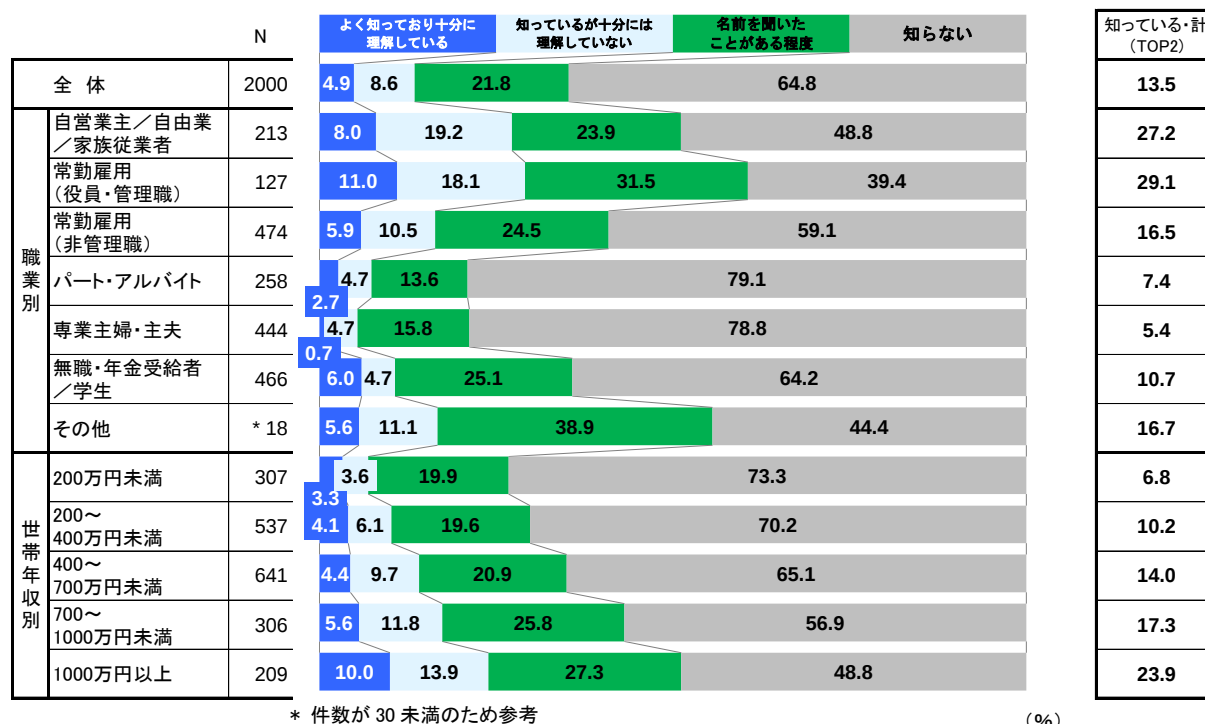
(%)

職業別にみると、『知っている・計』は常勤雇用（役員・管理職）で 29.1%、自営業主／自由業／家族従業者で 27.2%とこの 2 層がほぼ同程度となっている。ただし、「名前を聞いたことがある程度」まで含めると、常勤雇用（役員・管理職）が自営業主／自由業／家族従業者を 10 ポイント程度上回っている。

世帯年収別では、他の取引と同様に、年収が高くなるほど認知度も高くなっている。

Q5 先物取引やオプション取引、証拠金取引、CFD 取引の認知

c)証拠金取引

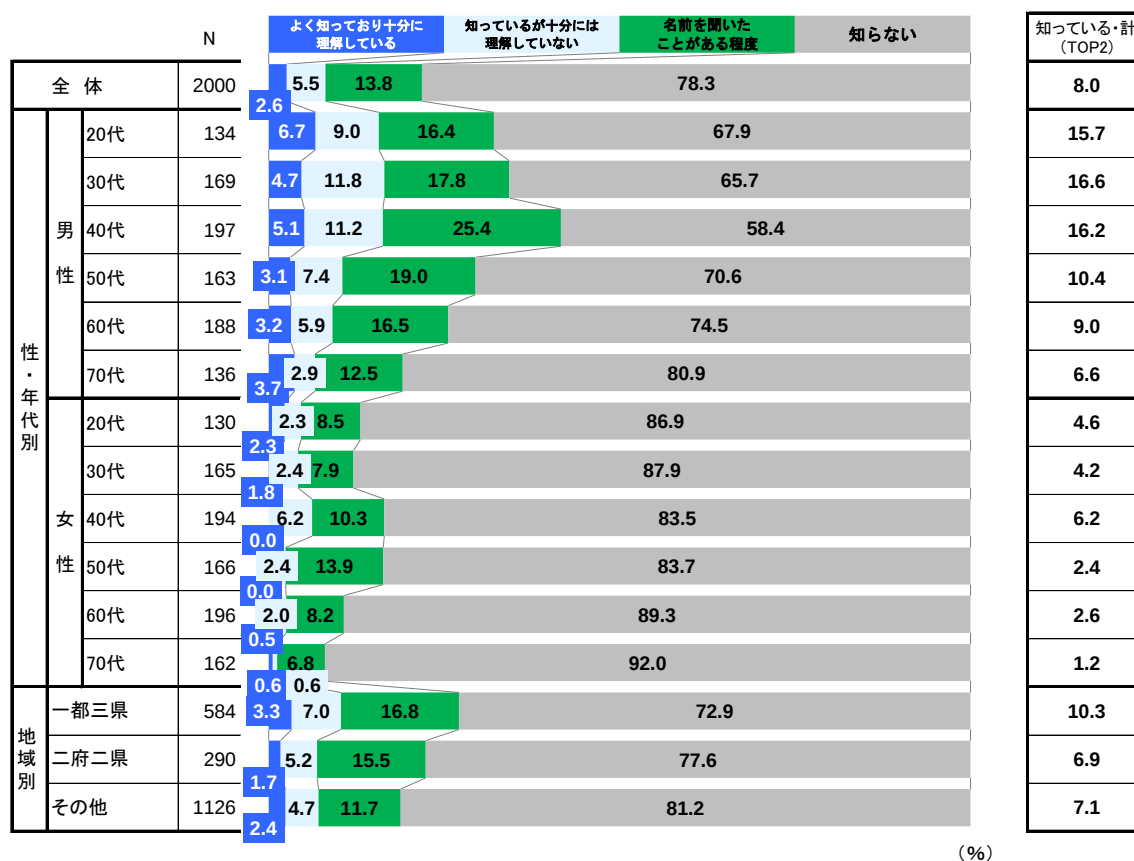


CFD 取引について、性・年代別にみると、認知率は男性で女性よりも高い傾向だが、前述の3つの取引に比べると差は小さい。男性は20～40代では『知っている・計』で15%程度だが、50代以上になると低くなる。女性はすべて1割未満で、前述の3つの取引と同様に、差がみられない。

地域別にみても、大きな差はみられない。

Q5 先物取引やオプション取引、証拠金取引、CFD取引の認知

d)CFD取引



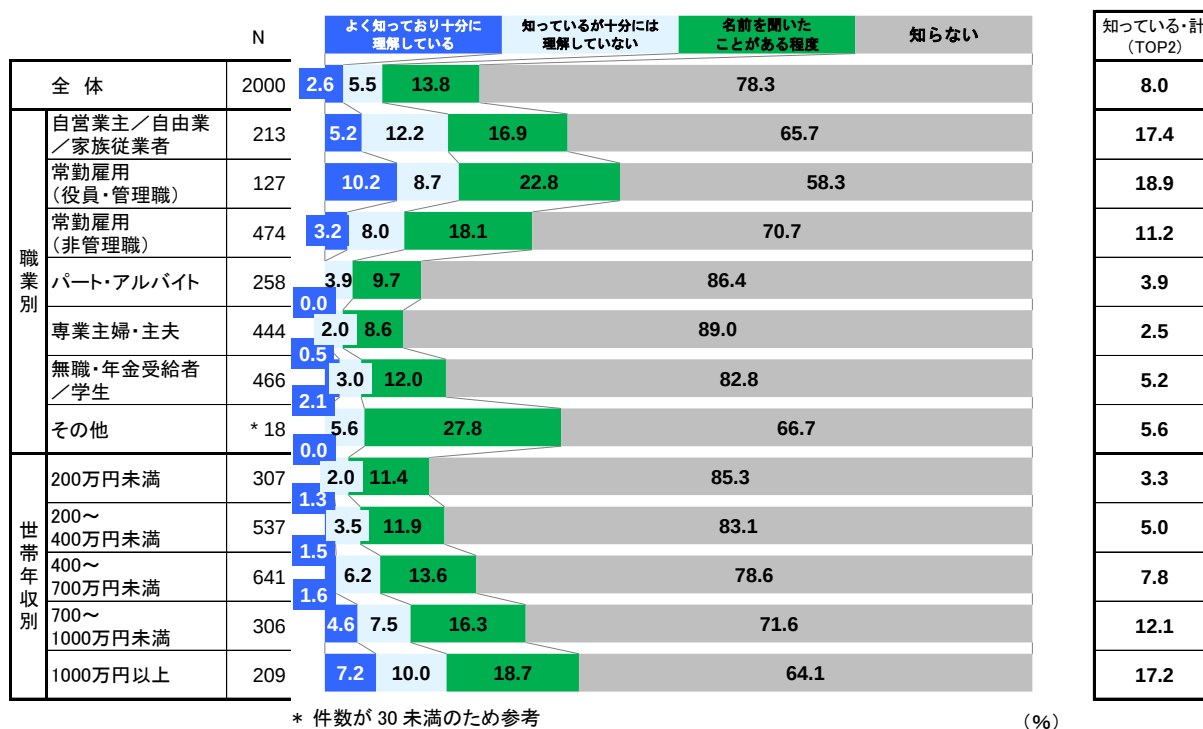
(%)

職業別にみると、『知っている・計』は常勤雇用（役員・管理職）で 18.9%、自営業主／自由業／家族従業者で 17.4%と、証拠金取引と同様に、この２層がほぼ同程度となっている。ただし、「名前を聞いたことがある程度」まで含めると、やはり常勤雇用（役員・管理職）が自営業主／自由業／家族従業者を上回っている。

世帯年収別では、他の取引と同様に、年収が高くなるほど認知度も高くなっている。

Q5 先物取引やオプション取引、証拠金取引、CFD 取引の認知

d)CFD 取引

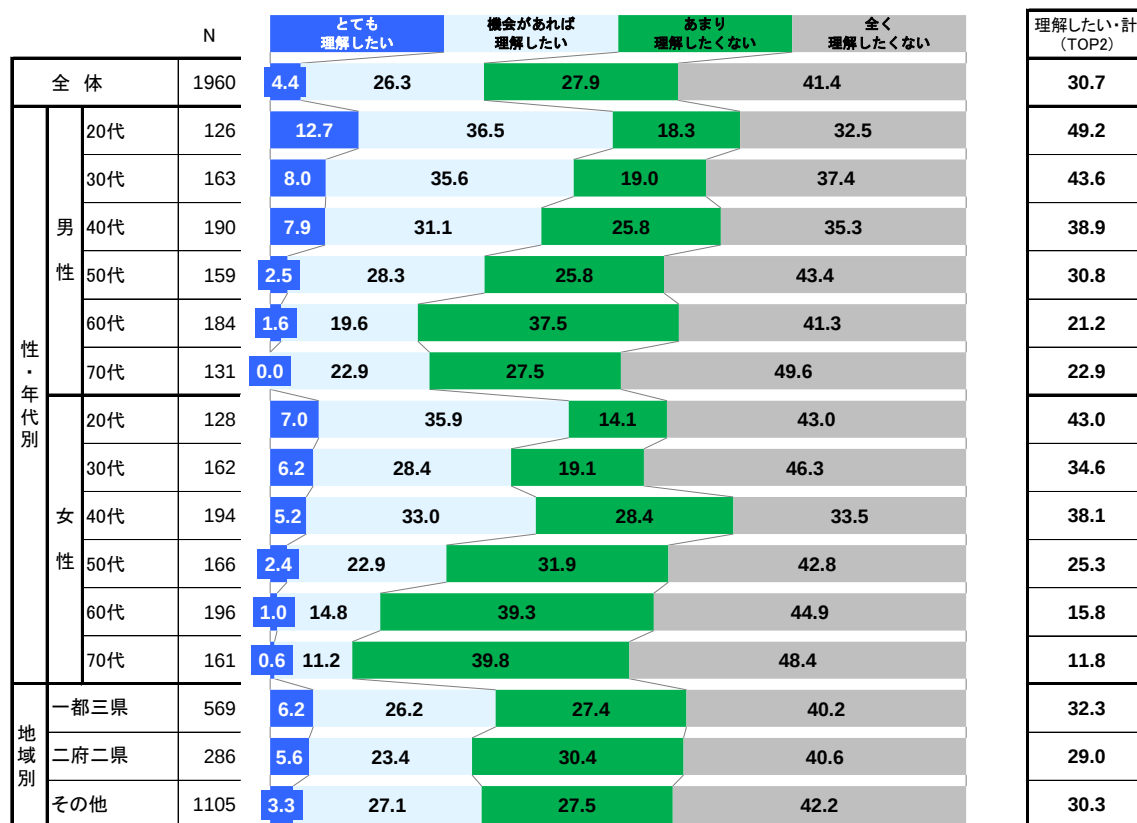


先物取引・オプション取引・証拠金取引・CFD 取引の内容や取引方法について、理解したいと思うかどうか聞いた結果では、「とても理解したい」が 4.4%、「機会があれば理解したい」が 26.3%と、『理解したい・計』は合わせて 30.7%であった。

性・年代別にみると、『理解したい・計』は男性 20～30 代と女性 20 代では 4 割以上と高く、いずれも高齢になるほど理解したい意向が低くなる傾向がみられる。

地域別には、差がみられない。

Q6 先物取引・オプション取引・証拠金取引・CFD 取引 内容を理解したいか／左記いずれかの内容を理解していない人ベース



(%)

職業別にみると、『理解したい・計』は常勤雇用（非管理職）で 40.8%、常勤雇用（役員・管理職）で 37.6%、自営業主／自由業／家族従業者で 33.8%等の順に高くなっている。

世帯年収別では、700 万円以上の層では『理解したい・計』が約 4 割と、700 万円未満の層よりも高くなっている。

Q6 先物取引・オプション取引・証拠金取引・CFD 取引 内容を理解したいか／左記いずれかの内容を理解していない人ベース

	N	とても理解したい	機会があれば理解したい	あまり理解したくない	全く理解したくない	理解したい・計 (TOP2)
全 体	1960	4.4	26.3	27.9	41.4	30.7
職 業 別	自営業主／自由業／家族従業者	6.4	27.5	28.9	37.3	33.8
	常勤雇用（役員・管理職）	8.5	29.1	32.5	29.9	37.6
	常勤雇用（非管理職）	5.9	34.9	22.8	36.4	40.8
	パート・アルバイト	4.3	26.7	26.7	42.2	31.0
	専業主婦・主夫	2.7	19.4	33.6	44.4	22.1
	無職・年金受給者／学生	2.8	22.9	26.9	47.4	25.8
	その他	5.6	22.2	22.2	50.0	27.8
	* 18					
世 帯 年 収 別	200万円未満	3.0	20.1	25.0	52.0	23.0
	200～400万円未満	2.6	22.9	31.4	43.0	25.6
	400～700万円未満	3.6	27.3	28.1	40.9	31.0
	700～1000万円未満	8.4	32.1	26.0	33.4	40.5
	1000万円以上	8.2	32.8	25.1	33.8	41.0
	195					

* 件数が 30 未満のため参考

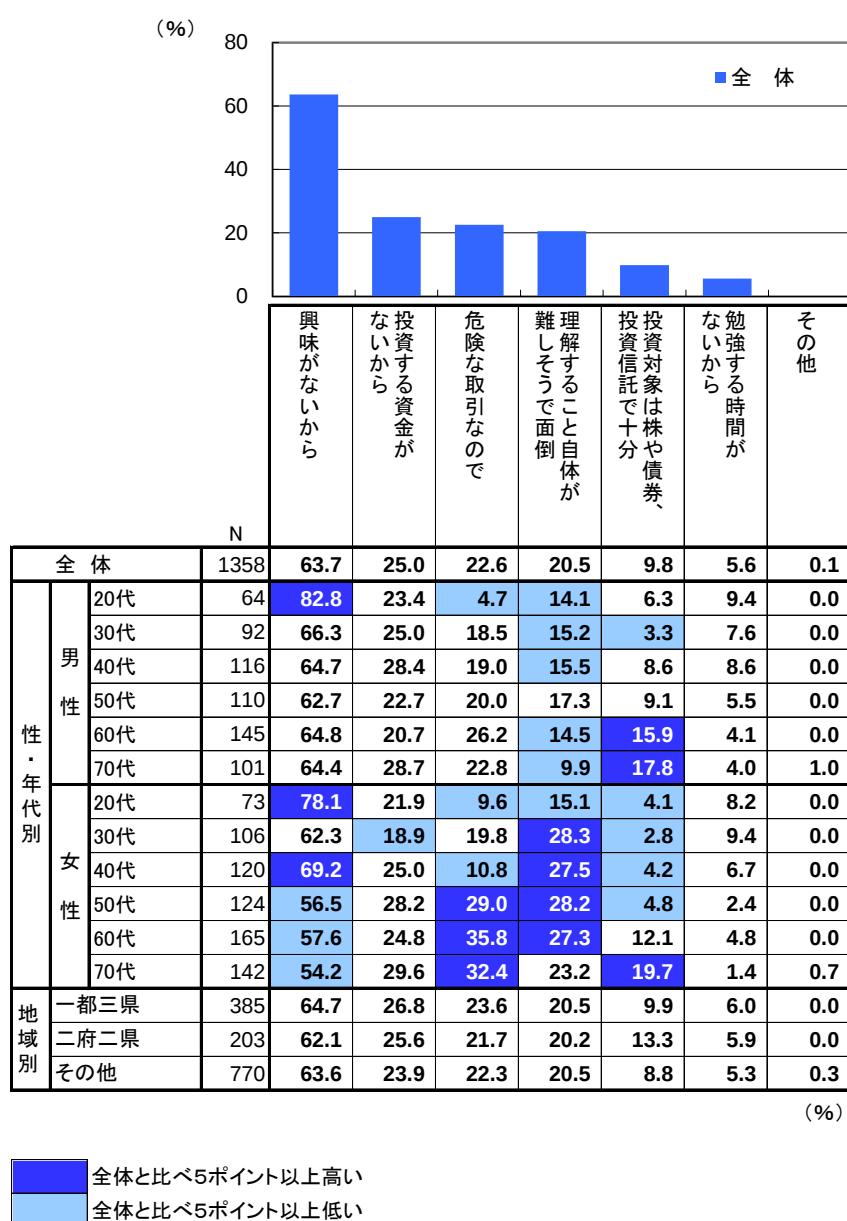
(%)

先物取引・オプション取引・証拠金取引・CFD取引の、内容を理解したくない理由としては、「興味がないから」が63.7%で、第1位となっている。以下、「投資する資金がないから」(25.0%)、「危険な取引なので」(22.6%)、「理解すること自体が難しそうで面倒だから」(20.5%)等と続き、ここまでの4項目が2割以上となっている。

性・年代別にみると、1位はいずれも「興味がないから」であるが、特に男性20代、女性20代・40代では高く、女性50代以上では他に比べて低くなっている。また、「危険な取引なので」は女性50代以上で、「理解すること自体が難しそうで面倒」は女性30～60代で、他の層に比べて高くなっている。

地域別には、特徴的な差はみられない。

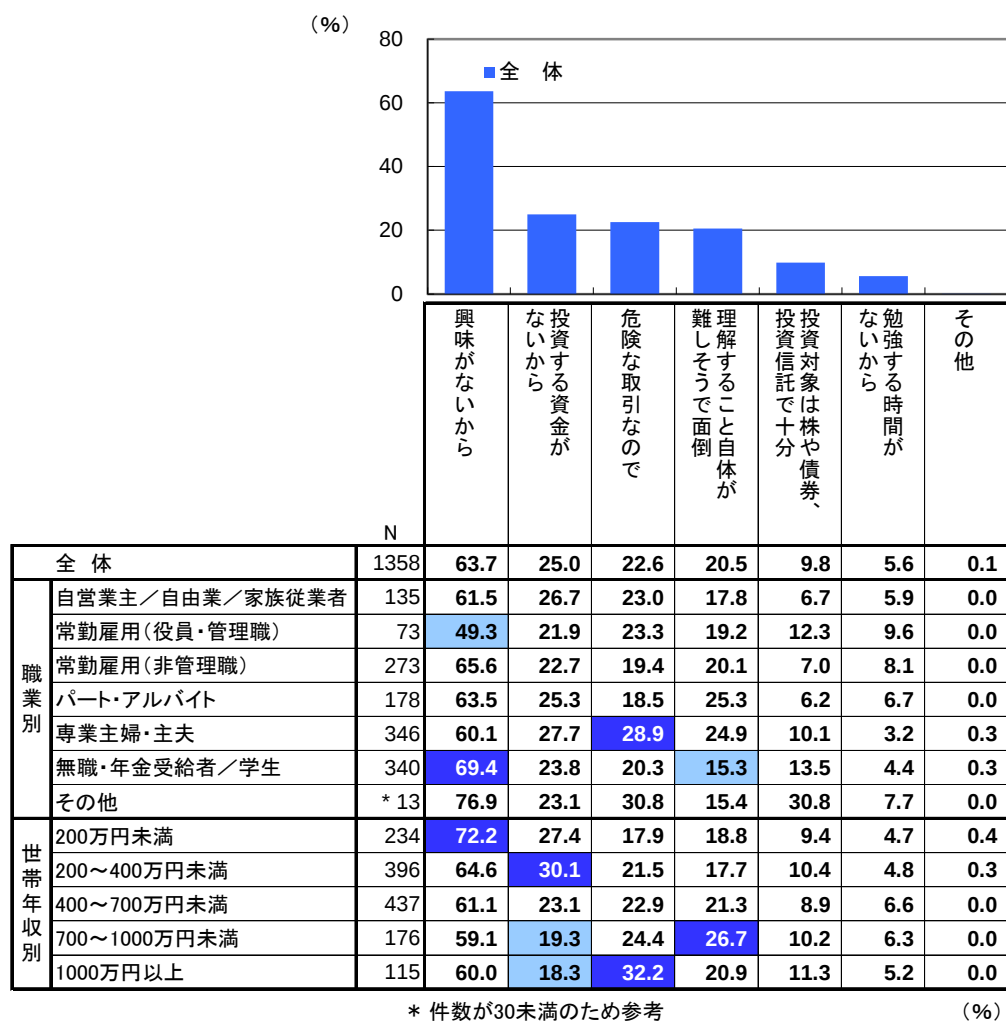
Q7 先物取引・オプション取引・証拠金取引・CFD取引 内容を理解したくない理由(複数回答)／内容を理解したくない人ベース



職業別にみると、「興味がない」は無職・年金受給者／学生で、「危険な取引なので」は専業主婦・主夫で他より高い。

世帯年収別では、「興味がない」は年収 200 万円未満の低い層で、「危険な取引なので」は 1000 万円以上の高い層で、高くなっている。

Q7 先物取引・オプション取引・証拠金取引・CFD 取引 内容を理解したくない理由(複数回答)／内容を理解したくない人ベース

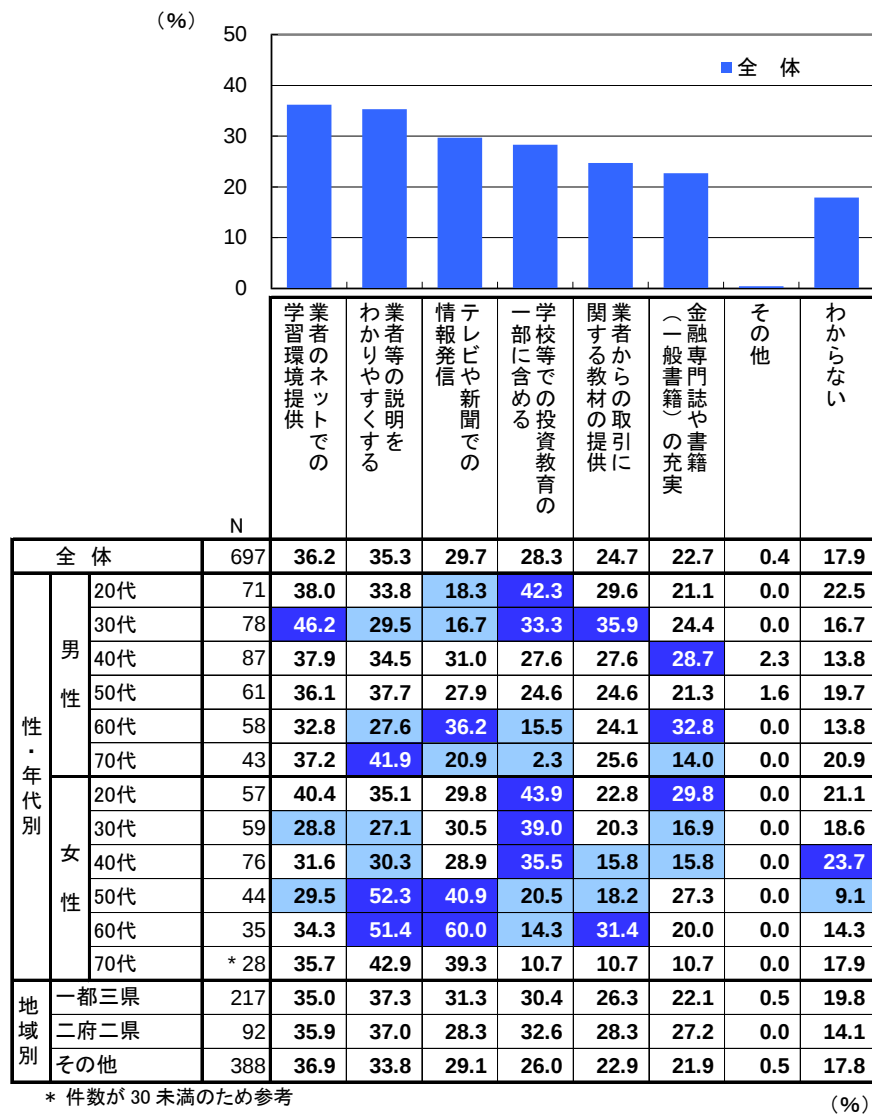


全体と比べ5ポイント以上高い
全体と比べ5ポイント以上低い

先物取引・オプション取引・証拠金取引・CFD 取引の、内容を理解するために、どのような方法（環境）があればよいかについては、「金融商品取引業者や金融機関によるインターネットでの学習環境の提供」（36.2%）、「金融商品取引業者や金融機関の担当者によるお客様向けの説明をわかりやすくする」（35.3%）が3割台半ばでほぼ同率となり、1位・2位となった。以下、「テレビや新聞での情報発信」（29.7%）、「学校等での投資教育の一部にこれらの取引の情報を含める」（28.3%）等が続く。

性・年代別にみると、「業者等の担当者による説明をわかりやすく」は男性 70 代と女性 50～60 代で高く、「学校等での投資教育の一部に情報を含める」は男女ともに若年層中心に高い傾向がみられる。

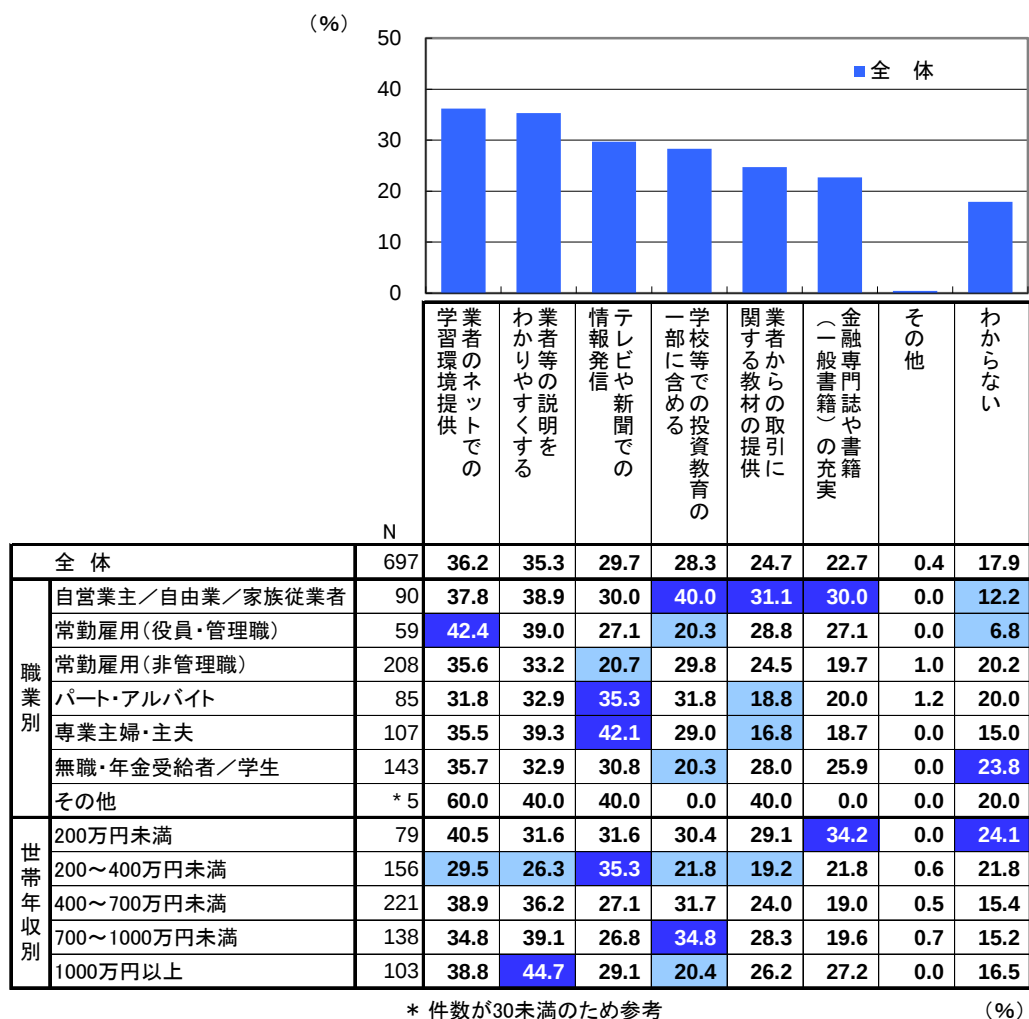
Q8 先物取引・オプション取引・証拠金取引・CFD 取引 理解するのにあるとよい方法（複数回答）／内容理解者または内容を理解したい人ベース



職業別にみると、「業者等のインターネットでの学習環境提供」は常勤雇用(役員・管理職)で、「テレビや新聞での情報発信」はパート・アルバイトや専業主婦・主夫で、「学校等での投資教育の一部に含める」「業者等からの取引に関する教材の提供」「金融専門誌や書籍の充実」は自営業主／自由業／家族従業者で高い傾向がみられる。

世帯年収別では、「業者等の説明をわかりやすく」は、1000万円以上の層で高い。

Q8 先物取引・オプション取引・証拠金取引・CFD取引 理解するのにあるとよい方法(複数回答)／内容理解者または内容を理解したい人ベース



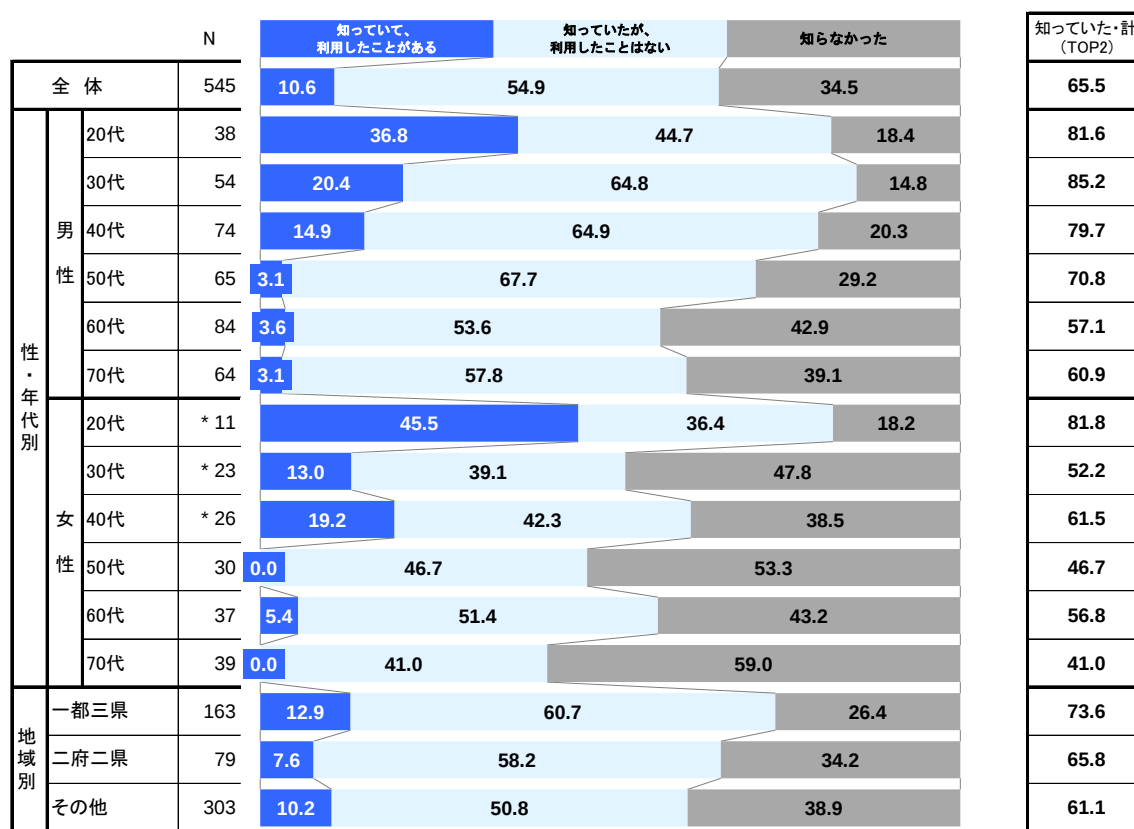
全体と比べ5ポイント以上高い
全体と比べ5ポイント以上低い

「ヘッジ取引」の認知度について、先物・オプション・証拠金・CFD 取引のいずれかを「十分に理解している」または「知っているが十分には理解していない」と回答した人に聞いた結果では、「知っていて、利用したことがある」が10.6%、「知っていたが、利用したことはない」が54.9%で、この2つを合わせた認知者は65.5%であった。

性・年代別にみると、男性の20代では「知っていて、利用したことがある」が36.8%と高く、以下30代で20.4%、40代で14.9%と高齢になるにつれて低くなっている。50代以上になると利用経験者は1割未満となり、低い。(女性は層別のサンプル数が少ないため、数値は参考値)

地域別にみると、『知っていた・計』は一都三県、二府二県、その他の順に高い。

Q9 ヘッジ取引についての認知／先物・オプション・証拠金・CFD取引いずれかを「十分に理解している」または「知っているが十分には理解していない」と回答した人ベース



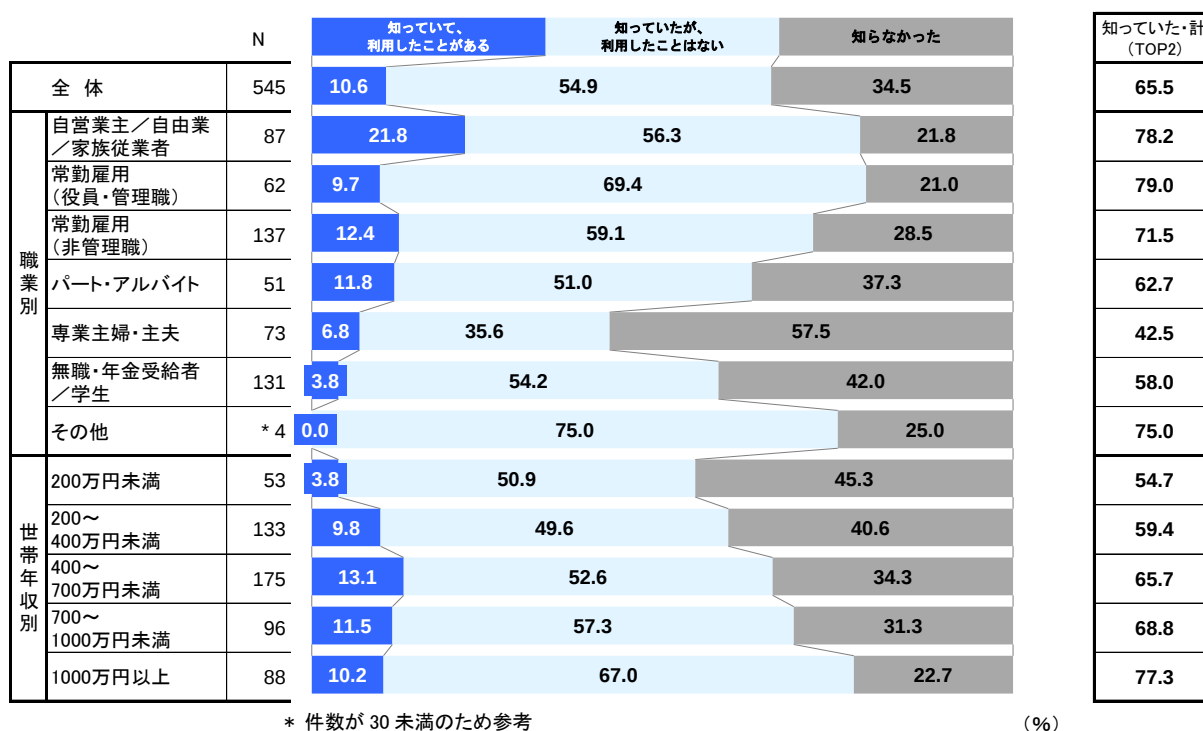
* 件数が30未満のため参考

(%)

職業別にみると、「知っていて、利用したことがある」は自営業主／自由業／家族従業者で 21.8%と高く、それ以外は 1 割前後で大きな差はみられない。『知っていた・計』でみると、常勤雇用（役員・管理職）および自営業主／自由業／家族従業者が 8 割弱、常勤雇用（非管理職）が 71.5%、パート・アルバイトが 62.7%と、差がみられる。

世帯年収別では、『知っていた・計』でみると年収が高い層ほど、高い。

Q9 ヘッジ取引についての認知／先物・オプション・証拠金・CFD 取引いずれかを「十分に理解している」または「知っているが十分には理解していない」と回答した人ベース

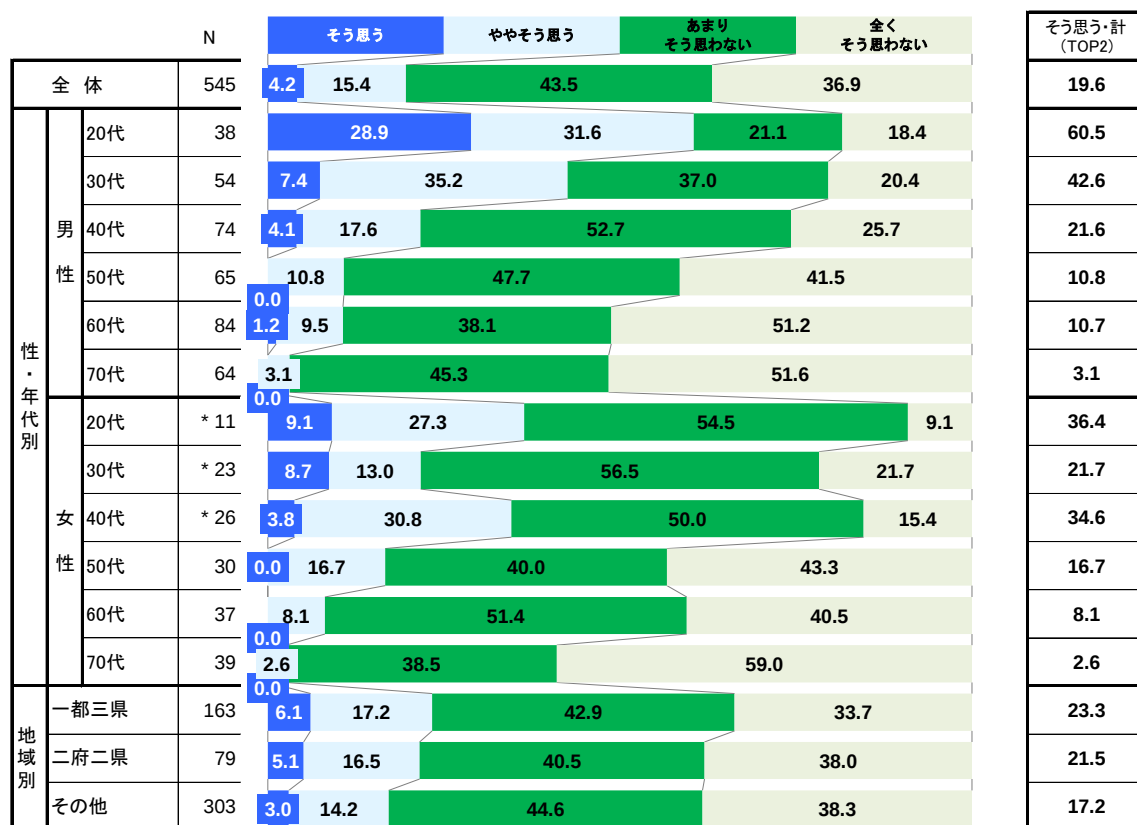


先物・オプション・証拠金・CFD取引を、投資を検討している人に勧めたいかについては、「そう思う」が4.2%、「ややそう思う」が15.4%で、この2つを合わせた『そう思う・計』は19.6%であった。

性・年代別にみると、男性の20代では「そう思う」が28.9%と高く、『そう思う・計』は6割に達していて、推奨意向が高い。男性では、年齢が上がるほど、『そう思う・計』は低くなっている。(女性は層別のサンプル数が少ないため、数値は参考値)

地域別にみると、『そう思う・計』は一都三県・二府二県に比べて、その他の地域ではやや低い。

Q10 先物取引・オプション取引・証拠金取引・CFD取引を勧めたいか／先物・オプション・証拠金・CFD取引いずれかを「十分に理解している」または「知っているが十分には理解していない」と回答した人ベース



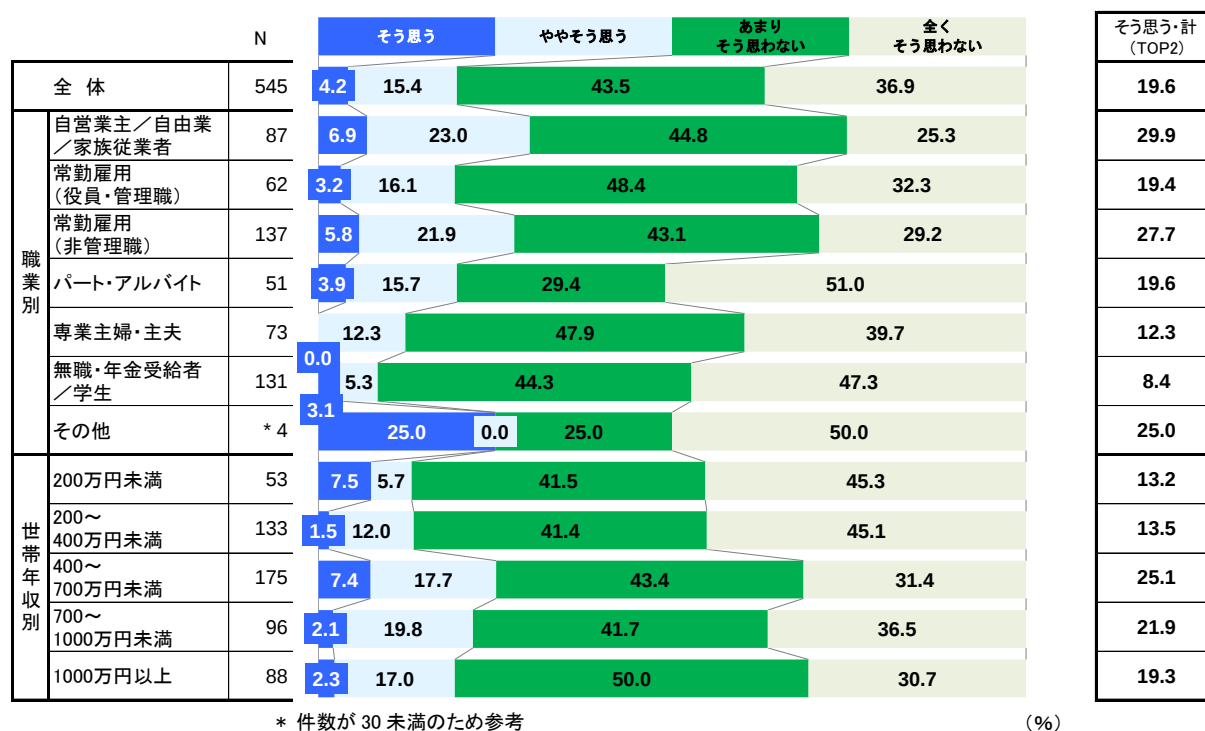
* 件数が30未満のため参考

(%)

職業別にみると、『そう思う・計』は自営業主／自由業／家族従業者および常勤雇用（非管理職）で3割弱と他より高く、それ以外は2割未満となっている。

世帯年収別では、『そう思う・計』でみると、年収400万円以上の層では2割前後で、400万円未満の層よりも推奨意向が高い。

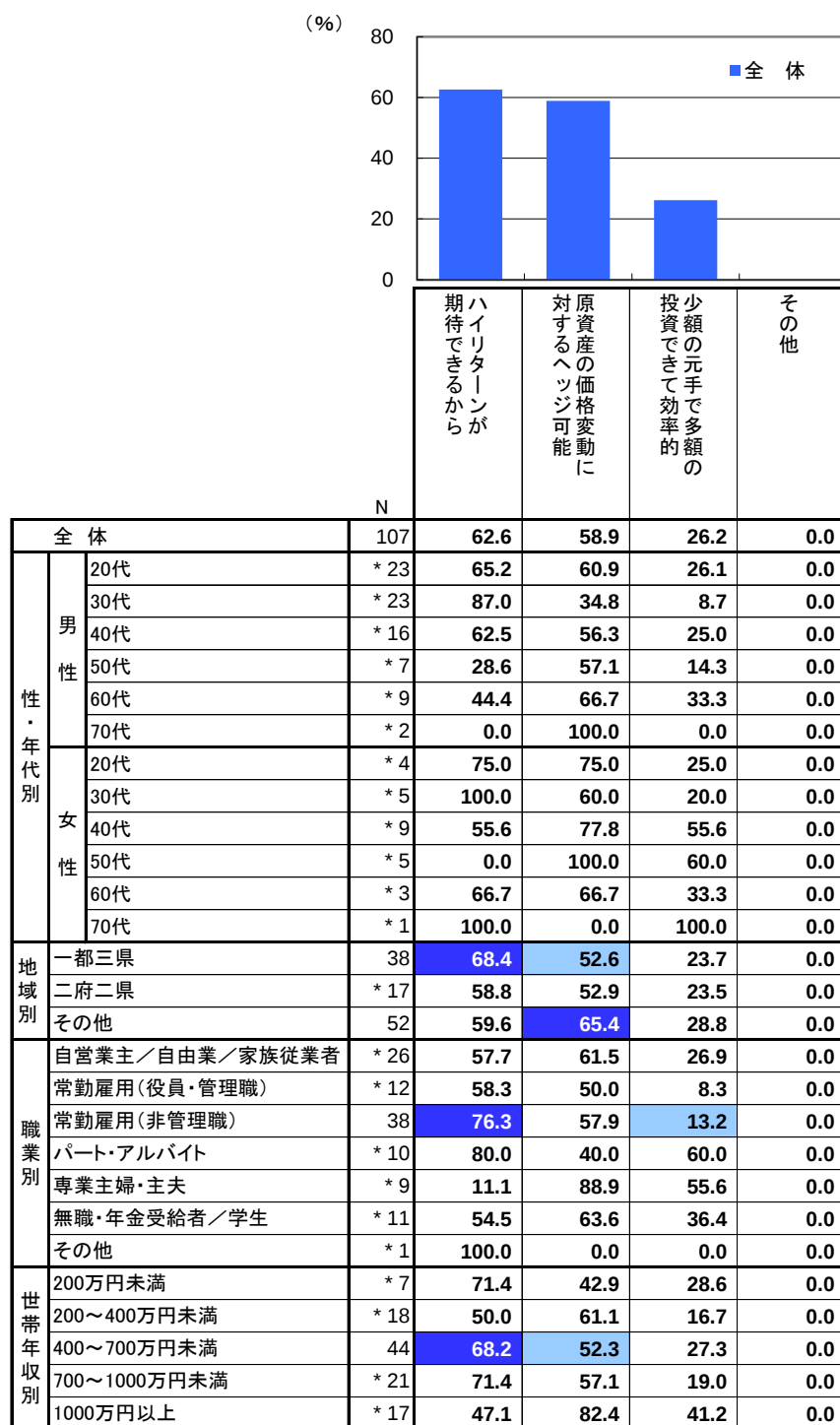
Q10 先物取引・オプション取引・証拠金取引・CFD取引を勧めたいか／先物・オプション・証拠金・CFD取引いずれかを「十分に理解している」または「知っているが十分には理解していない」と回答した人ベース



先物・オプション・証拠金・CFD 取引を、勧めたい理由としては、「ハイリターンが期待できるから」が 62.6%、「現物株式や外国通貨などの原資産の価格変動に対するリスクヘッジができるから」が 58.9%と、この 2 項目が 5 割を超えている。「少額の元手で多額の投資ができて効率的だから」は 26.2%であった。

(属性別は、サンプル数些少のため、参考値)

Q11 先物取引・オプション取引・証拠金取引・CFD 取引 勧めたい理由 (複数回答) / 左記取引を「勧めたい」と回答した人ベース



* 件数が30未満のため参考

(%)

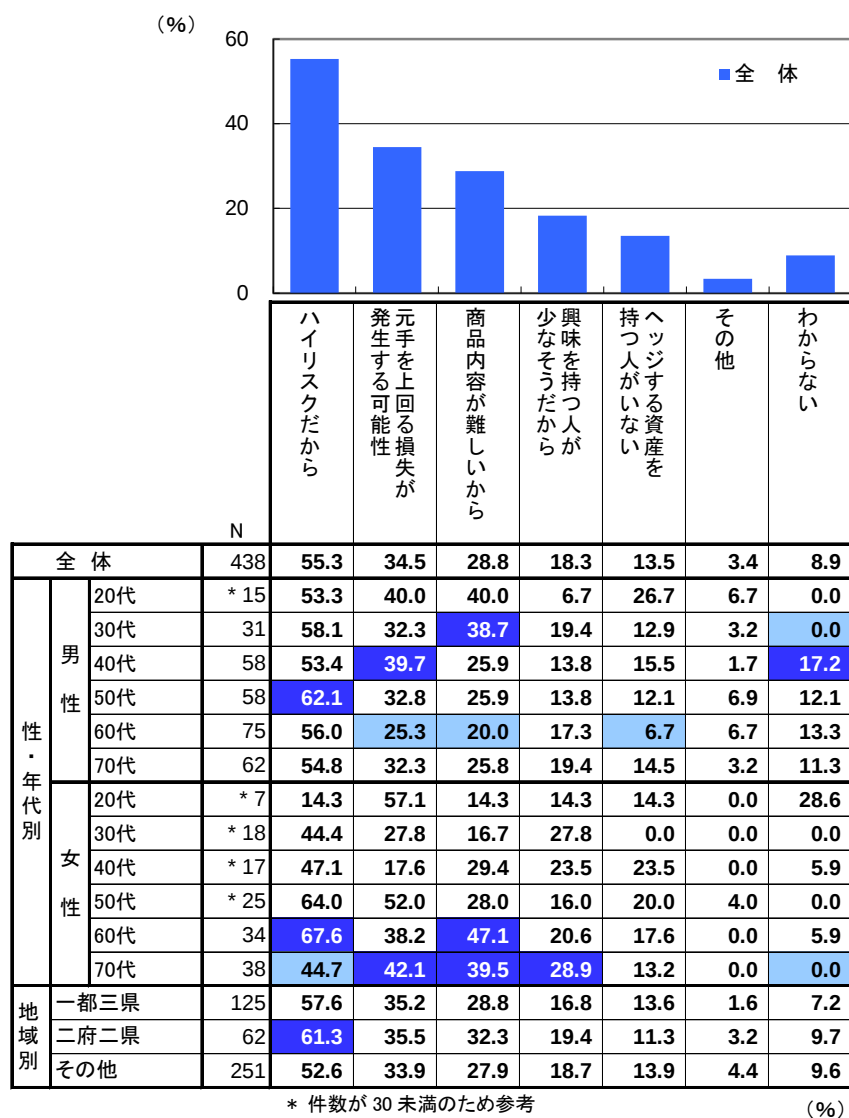
全体と比べ5ポイント以上高い
全体と比べ5ポイント以上低い

先物・オプション・証拠金・CFD取引を、勧めたくない理由としては、「ハイリスクだから」が55.3%で最も高く、次いで「元手を上回る損失が発生する可能性があるから」が34.5%、「商品内容が難しいから」が28.8%等となった。

性・年代別にみると、男性では「ハイリスクだから」は50代で高く、「元手を上回る損失が発生する可能性がある」は40代で他より高い等の特徴がみられる。(女性は層別のサンプル数が少ないため、数値は参考値)

地域別にみると、「ハイリスクだから」は二府二県で他に比べてやや高い。

Q12 先物取引・オプション取引・証拠金取引・CFD取引 勧めたくない理由(複数回答)／左記取引を「勧めたくない」と回答した人ベース

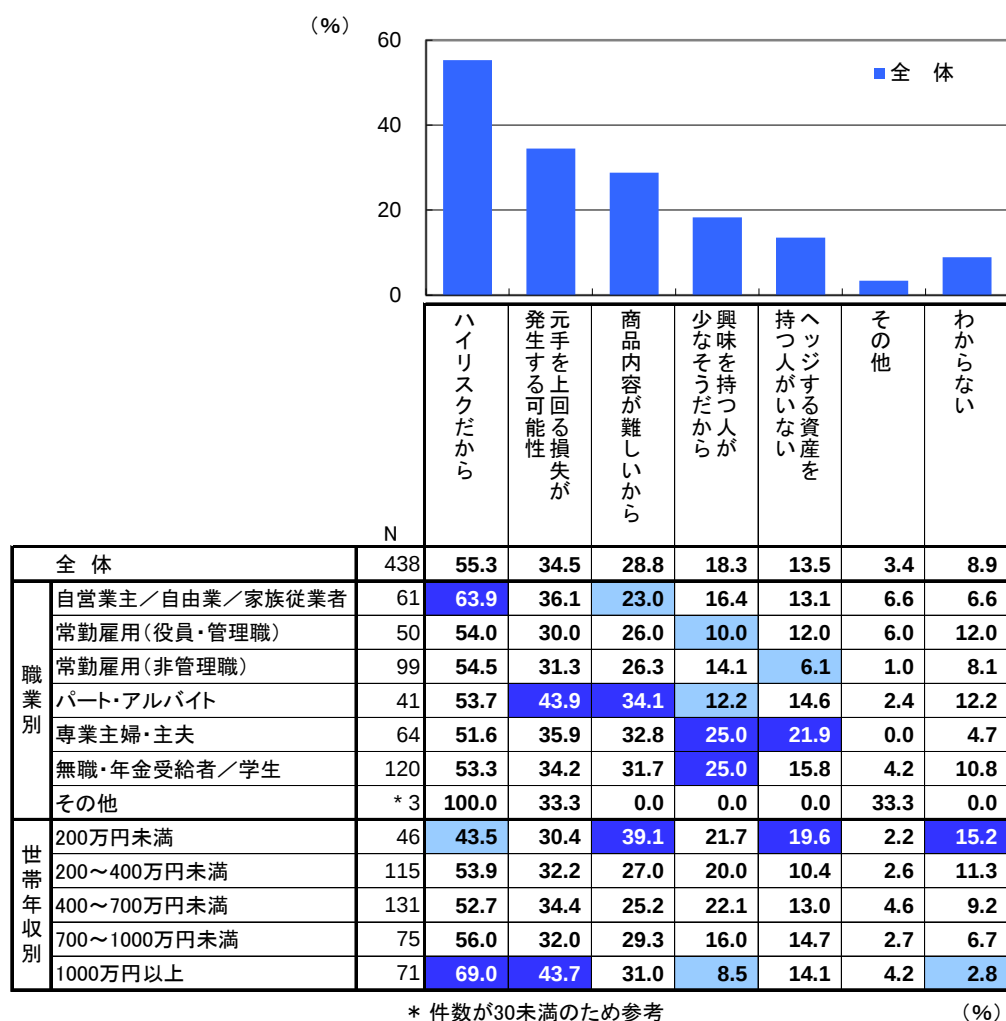


全体と比べ5ポイント以上高い
全体と比べ5ポイント以上低い

職業別にみると、「ハイリスクだから」は自営業主／自由業／家族従業者で、「元手を上回る損失が発生する可能性がある」「商品内容が難しい」はパート・アルバイトで、「興味を持つ人が少なそう」は専業主婦・主夫や無職・年金受給者／学生で高い、等の特徴がみられる。

世帯年収別にみると、1000 万円以上の年収が高い層では「ハイリスクだから」「元手を上回る損失が発生する可能性がある」が高いが、200 万円未満の低い層では「商品内容が難しい」「リスクヘッジをする必要のある資産を、保有している相手がいない」が高くなっている。また、「わからない」は年収が低い層ほど高くなっている。

Q12 先物取引・オプション取引・証拠金取引・CFD 取引 勧めたくない理由（複数回答）／左記取引を「勧めたくない」と回答した人ベース



■ 全体と比べ5ポイント以上高い
■ 全体と比べ5ポイント以上低い

3. デリバティブ取引について

デリバティブ取引を行う場合、どの方法によって投資したいかについては、「いずれの方法によっても取引は行わない」が42.4%と最も高いものの、「直接自分で行うほうが良い」(12.9%)、「プロに任せて間接的に投資を行うほうが良い」(12.4%)、「直接投資と間接投資を状況によって使い分ける」(10.1%)となっており、それぞれの方法は1割程度ずつみられる結果となった。

性・年代別にみると、男性は20代で「直接自分で」と「プロに任せて」が2割ずつと最も高く、高齢になるほど「取引は行わない」が高まっている。女性も、20～40代に比べて高齢の50代以上では「取引は行わない」の比率が高くなっている。

地域別には、特徴的な差がみられない。

Q13 デリバティブ取引を行う場合に投資したい方法

			N	直接自分で 行うほうが良い	プロに任せて間接的 に投資がよい	直接投資と間接 投資を使い分ける	いずれの方法でも 取引は行わない	わからない
全 体			2000	12.9	12.4	10.1	42.4	22.3
性・ 年代別	男 性	20代	134	20.9	20.1	9.7	20.9	28.4
		30代	169	16.6	18.9	15.4	27.8	21.3
		40代	197	17.8	13.2	14.2	33.0	21.8
		50代	163	12.9	12.3	11.7	33.7	29.4
		60代	188	16.0	6.9	8.5	54.3	14.4
		70代	136	9.6	11.8	4.4	58.8	15.4
	女 性	20代	130	14.6	8.5	10.8	29.2	36.9
		30代	165	10.9	18.8	14.5	29.7	26.1
		40代	194	11.3	13.9	11.3	31.4	32.0
		50代	166	7.2	9.0	9.6	57.8	16.3
		60代	196	9.7	8.2	6.6	61.2	14.3
		70代	162	7.4	8.6	3.1	65.4	15.4
地 域 別	一都三県		584	16.1	13.2	9.1	42.1	19.5
	二府二県		290	12.8	11.0	13.1	42.8	20.3
	その他		1126	11.2	12.3	9.9	42.4	24.2

(%)

職業別にみると、常勤雇用（役員・管理職）では「直接自分で行う」が22.8%と高い。また、常勤雇用（非管理職）も「直接自分で」「プロに任せて」「直接投資と間接投資を使い分け」がそれぞれ1割半ずつとなっており、常勤雇用者では「取引は行わない」が3割前後と、他の層より低く、何らかの方法で取引をしたい意向が高い。

世帯年収別にみると、何らかの方法で「投資したい」と考えている比率は、年収が高い層ほど高くなる傾向がみられる。

Q13 デリバティブ取引を行う場合に投資したい方法

		N	直接自分で行うほうが良い	プロに任せて間接的に投資がよい	直接投資と間接投資を使い分ける	いずれの方法でも取引は行わない	わからない
職業別	全 体	2000	12.9	12.4	10.1	42.4	22.3
	自営業主／自由業／家族従業者	213	13.1	16.0	9.9	39.4	21.6
	常勤雇用（役員・管理職）	127	22.8	16.5	11.0	29.1	20.5
	常勤雇用（非管理職）	474	15.8	16.5	16.2	31.0	20.5
	パート・アルバイト	258	12.8	10.9	9.3	40.7	26.4
	専業主婦・主夫	444	8.3	9.0	8.6	55.9	18.2
	無職・年金受給者／学生	466	11.6	9.2	5.8	46.8	26.6
	その他	* 18	5.6	22.2	5.6	44.4	22.2
世帯年収別	200万円未満	307	12.4	7.5	6.5	42.7	30.9
	200～400万円未満	537	10.8	11.2	6.3	48.2	23.5
	400～700万円未満	641	11.1	14.0	12.0	42.3	20.6
	700～1000万円未満	306	19.6	14.7	11.8	35.6	18.3
	1000万円以上	209	14.4	14.4	16.7	36.8	17.7

* 件数が30未満のため参考

(%)

金融商品を売買する際に、自動売買を利用したいかについてみると、「利用したい」は11.6%、「利用したくない」が60.2%であった。

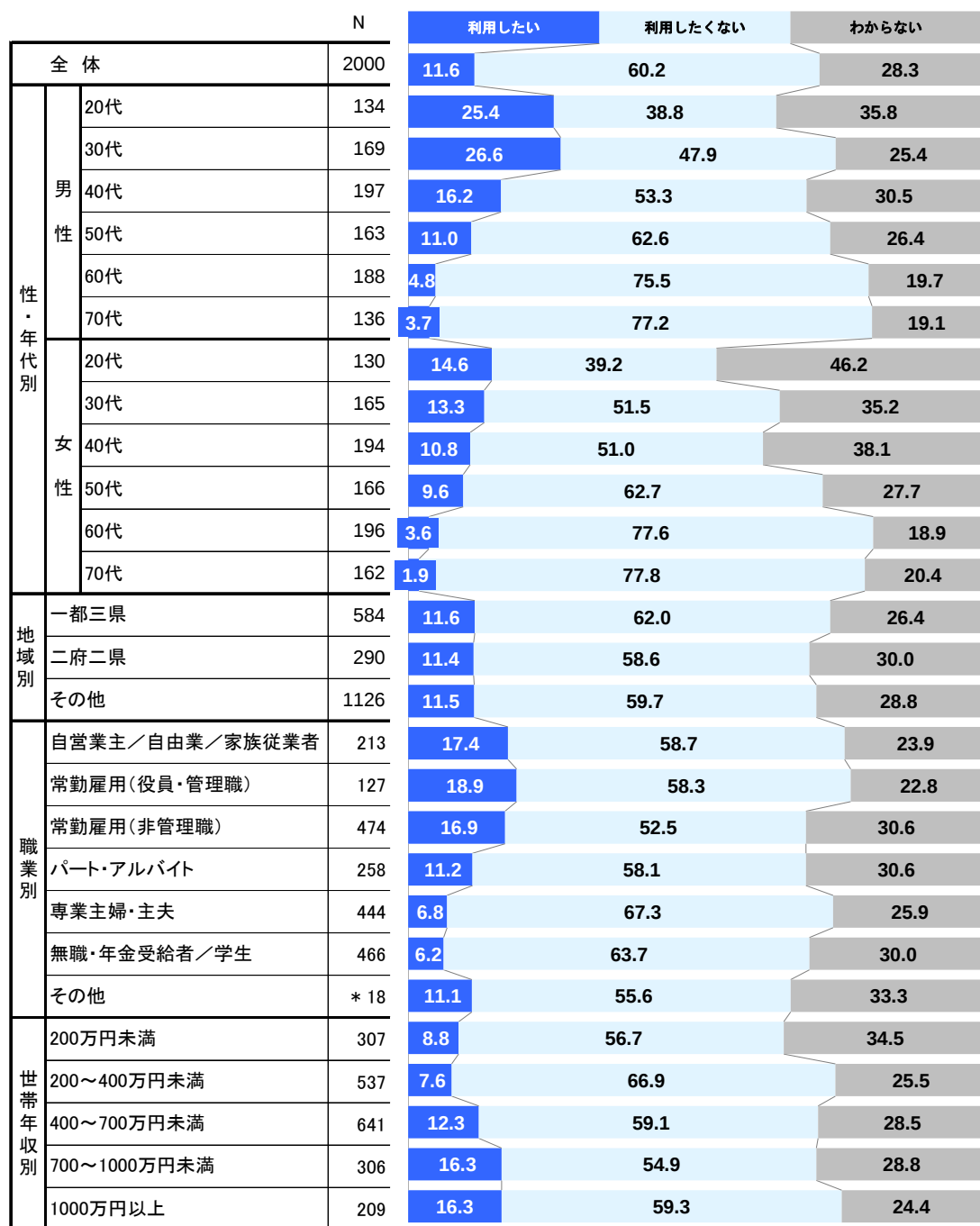
性・年代別にみると、利用意向は女性より男性で高く、いずれも若年層ほど意向が高くなっている。特に男性20～30代では利用意向が2割半と高い。

地域別には、差がみられない。

職業別では、自営業主／自由業／家族従業者および常勤雇用で他に比べて利用意向が高い。

世帯年収別では、700万円以上の層で、それより低い層に比べて利用意向が高くなっている。

Q14 金融商品売買の際の、自動売買利用意向



* 件数が30未満のため参考

(%)

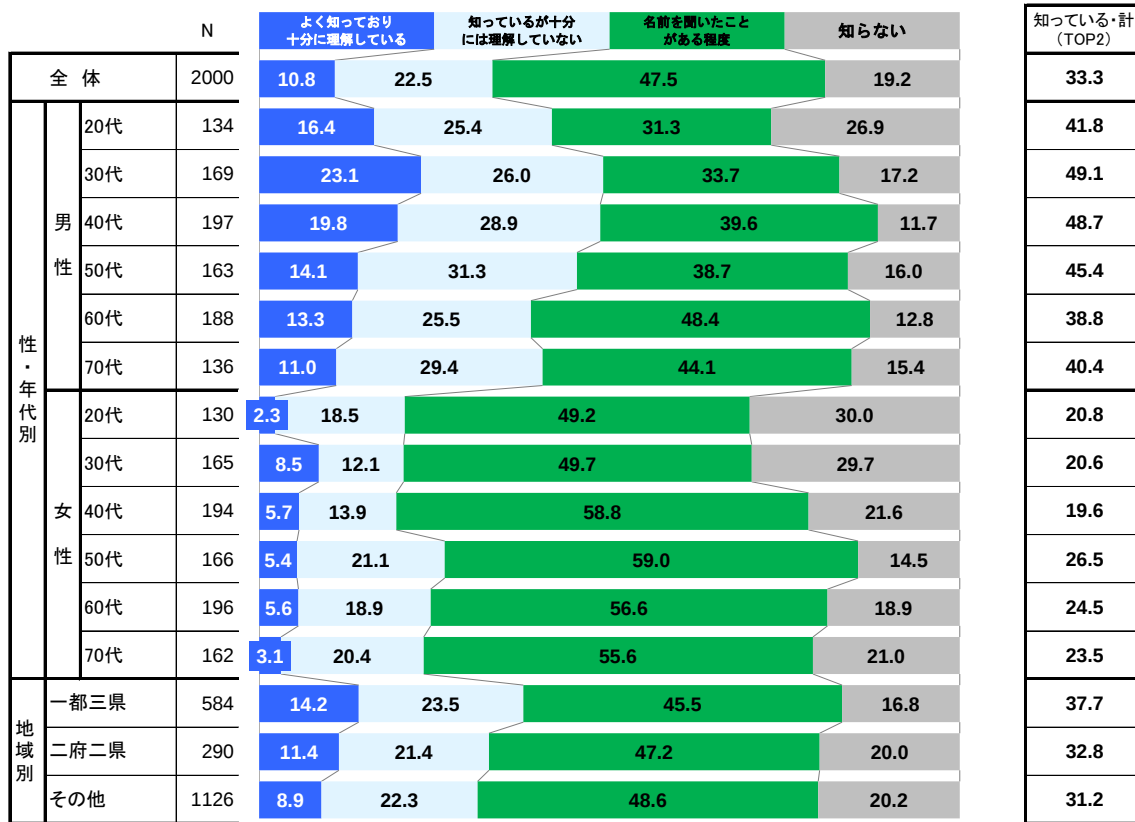
4. 外国為替証拠金取引（FX）について

外国為替証拠金取引（FX）の認知については、「よく知っており、内容を十分に理解している」が10.8%、「知っているが、内容を十分には理解していない」が22.5%で、この2つを合わせた『知っている・計』は33.3%であった。

性・年代別にみると、認知度は男性で女性より高く、男性では30～40代で『知っている・計』が他よりやや高くなっている。女性では、50代以上で若い層に比べて『知っている・計』が高い傾向がみられる。

地域別では、一都三県で、二府二県やその他に比べて『知っている・計』が高い。

Q15 外国為替証拠金取引（FX） 認知

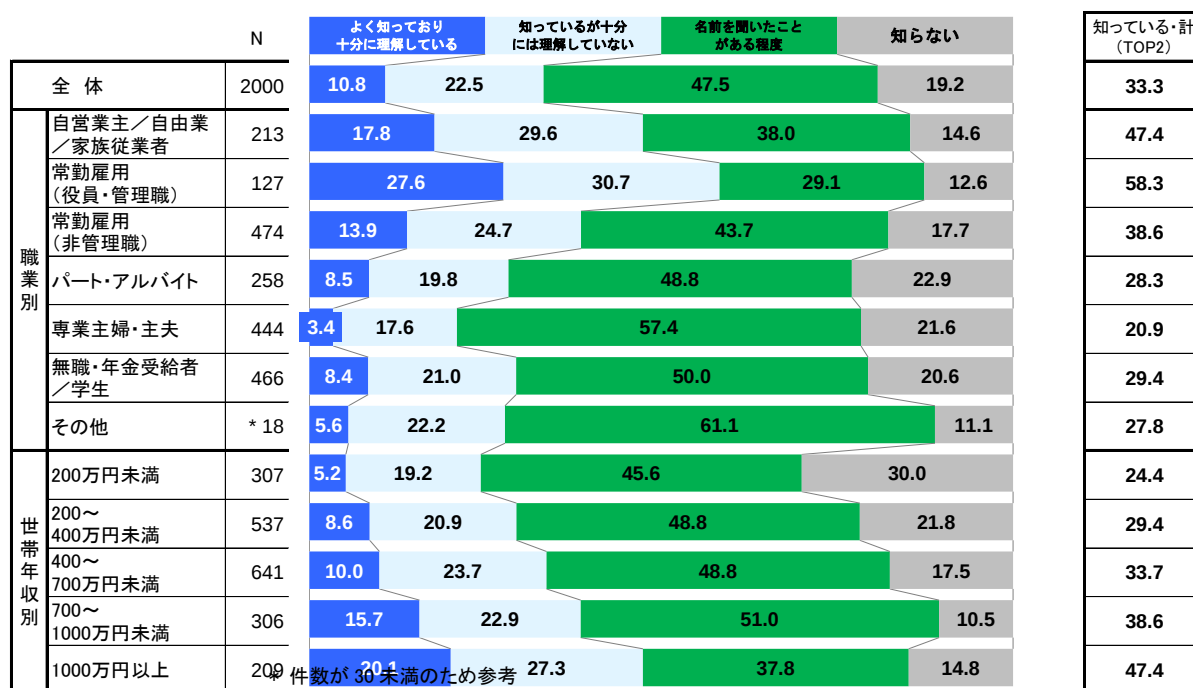


(%)

職業別にみると、常勤雇用（役員・管理職）では「よく知っており、十分に理解している」が27.6%と、他に比べて高く、『知っている・計』も58.3%と5割を超えており、高い。次いで自営業主／自由業／家族従業者、常勤雇用（非管理職）の順に、認知度は高くなっている

世帯年収別にみると、年収が高まるにつれて内容理解度、認知度ともに顕著に高くなっている。

Q15 外国為替証拠金取引（FX）認知

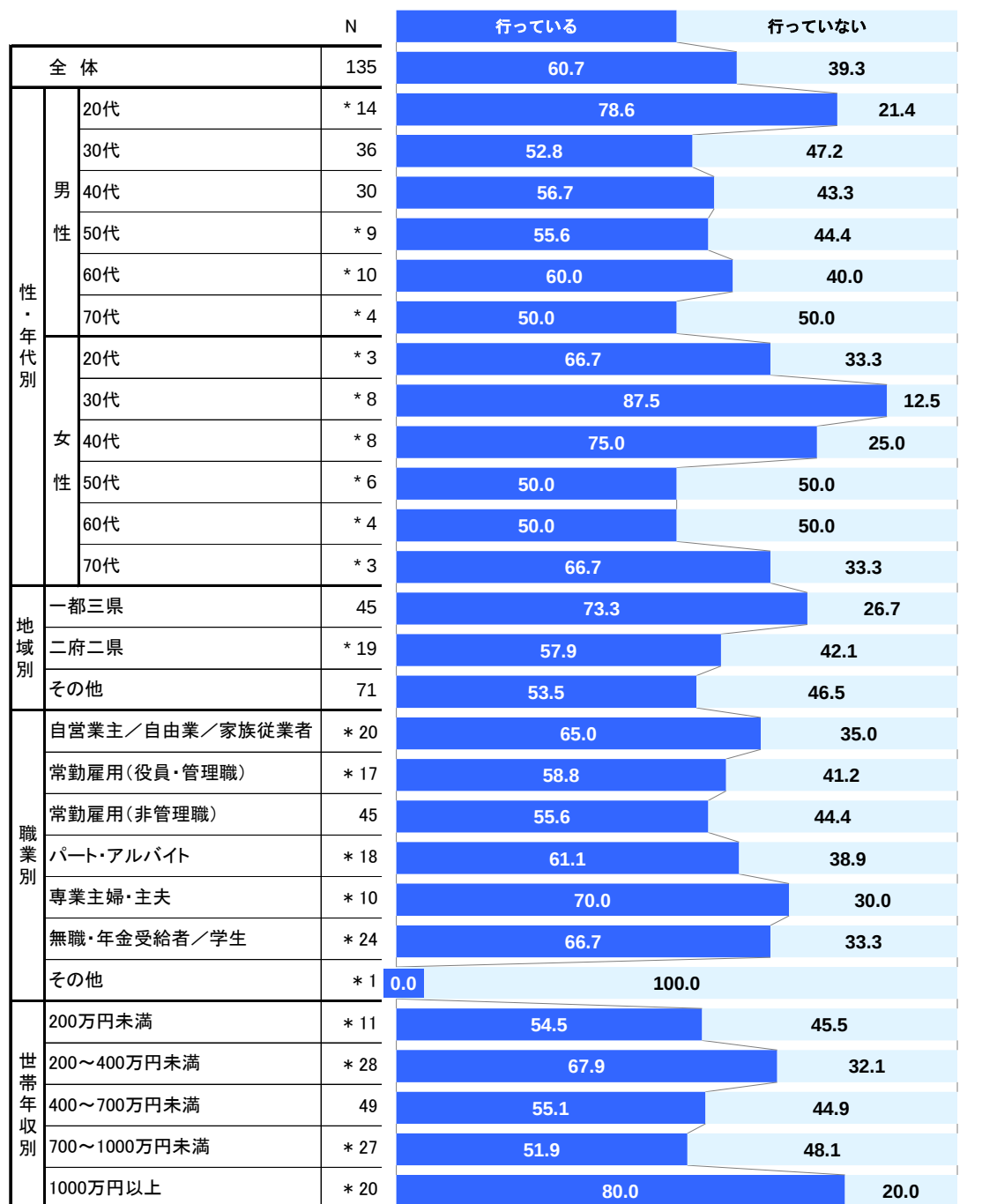


(%)

外国為替証拠金取引(F X)経験者に対して、現在の取引状況を聞いた結果では、現在も取引を「行っている」人が60.7%と多数を占めている。

(属性別は、サンプル数些少のため、参考値)

Q16 外国為替証拠金取引 (F X) 取引状況／外国為替証拠金取引(F X)経験者ベース



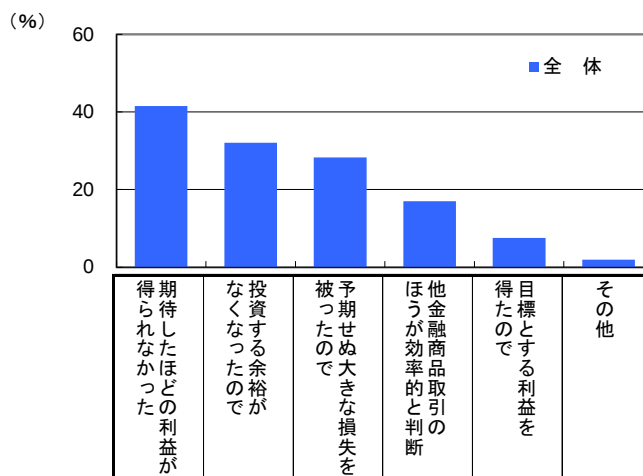
* 件数が30未満のため参考

(%)

外国為替証拠金取引(FX)経験者で現在取引を行っていない人が、取引していない理由としては、「期待したほどの利益が得られなかったのが」41.5%で最も高く、次いで「投資する余裕がなくなったのが」(32.1%)、「急激な相場変動によって、予期せぬ大きな損失を被ったのが」(28.3%)等となっている。

(属性別は、サンプル数些少のため、参考値)

Q17 外国為替証拠金取引 (FX) 取引していない理由 (複数回答) / 外国為替証拠金取引 (FX) 経験者で、現在取引を行っていない人ベース



		N							
全 体		53	41.5	32.1	28.3	17.0	7.5	1.9	
性・年代別	男 性	20代	* 3	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
		30代	* 17	35.3	35.3	29.4	17.6	5.9	5.9
		40代	* 13	53.8	30.8	23.1	23.1	7.7	0.0
		50代	* 4	50.0	75.0	25.0	50.0	0.0	0.0
		60代	* 4	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0
		70代	* 2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	女 性	20代	* 1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
		30代	* 1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		40代	* 2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		50代	* 3	66.7	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0
		60代	* 2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
		70代	* 1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
地域別	一都三県	* 12	58.3	16.7	16.7	25.0	16.7	0.0	
	二府二県	* 8	25.0	25.0	37.5	37.5	0.0	12.5	
	その他	33	39.4	39.4	30.3	9.1	6.1	0.0	
職業別	自営業主／自由業／家族従業者	* 7	28.6	71.4	14.3	0.0	0.0	0.0	
	常勤雇用(役員・管理職)	* 7	42.9	28.6	28.6	42.9	0.0	14.3	
	常勤雇用(非管理職)	* 20	55.0	30.0	30.0	20.0	5.0	0.0	
	パート・アルバイト	* 7	14.3	28.6	28.6	14.3	14.3	0.0	
	専業主婦・主夫	* 3	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	
	無職・年金受給者／学生	* 8	37.5	12.5	37.5	12.5	25.0	0.0	
	その他	* 1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	世帯年収別	200万円未満	* 5	60.0	20.0	40.0	20.0	0.0	
200～400万円未満	* 9	22.2	55.6	0.0	11.1	11.1	0.0		
400～700万円未満	* 22	36.4	40.9	31.8	9.1	4.5	0.0		
700～1000万円未満	* 13	53.8	15.4	30.8	23.1	7.7	0.0		
1000万円以上	* 4	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	25.0		

* 件数が30未満のため参考

(%)

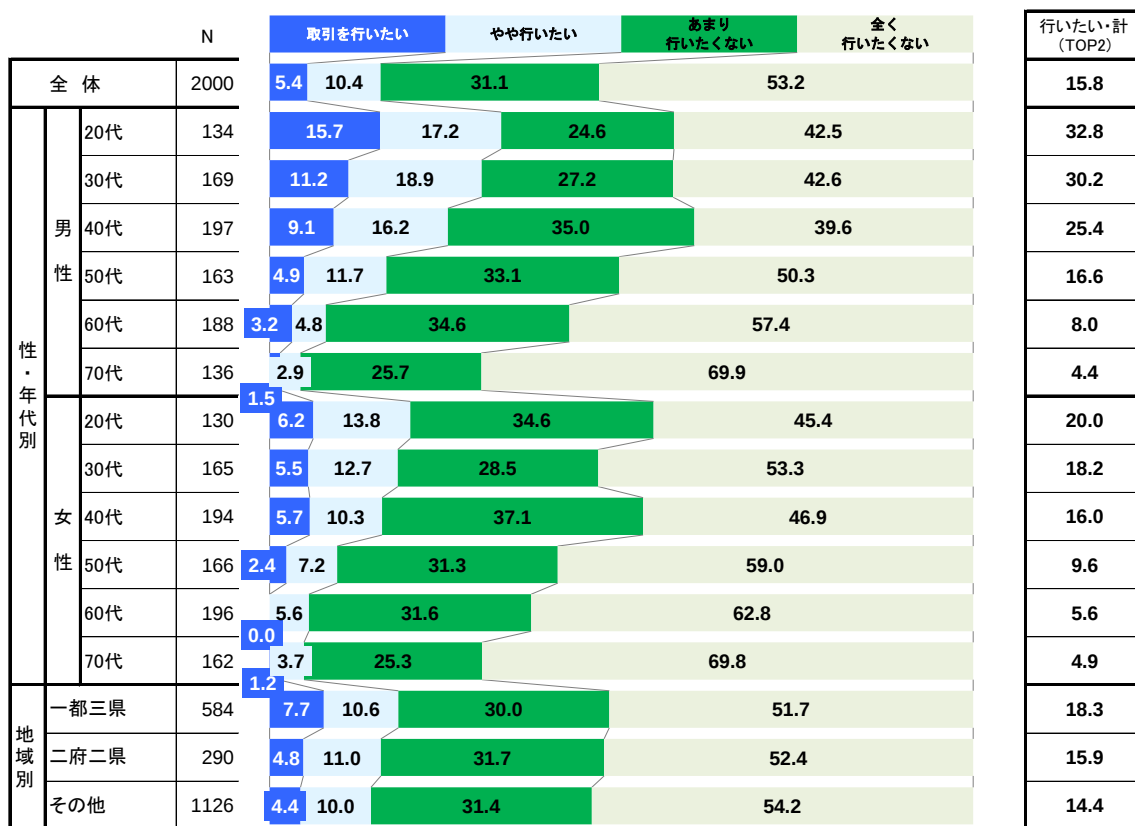
■ 全体と比べ5ポイント以上高い
■ 全体と比べ5ポイント以上低い

外国為替証拠金取引（FX）の、今後の取引開始（継続）意向をみると、「取引を行いたい」が5.4%、「やや行いたい」が10.4%で、『行いたい・計』は15.8%であった。

性・年代別にみると、取引意向は男性で女性より高く、また男女ともに若年層ほど意向が高くなっている。最も意向が高いのは男性20代で、『行いたい・計』で32.8%となっている。

地域別では、大きな差はみられない。

Q18 外国為替証拠金取引（FX） 取引開始（継続）意向

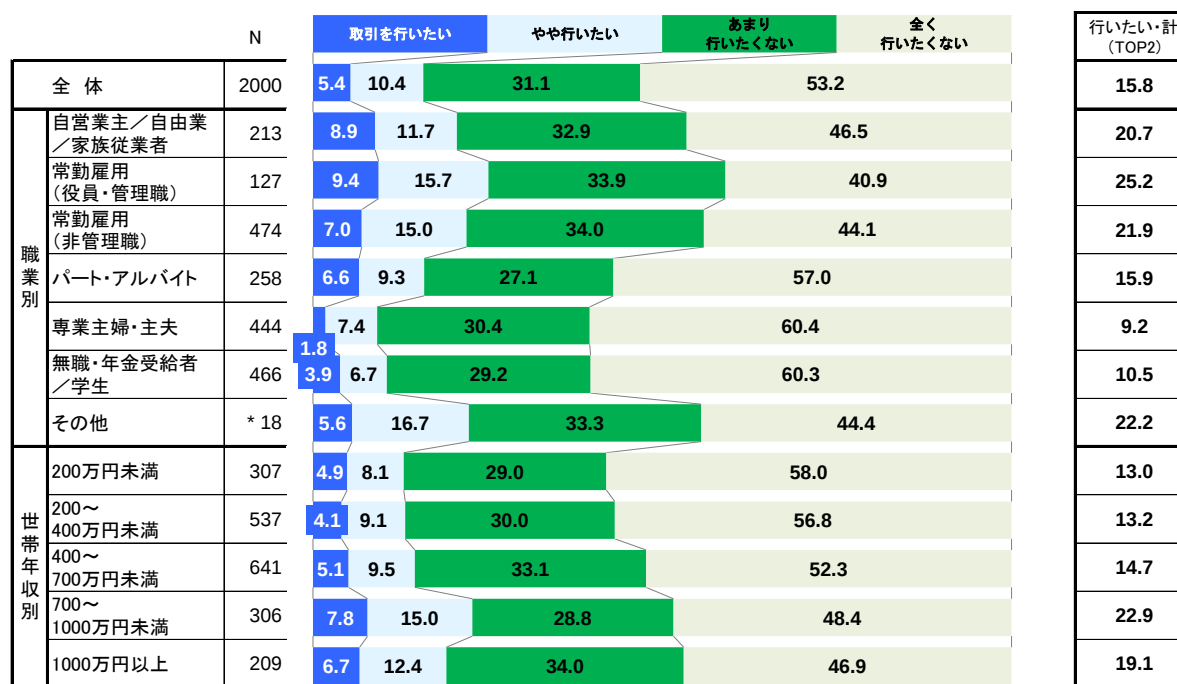


(%)

職業別にみると、常勤雇用（役員・管理職）で『行いたい・計』が最も高く 25.2%であった。次いで常勤雇用（非管理職）、自営業主／自由業／家族従業者の順に、高くなっている。

世帯年収別にみると、『行いたい・計』は 700 万円以上の層で、700 万円未満の層より高くなっている。

Q18 外国為替証拠金取引（FX） 取引開始（継続）意向



* 件数が 30 未満のため参考

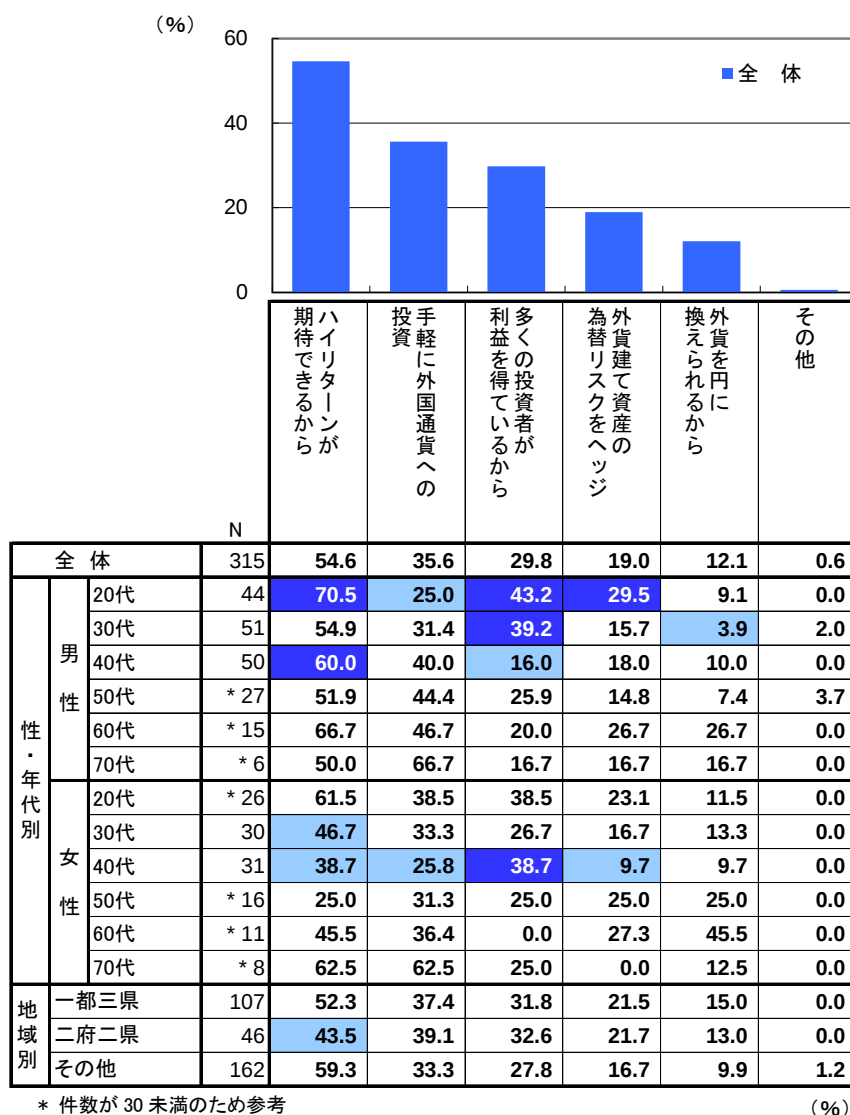
(%)

外国為替証拠金取引（FX）について、今後取引を行いたい理由としては、「ハイリターンが期待できるから」が54.6%で最も高い。以下、「手軽に外国通貨への投資が行えるから」（35.6%）、「多くの投資者が利益を得ているから」（29.8%）等が続く。

性・年代別にみると、「ハイリターンが期待できる」は男性20代・40代、「多くの投資者が利益を得ている」は男性20～30代で高い、等の傾向がみられる。

地域別には、特徴的な差がみられない。

Q19 外国為替証拠金取引（FX） 取引を行いたい理由（複数回答）／外国為替証拠金取引（FX）について今後取引意向がある人ベース

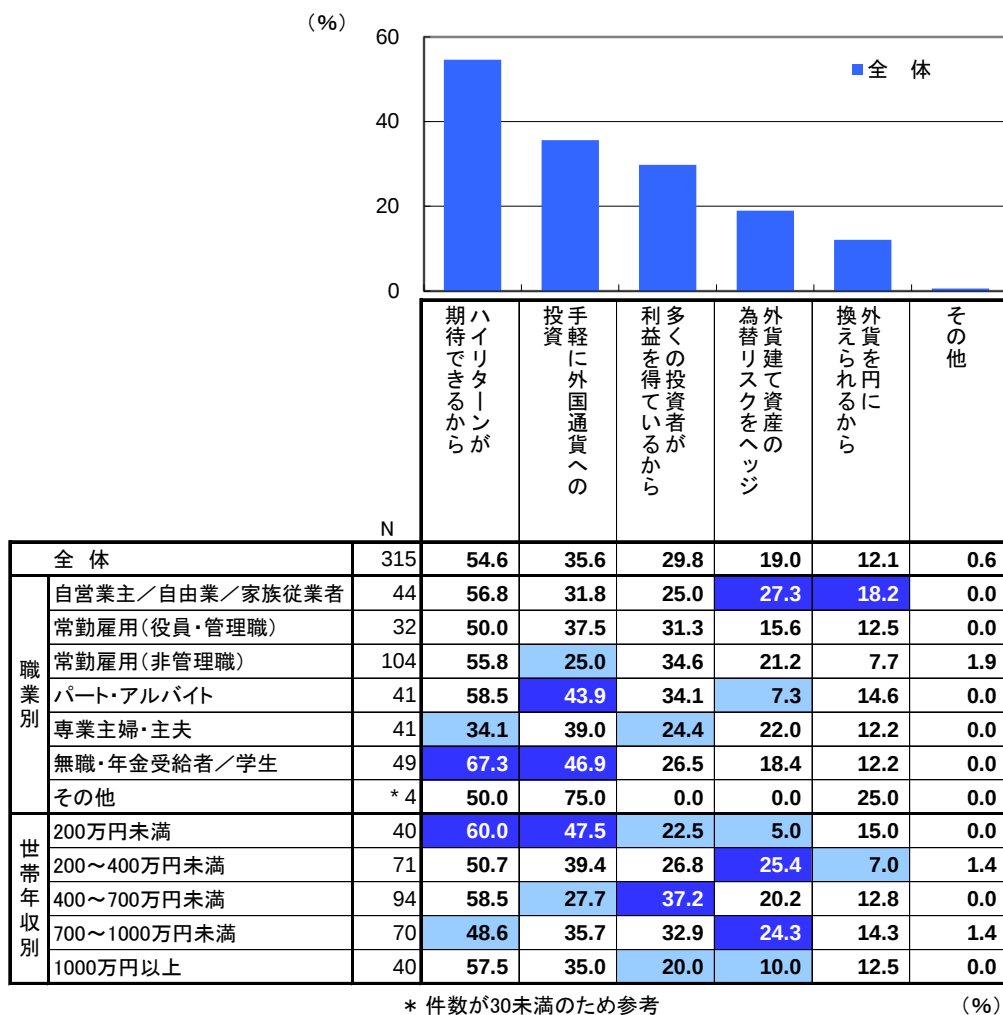


■ 全体と比べ5ポイント以上高い
■ 全体と比べ5ポイント以上低い

職業別にみると、「ハイリターンが期待できる」「手軽に外国通貨への投資が行える」は無職・年金受給者／学生で高く、「外貨建て資産（または負債）の為替リスクをヘッジしたい」「外貨の両替よりも有利に実物の外貨を入手できる」は自営業主／自由業／家族従業者で高くなっている。

世帯年収別には、特徴的な違いがみられない。

Q19 外国為替証拠金取引（FX） 取引を行いたい理由（複数回答）／外国為替証拠金取引（FX）について今後取引意向がある人ベース



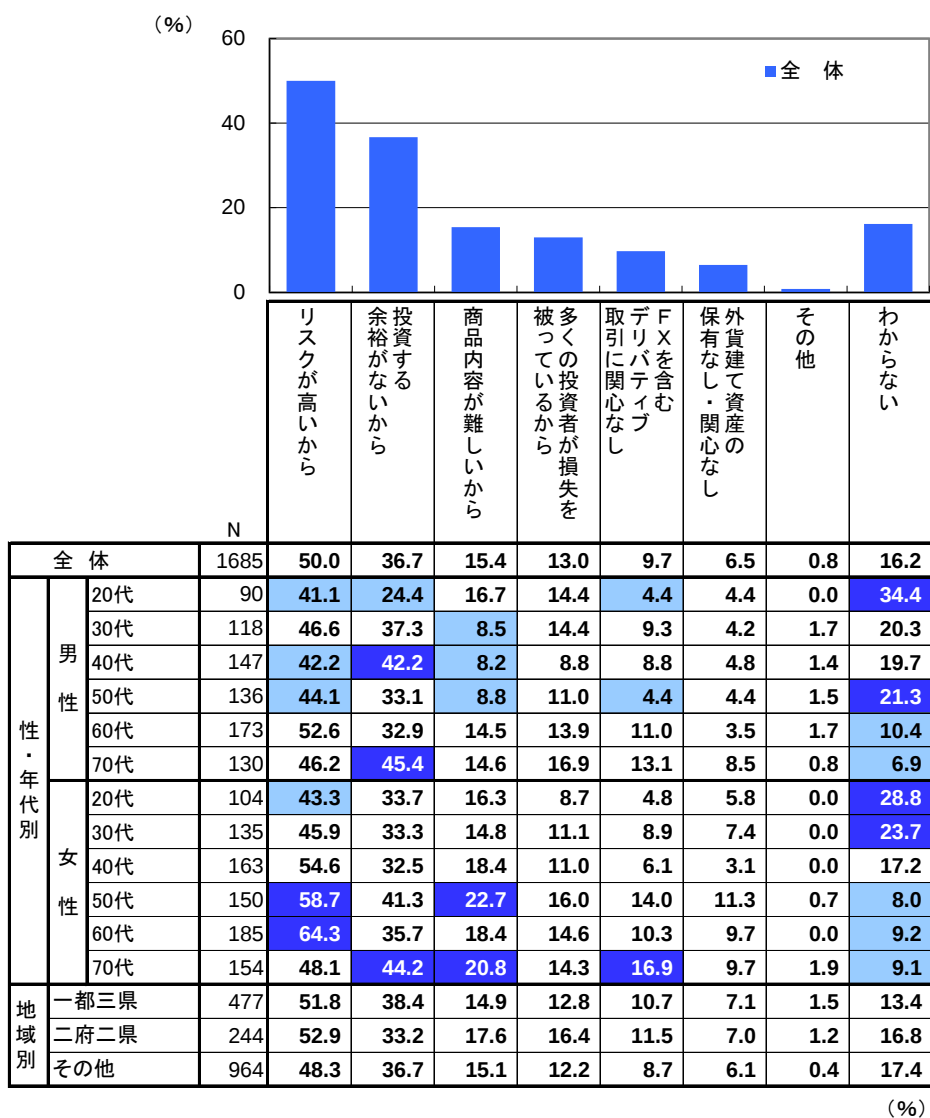
全体と比べ5ポイント以上高い
全体と比べ5ポイント以上低い

外国為替証拠金取引（FX）について、今後取引を行いたくない理由としては、「リスクが高いから」が 50.0%で最も高く、以下「投資する余裕がないから」（36.7%）、「商品内容が難しいから」（15.4%）等が続く。なお、「わからない」も 16.2%みられた。

性・年代別にみると、「リスクが高い」は女性 50～60 代で、「投資する余裕がない」は男性 40 代と 70 代、女性 70 代で、「商品内容が難しい」は女性 50・70 代でそれぞれ高くなっている。

地域別には、差がみられない。

Q20 外国為替証拠金取引（FX） 取引を行いたくない理由（複数回答）／外国為替証拠金取引（FX）について、今後の取引意向がない人ベース

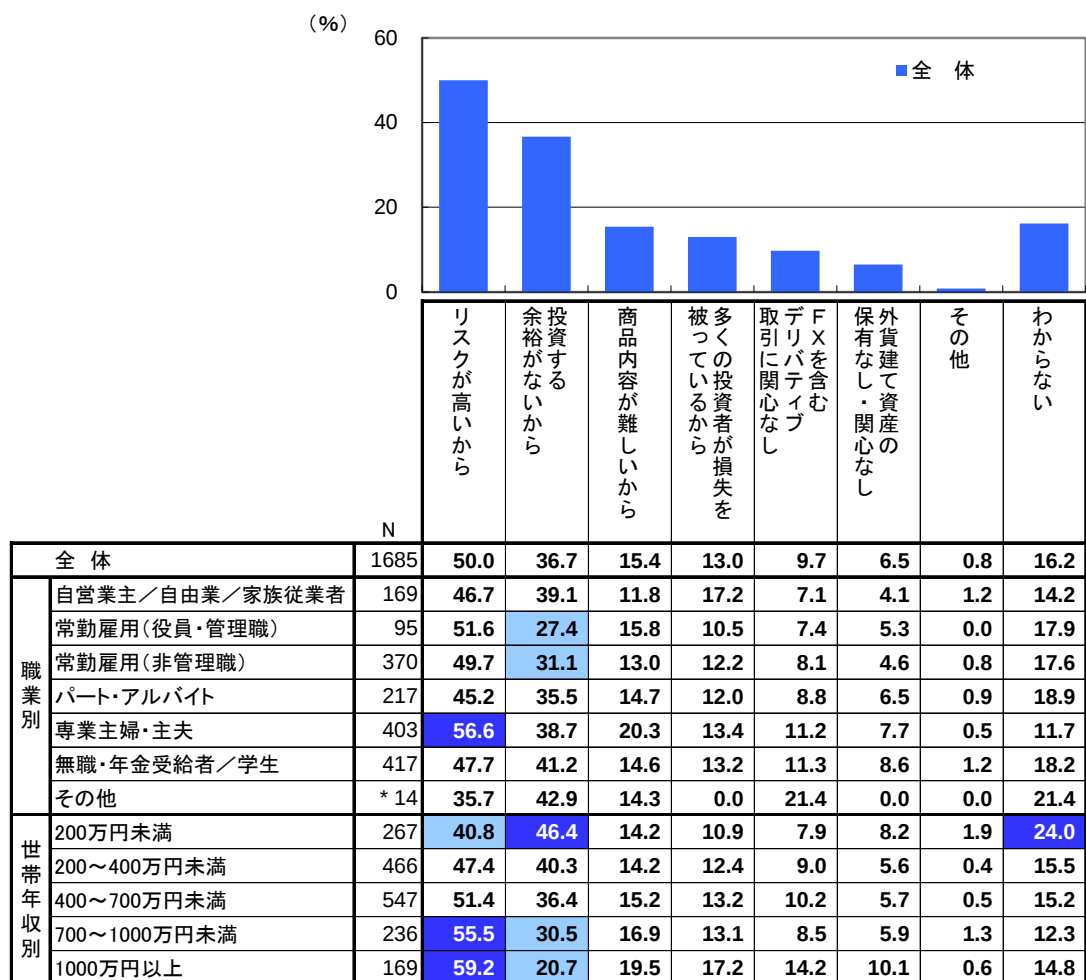


■ 全体と比べ5ポイント以上高い
■ 全体と比べ5ポイント以上低い

職業別にみると、「リスクが高いから」は専業主婦／主夫で他より高くなっている。

世帯年収別では、「リスクが高いから」は、年収が高い層ほど高くなっており、「投資する余裕がない」はこれとは逆に年収が低い層ほど高くなっている。

Q20 外国為替証拠金取引（FX） 取引を行いたくない理由（複数回答）／外国為替証拠金取引（FX）について、今後の取引意向がない人ベース



* 件数が30未満のため参考

(%)

	全体と比べ5ポイント以上高い
	全体と比べ5ポイント以上低い

外国為替証拠金取引（FX）について、上場取引と店頭取引の2つの市場があることを知っているかどうかをみると、「知っていた」は16.1%と少数派であった。

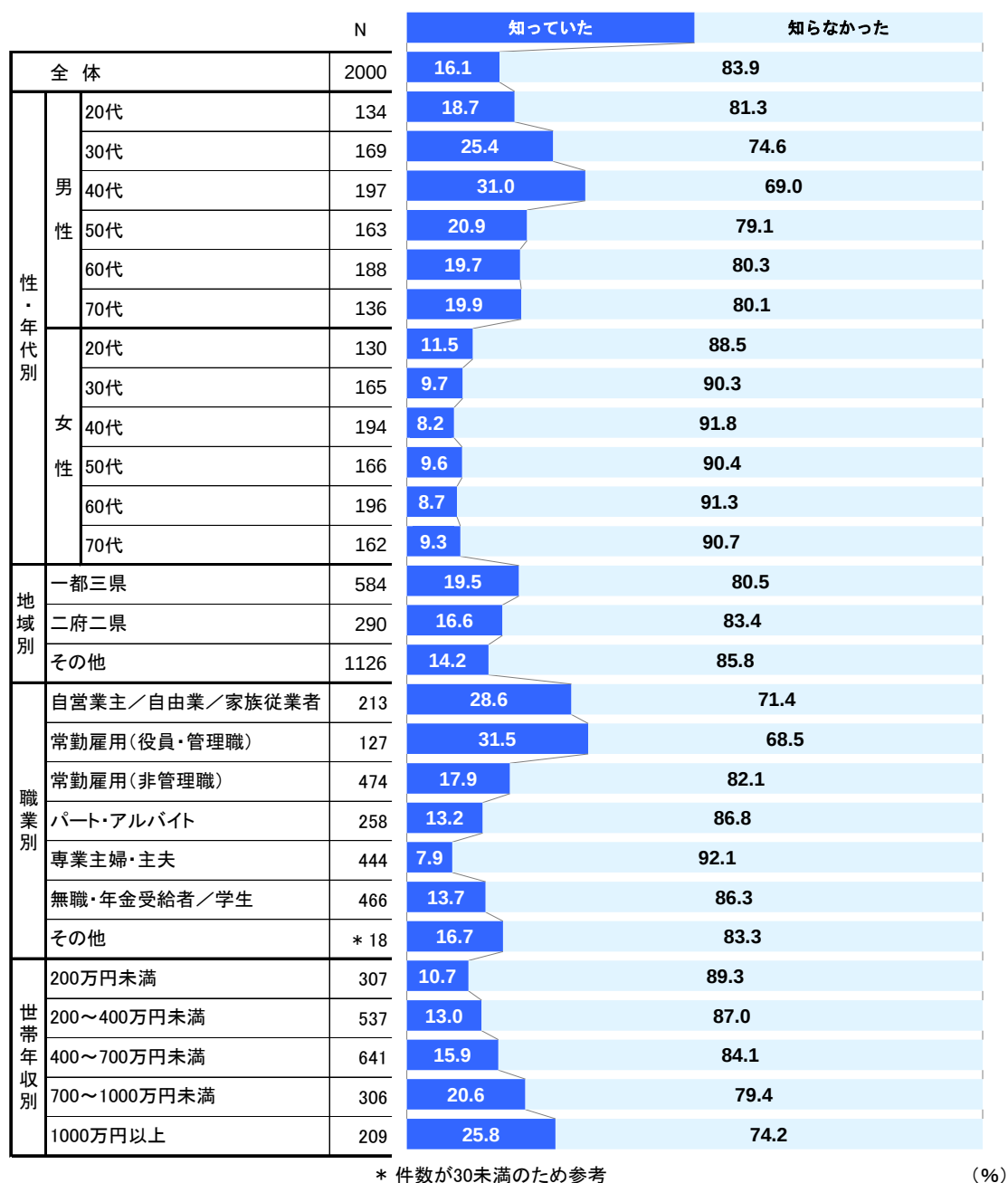
性・年代別にみると、「知っていた」は男性40代で31.0%と最も高く、次いで男性30代（25.4%）、男性50代（20.9%）等となっている。女性はいずれの年代も1割前後の認知率であった。

地域別には、大きな差ではないが、認知率は一都三県、二府二県、その他の順で高くなっている。

職業別にみると、常勤雇用（役員・管理職）、自営業主／自由業／家族従業者では、認知率が3割前後と他より高い。

世帯年収別では、年収が高い層ほど認知率も高くなっている。

Q21 外国為替証拠金取引（FX）／「上場取引」と「店頭取引」の2つの市場があることの認知



金融商品取引において、日本で登録した金融商品取引業者以外の者が、日本に居住する者を勧誘・取引することは違法であることを、知っていたかどうかについては、「知っていた」は14.9%と前問に続き、少数となった。

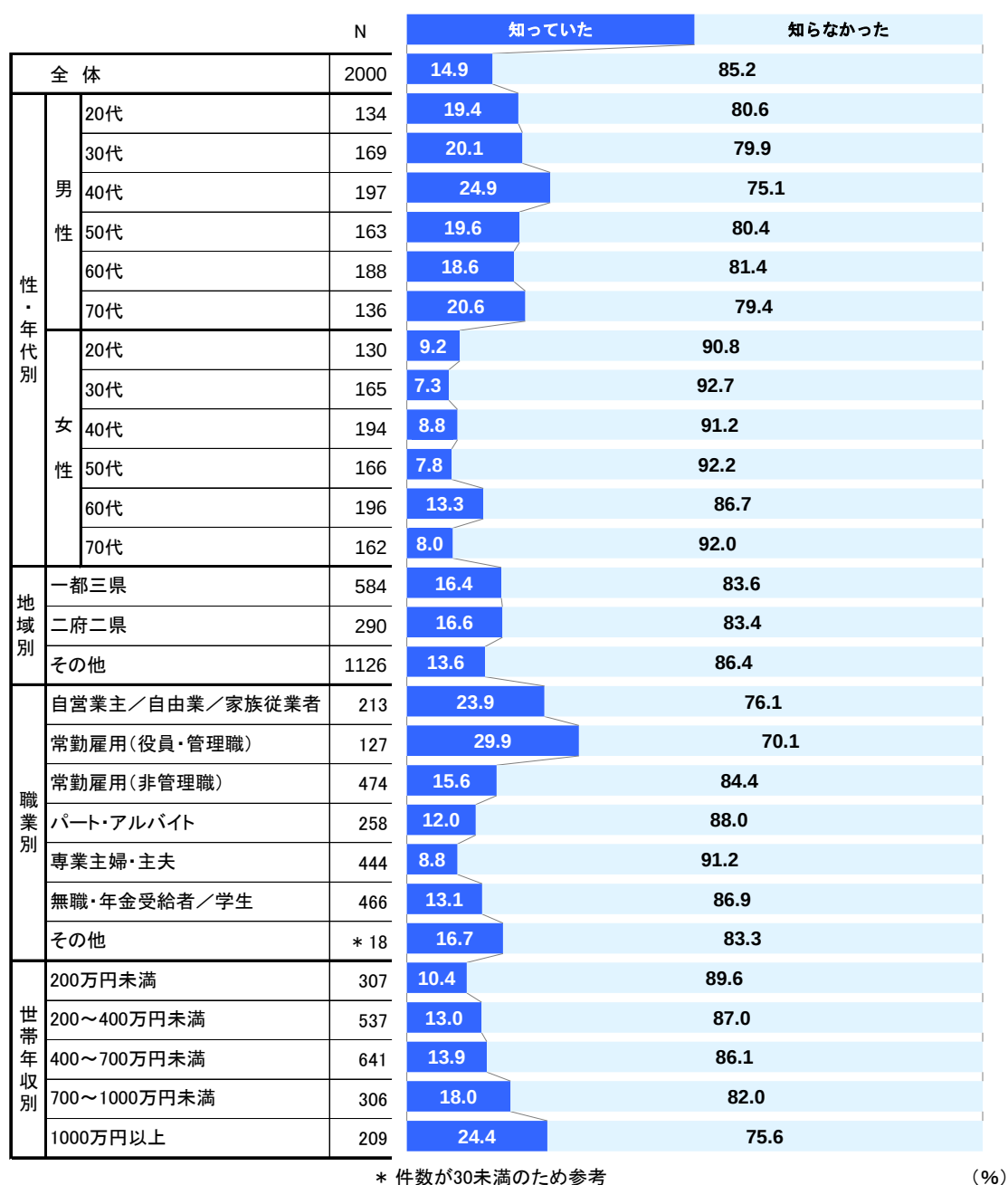
性・年代別にみると、「知っていた」は男性40代で24.9%と最も高く、それ以外の男性の年齢層では、2割前後であった。女性では60代が13.3%と最も高いが、いずれも1割前後の認知率にとどまっている。

地域別には、大きな差はみられない。

職業別にみると、認知率は常勤雇用（役員・管理職）で29.9%と最も高く、次いで自営業主／自由業／家族従業者で23.9%となっている。

世帯年収別では、年収が高い層ほど認知率も高くなっている。

Q22 金融商品取引において、日本で未登録の業者が日本居住者を勧誘・取引することは違法であることを知っていたか



金融庁や国民生活センターが、無登録海外所在業者との契約を行わないように注意喚起していることを、知っていたかどうかについては、「知っていた」は12.1%で、やはり少数であった。

性・年代別にみると、「知っていた」は男性で女性に比べて高いが、年代別では大きな差がみられず、男性で1割台、女性では多くの層で1割未満となっている。

地域別には、大きな差はみられない。

職業別にみると、自営業主／自由業／家族従業者の認知率が21.6%、常勤雇用（役員・管理職）が19.7%と、この2層では他より高くなっている。

世帯年収別では、年収が高い層ほど、認知率もやはり高くなっている。

Q23 金融庁や国民生活センターが、無登録海外所在業者との契約は行わないよう注意喚起していることを知っていたか

			N	知っていた	知らなかった
全 体			2000	12.1	88.0
性・年代別	男 性	20代	134	17.9	82.1
		30代	169	17.2	82.8
		40代	197	18.8	81.2
		50代	163	14.7	85.3
		60代	188	16.0	84.0
		70代	136	15.4	84.6
	女 性	20代	130	10.0	90.0
		30代	165	7.3	92.7
		40代	194	6.2	93.8
		50代	166	6.6	93.4
		60代	196	7.7	92.3
		70代	162	8.0	92.0
地域別	一都三県		584	13.0	87.0
	二府二県		290	14.1	85.9
	その他		1126	11.0	89.0
職業別	自営業主／自由業／家族従業者		213	21.6	78.4
	常勤雇用（役員・管理職）		127	19.7	80.3
	常勤雇用（非管理職）		474	14.1	85.9
	パート・アルバイト		258	8.5	91.5
	専業主婦・主夫		444	6.3	93.7
	無職・年金受給者／学生		466	10.9	89.1
	その他		* 18	11.1	88.9
世帯年収別	200万円未満		307	8.1	91.9
	200～400万円未満		537	10.2	89.8
	400～700万円未満		641	11.2	88.8
	700～1000万円未満		306	15.7	84.3
	1000万円以上		209	19.6	80.4

* 件数が30未満のため参考

(%)

金融先物取引業協会の認知についてみると、「団体の内容も含めて知っている」は3.5%、「名前は聞いたことがある」が21.4%であり、「名前は聞いたことがある」まで含めると、認知度は2割台半ばに達する。

性・年代別にみると、「団体の内容も含めて知っている」は男性20代のみ1割を超えているが、他の層はすべて1割未満であった。「名前は聞いたことがある」まで含めると、男性では女性に比べて認知度が高く、3割前後となっている。女性では、「名前は聞いたことがある」まで含めても2割前後であった。

地域別には、差がみられない。

職業別に「名前は聞いたことがある」まで含めてみると、常勤雇用（役員・管理職）および自営業主／自由業／家族従業者では3割台半ばに達しており、他より高い。

世帯年収別では、「名前は聞いたことがある」まで含めてみると年収が高い層ほど、認知率が高くなっている。

Q24 金融先物取引業協会の認知

			N	団体の内容も含めて知っている		名前は聞いたことがある	全く知らなかった
全 体			2000	3.5	21.4	75.1	
性・年代別	男	20代	134	11.2	16.4	72.4	
		30代	169	7.7	21.3	71.0	
		40代	197	6.1	24.9	69.0	
		50代	163	1.8	26.4	71.8	
		60代	188	3.7	28.7	67.6	
		70代	136	2.9	30.9	66.2	
	女	20代	130	3.8	14.6	81.5	
		30代	165	1.8	12.7	85.5	
		40代	194	1.5	17.0	81.4	
		50代	166	1.8	16.3	81.9	
		60代	196	0.5	21.9	77.6	
		70代	162	0.6	24.1	75.3	
地域別	一都三県		584	3.4	21.2	75.3	
	二府二県		290	3.8	22.8	73.4	
	その他		1126	3.5	21.1	75.4	
職業別	自営業主／自由業／家族従業者		213	8.0	26.8	65.3	
	常勤雇用（役員・管理職）		127	5.5	31.5	63.0	
	常勤雇用（非管理職）		474	5.3	21.5	73.2	
	パート・アルバイト		258	1.6	19.0	79.5	
	専業主婦・主夫		444	1.6	16.9	81.5	
	無職・年金受給者／学生		466	2.1	21.0	76.8	
	その他		* 18	0.0	38.9	61.1	
世帯年収別	200万円未満		307	1.0	15.3	83.7	
	200～400万円未満		537	2.8	19.7	77.5	
	400～700万円未満		641	3.9	22.3	73.8	
	700～1000万円未満		306	5.6	21.9	72.5	
	1000万円以上		209	4.8	31.1	64.1	

* 件数が30未満のため参考

(%)

金融商品あっせん相談センター（FINMAC）の認知についてみると、「団体の内容も含めて知っている」が3.0%、「名前は聞いたことがある」が13.7%であり、「名前は聞いたことがある」まで含めると、認知度は2割弱となっている。

性・年代別にみると、「団体の内容も含めて知っている」は男性20代のみ1割を超えているが、他の層はすべて1割未満であった。「名前は聞いたことがある」まで含めると、男性では女性に比べて認知度が高く、2割前後となっている。女性では、「名前は聞いたことがある」まで含めても1割台の認知率であった。

地域別には、特徴的な差がみられない。

職業別に「名前は聞いたことがある」まで含めてみると、常勤雇用（役員・管理職）および自営業主／自由業／家族従業者では2割台後半となっており、他より高い。

世帯年収別では、「名前は聞いたことがある」まで含めてみると年収が高い層ほど、認知率も高くなっている。

Q25 金融商品あっせん相談センター（FINMAC）の認知

		N	団体の内容も含めて知っている		名前は聞いたことがある	全く知らなかった
全 体		2000	3.0	13.7	83.4	
性・年代別	男	20代	12.7	9.7	77.6	
		30代	8.3	13.6	78.1	
		40代	3.6	17.8	78.7	
		50代	1.2	19.0	79.8	
		60代	3.2	16.5	80.3	
		70代	2.2	21.3	76.5	
	女	20代	2.3	13.1	84.6	
		30代	1.2	12.7	86.1	
		40代	1.0	9.8	89.2	
		50代	0.6	9.6	89.8	
		60代	1.0	11.7	87.2	
		70代	0.6	9.3	90.1	
地域別	一都三県	584	2.9	12.8	84.2	
	二府二県	290	4.8	15.2	80.0	
	その他	1126	2.6	13.7	83.7	
職業別	自営業主／自由業／家族従業者	213	7.0	19.7	73.2	
	常勤雇用（役員・管理職）	127	5.5	24.4	70.1	
	常勤雇用（非管理職）	474	4.4	16.9	78.7	
	パート・アルバイト	258	1.6	14.0	84.5	
	専業主婦・主夫	444	0.5	8.6	91.0	
	無職・年金受給者／学生	466	2.4	8.6	89.1	
	その他	* 18	0.0	33.3	66.7	
世帯年収別	200万円未満	307	1.0	7.5	91.5	
	200～400万円未満	537	2.2	12.5	85.3	
	400～700万円未満	641	3.6	13.6	82.8	
	700～1000万円未満	306	5.2	12.4	82.4	
	1000万円以上	209	2.9	27.8	69.4	

* 件数が30未満のため参考

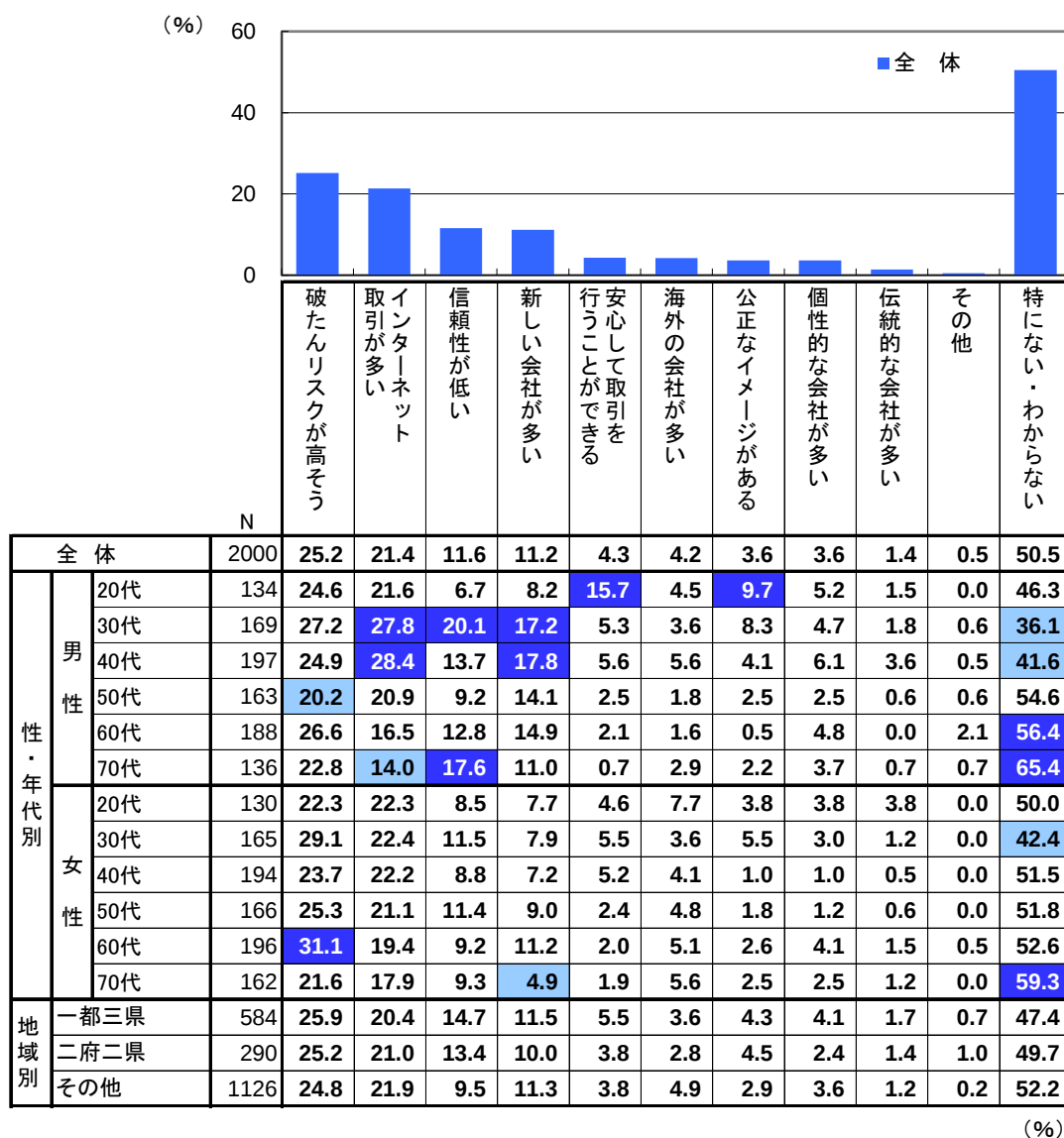
(%)

外国為替証拠金取引（FX）業者の印象についてみると、「破たんリスクが高そう」が 25.2%で最も高く、「インターネット取引が多い」が 21.4%と僅差で続く。以下、「信頼性が低い」（11.6%）、「新しい会社が多い」（11.2%）と続き、ここまでの4項目が1割を超えている。一方、「特にない・わからない」が 50.5%と半数を占めており、1位の項目よりかなり高い結果となっている。

性・年代別にみると、「破たんリスクが高そう」は女性 60代で、「インターネット取引が多い」は男性 30～40代で高い、等の特徴がみられる。また、「特にない・わからない」は男性 60～70代と女性 70代の高年齢層で、高くなっている。

地域別には、特徴的な差がみられない。

Q26 外国為替証拠金取引（FX）業者の印象（複数回答）

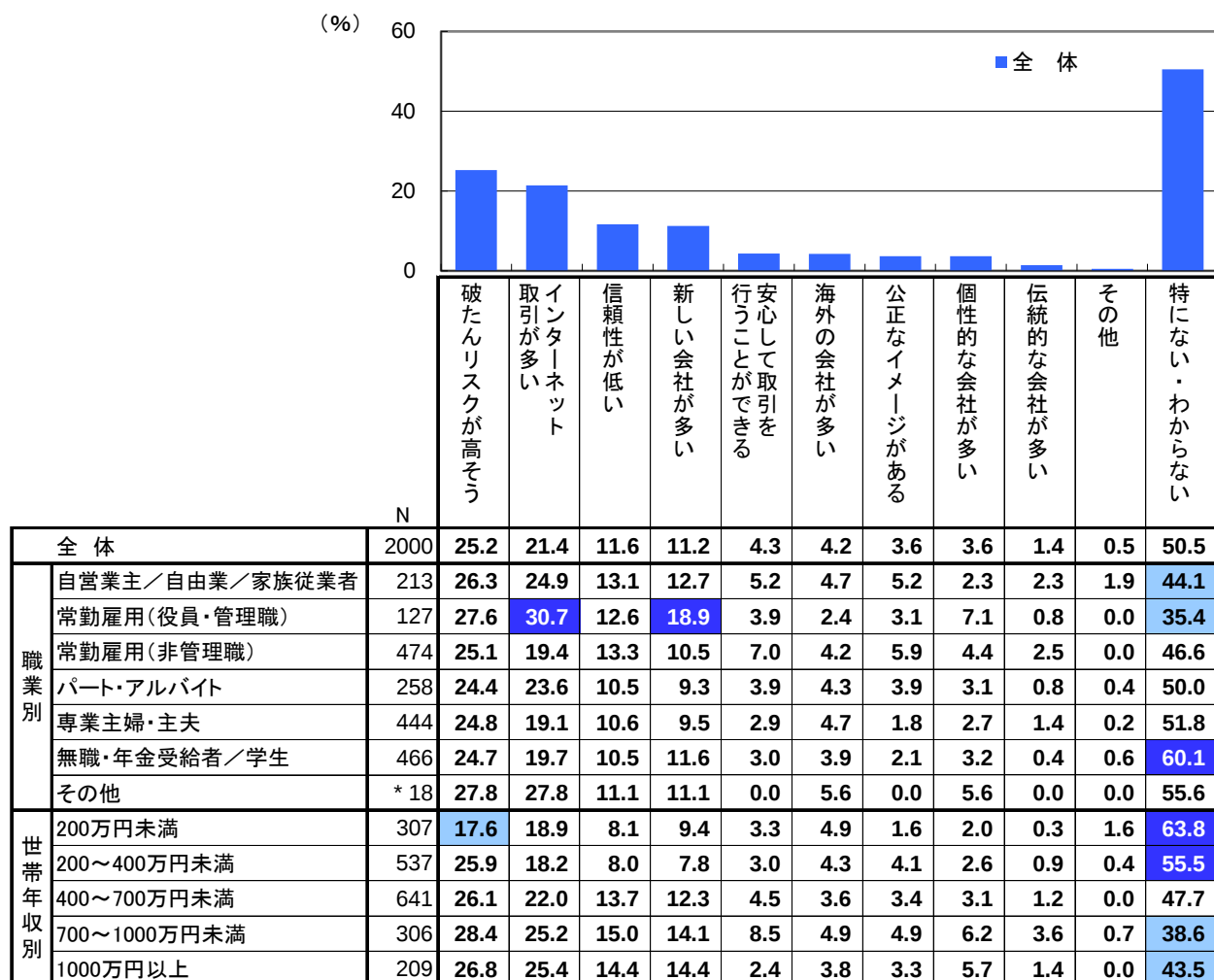


全体と比べ5ポイント以上高い
全体と比べ5ポイント以上低い

職業別でみると、常勤雇用（役員・管理職）では「インターネット取引が多い」「新しい会社が多い」が他の層に比べて高い。また、「特にない・わからない」は無職・年金受給者／学生で高くなっている。

世帯年収別では、「特にない・わからない」は年収 400 万円未満の低い層で、他より高くなっている。

Q26 外国為替証拠金取引（FX）業者の印象（複数回答）



* 件数が30未満のため参考

(%)

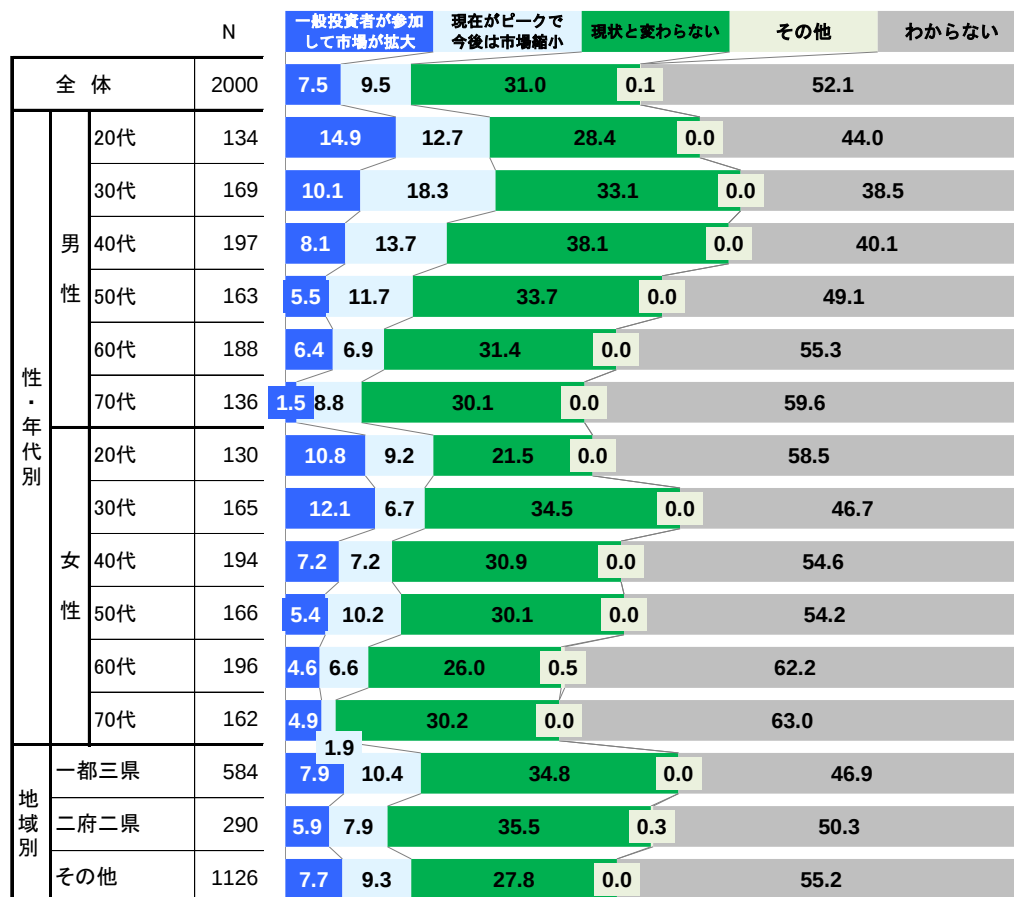
	全体と比べ5ポイント以上高い
	全体と比べ5ポイント以上低い

外国為替証拠金取引（FX）の市場が、今後どのようなようになるかについてみると、「現状と変わらない」が31.0%と高く、「現在がピークで今後は市場縮小に向かう」が9.5%、「ますます一般投資家が参加して市場が拡大する」が7.5%であった。なお、「わからない」が52.1%と過半数を占めている。

性・年代別にみると、「市場が拡大する」は男女ともに20～30代の若年層で高齢層よりやや高い。また、「わからない」は60代以上で高い傾向となっている。

地域別にみると、「わからない」はその他の地域で最も高く、次いで二府二県、一都三県の順となっている。

Q27 外国為替証拠金取引（FX）市場は今後どのようなようになるか

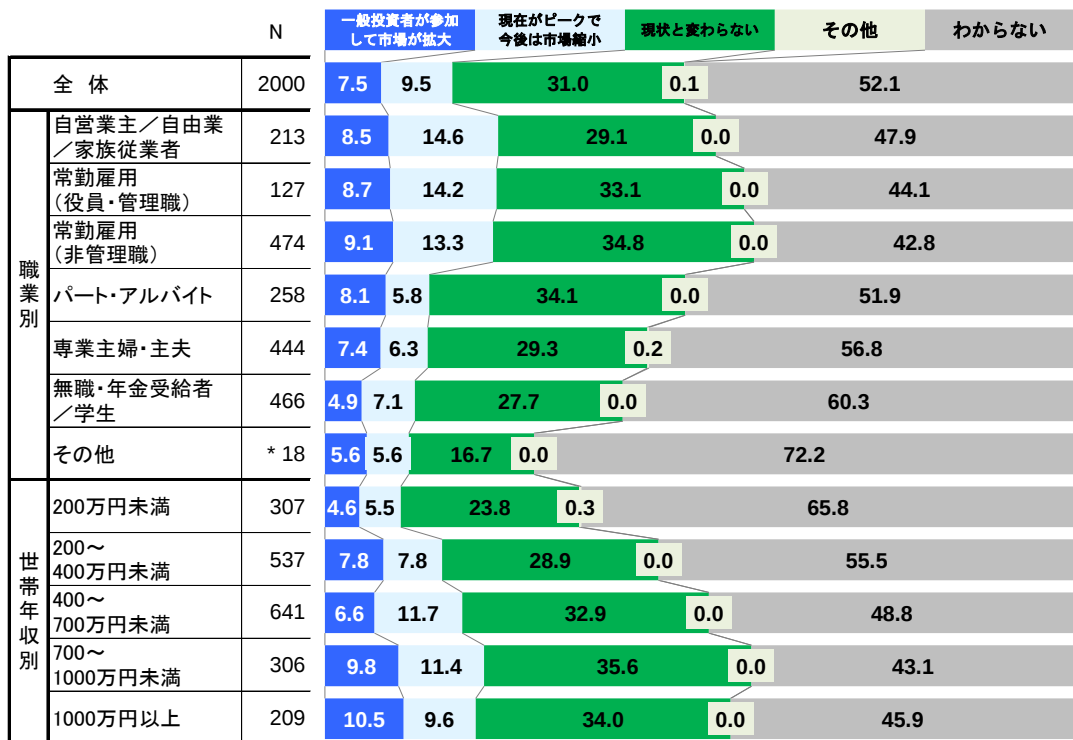


(%)

職業別にみると、「今後は縮小傾向に向かう」は常勤雇用や自営業主／自由業／家族従業者では1割強と、その他の層より高い。また、無職・年金受給者／学生や専業主婦・主夫、パート・アルバイトでは「わからない」が高い。

世帯年収別にみると、「わからない」の比率は年収が低い層で高い傾向がみられる。

Q27 外国為替証拠金取引（FX）市場は今後どのようなようになると思うか



* 件数が30未満のため参考

(%)

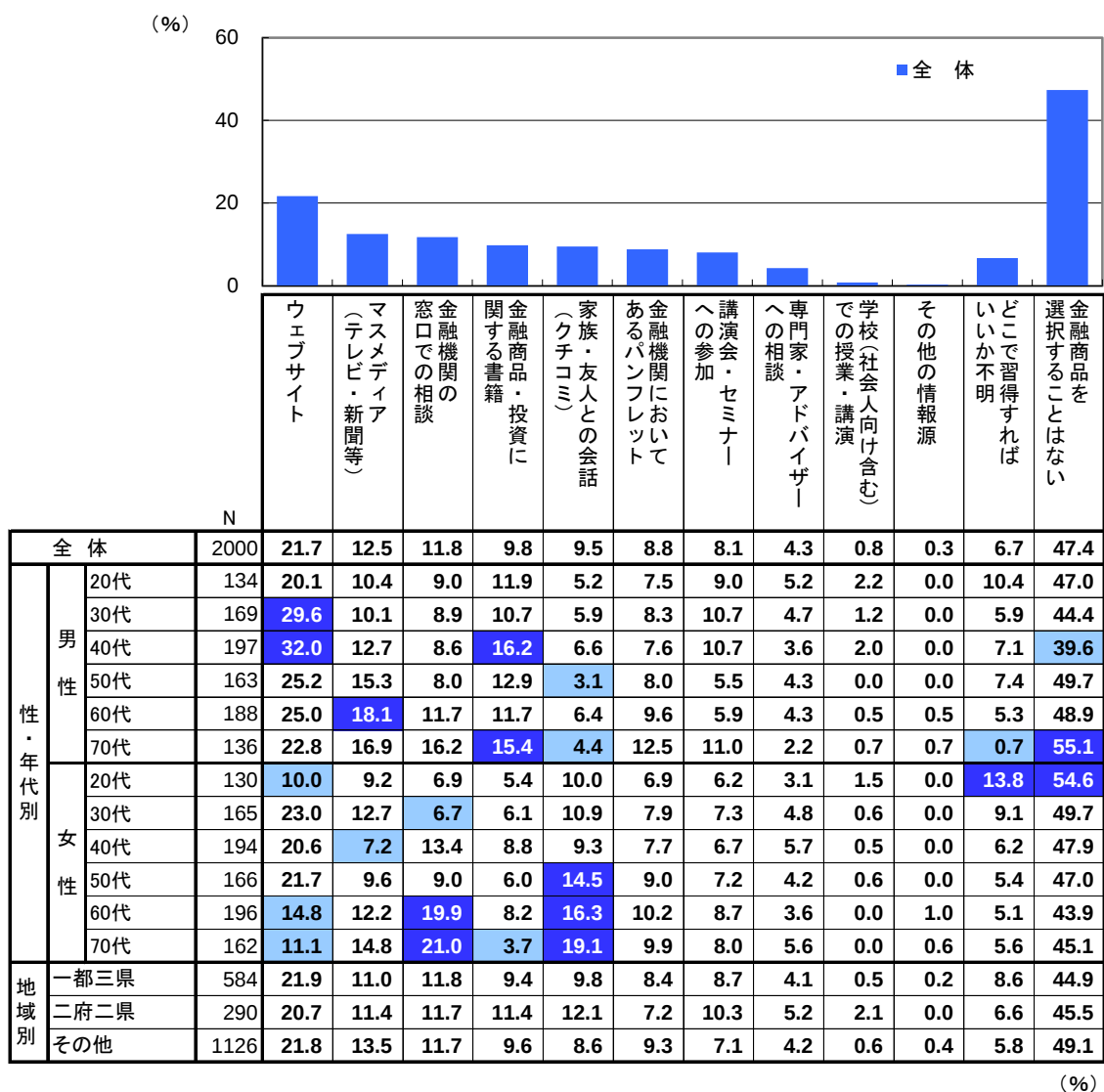
5. 金融商品に対する知識

金融商品選択時の知識・情報をどのような機会で見ているかについてみると、1位は「ウェブサイト」で21.7%であった。以下、「マスメディア（テレビ・ラジオ番組、新聞・雑誌等）」（12.5%）、「金融商品取引業者や金融機関の窓口での相談（販売員の説明）」（11.8%）等と続き、以上の3項目が1割以上となっている。

性・年代別にみると、「ウェブサイト」は男性30～40代で高く、女性20代と60～70代では低い。また、「マスメディア」は男性60代で、「金融機関の窓口での相談」は女性60～70代で高い、等の特徴がみられる。なお、「金融商品を選択することはない」は男性70代と女性20代で高くなっている。

地域別では、差がみられない。

Q28 金融商品についての知識・情報の収集方法（複数回答／3つまで）

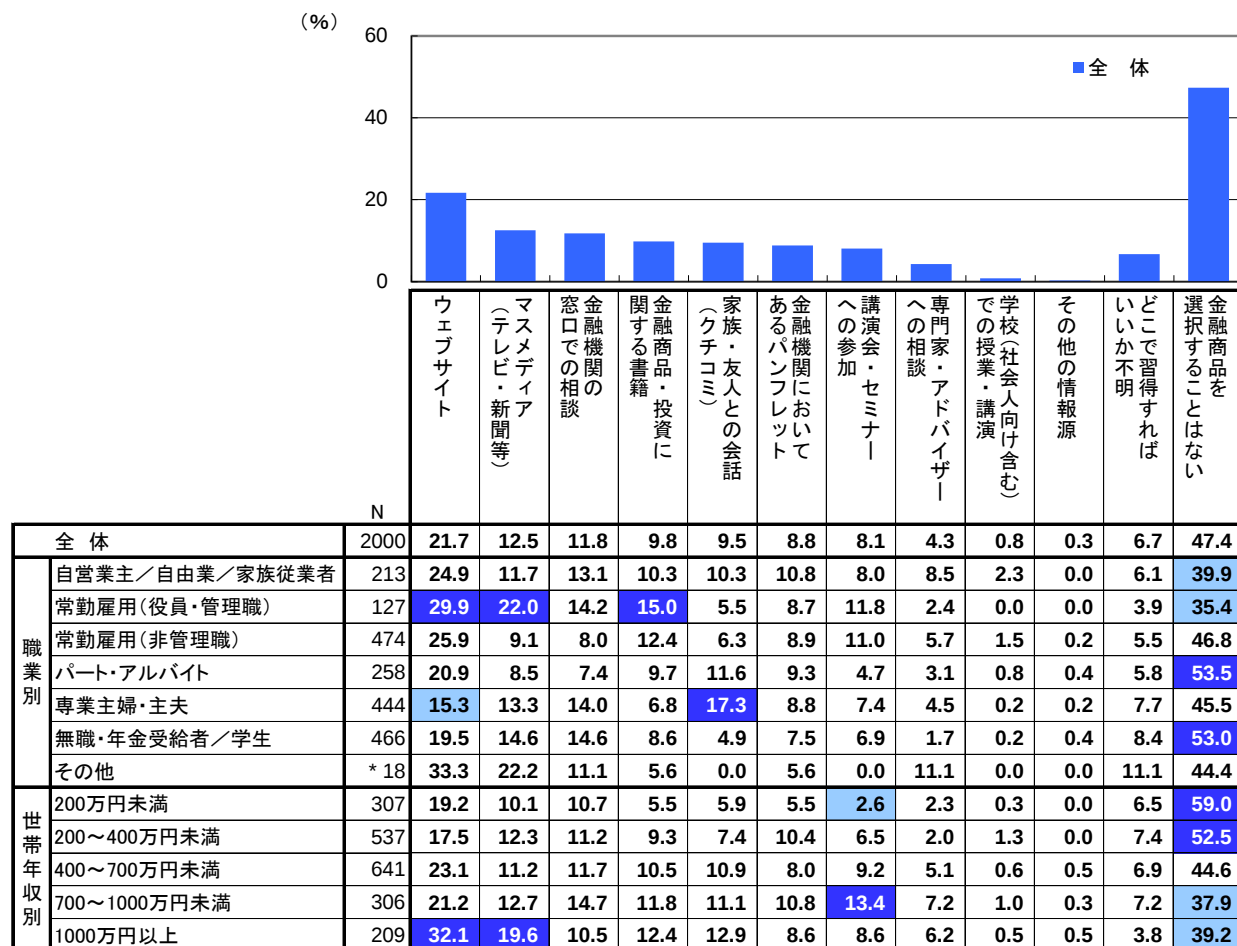


全体と比べ5ポイント以上高い
全体と比べ5ポイント以上低い

職業別にみると、「ウェブサイト」「マスメディア」「金融商品・投資に関する書籍」は常勤雇用（役員・管理職）で高く、「家族・友人との会話（クチコミ）」は専業主婦・主夫で高い。また、「金融商品を選択することはない」は、パート・アルバイトや無職・年金受給者／学生で高くなっている。

世帯年収別にみると、「ウェブサイト」「マスメディア」は1000万円以上の年収が高い層で、他より高くなっている。また「金融商品を選択することはない」は年収が低い層ほど高い傾向となっている。

Q28 金融商品についての知識・情報の収集方法（複数回答／3つまで）



* 件数が30未満のため参考

(%)

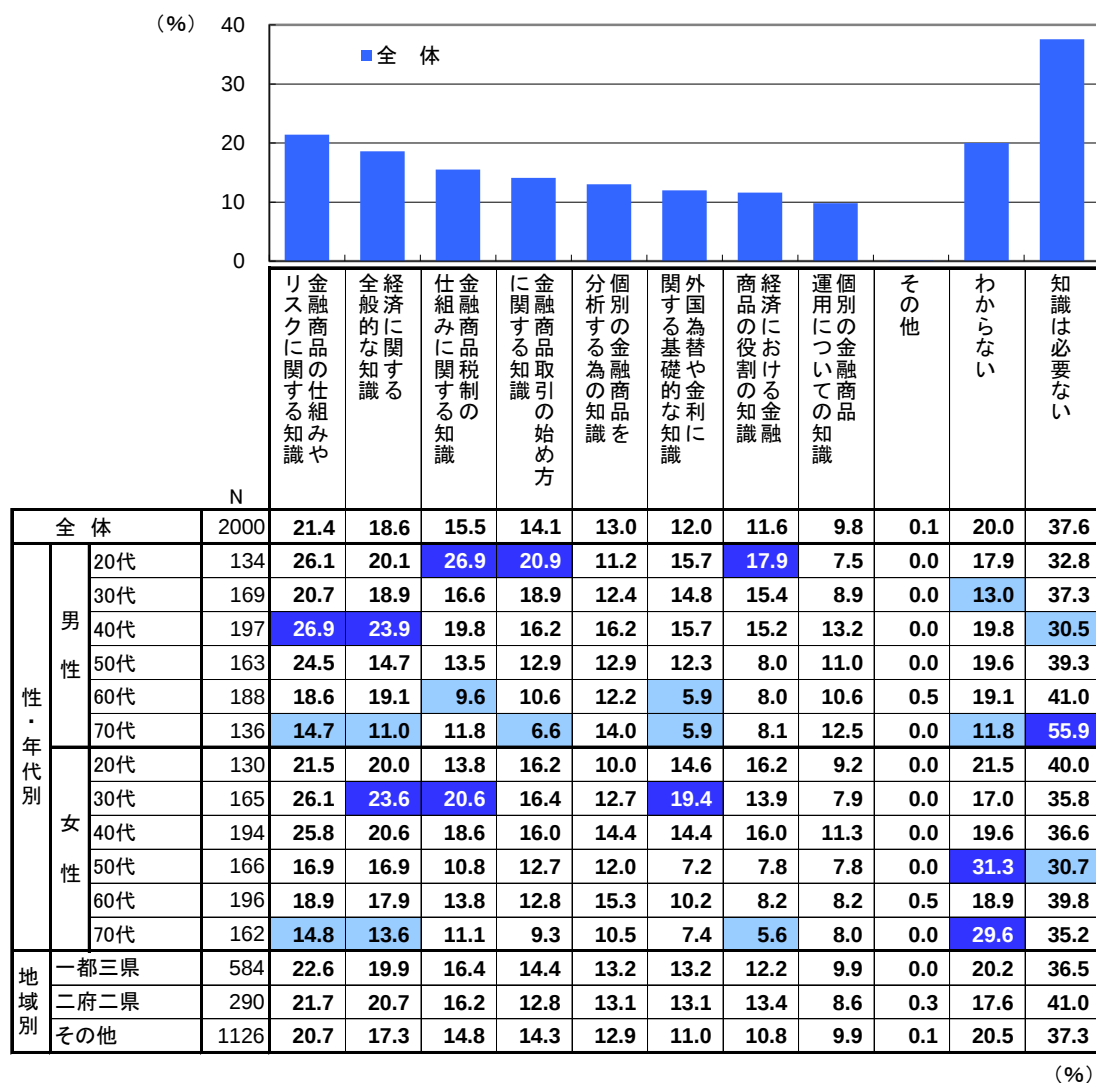
	全体と比べ5ポイント以上高い
	全体と比べ5ポイント以上低い

金融商品とその投資に関して、どのような知識を得たいかについては、「個別の金融商品の仕組みやリスクに関する知識」が21.4%で最も高い。次いで「経済に関する全般的な知識」(18.6%)、「金融商品税制の仕組みに関する知識」(15.5%)、「金融商品取引の始め方に関する知識」(14.1%)等となっている。なお、「知識は必要ない」が37.6%、「わからない」が20.0%となっており、多数を占めている。

性・年代別にみると、「金融商品の仕組みやリスクに関する知識」は男性40代で、「経済に関する全般的な知識」は男性40代と女性30代で、「金融商品税制の仕組みに関する知識」は男性20代と女性30代で高い傾向がみられた。

地域別では、差がみられない。

Q29 金融商品とその投資に関して、得たい知識（複数回答）

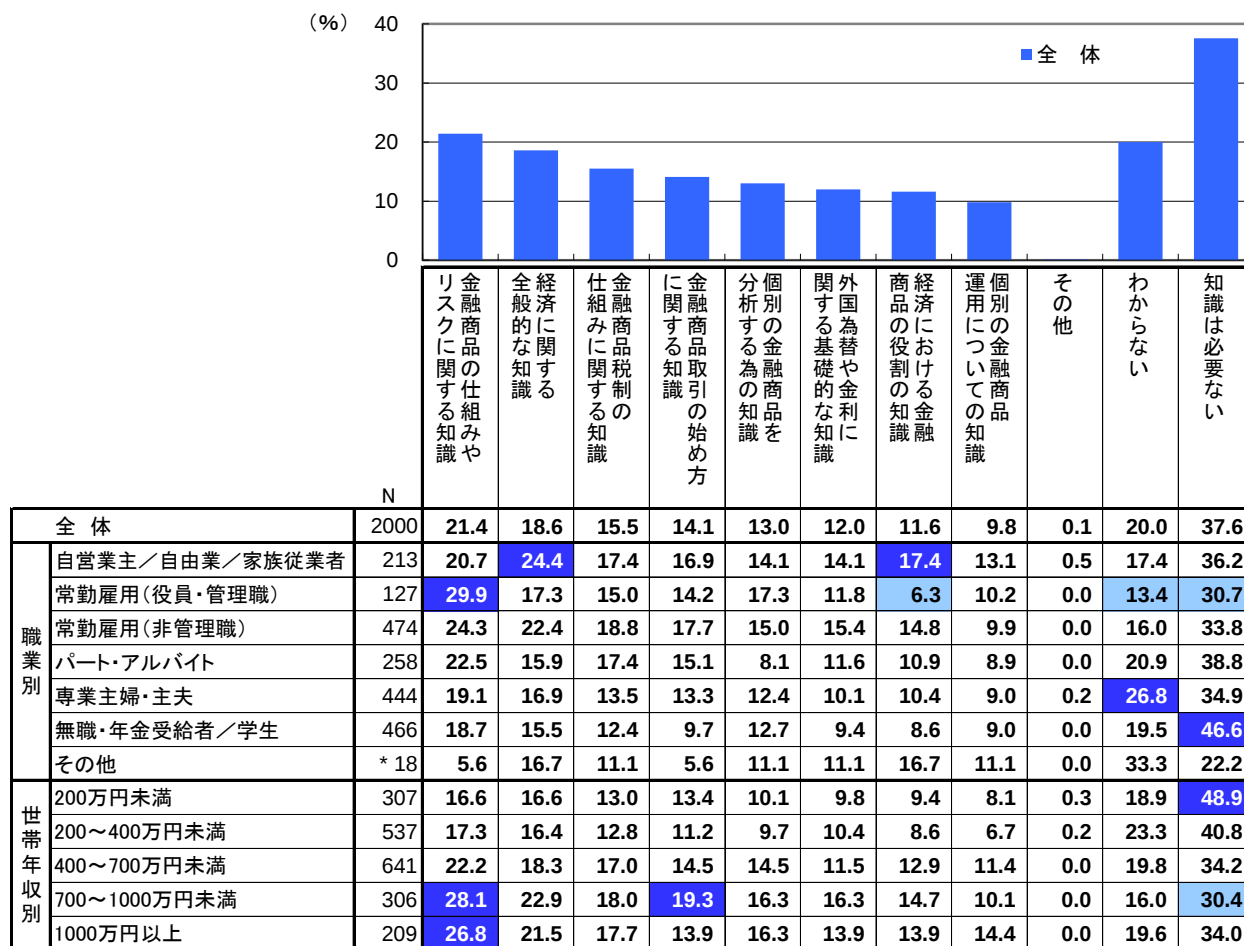


全体と比べ5ポイント以上高い
全体と比べ5ポイント以上低い

職業別では、「金融商品の仕組みやリスクに関する知識」は常勤雇用（役員・管理職）で高く、「経済に関する全般的な知識」「経済における金融商品の役割に関する知識」は、自営業主／自由業／家族従業者で高くなっている。また、「知識は必要ない」は無職・年金受給者／学生で高い。

世帯年収別にみると、「金融商品の仕組みやリスクに関する知識」は、年収 700 万円以上の層で高い一方で、「知識は必要ない」は年収 200 万円未満の低い層で高くなっている。

Q29 金融商品とその投資に関して、得たい知識（複数回答）



* 件数が30未満のため参考

(%)

	全体と比べ5ポイント以上高い
	全体と比べ5ポイント以上低い

付)調査票

●お金と投資に関するアンケート

回答条件	回答形式	Q	質問文	カテゴリNO
------	------	---	-----	--------

■お持ちの金融商品や、資産に対する意識などについておうかがいします。

全員	MA	Q1	次の中から、 これまであなたが取引したことがある金融商品 をお選びください。(いくつでも)
----	----	----	--

- | | | |
|--|----|--------------------------------------|
| | 1 | 株式 |
| | 2 | 円建債券 |
| | 3 | 外貨建債券(為替ヘッジあり) |
| | 4 | 外貨建債券(為替ヘッジなし) |
| | 5 | 国内投資信託 |
| | 6 | 海外投資信託(為替ヘッジあり) |
| | 7 | 海外投資信託(為替ヘッジなし) |
| | 8 | 指数連動型ETF(上場投資信託) |
| | 9 | 信用取引 |
| | 10 | 有価証券関連先物取引、オプション取引 |
| | 11 | 外国為替証拠金取引(FX) |
| | 12 | 外国為替関連先物取引(外国為替証拠金取引(FX)を除く)、オプション取引 |
| | 13 | 金利関連先物取引・オプション取引 |
| | 14 | 商品関連先物取引・オプション取引 |
| | 15 | 上記の金融商品は取引したことがない |

全員	SA	Q2	あなたが 現在 保有している 金融資産の合計額 はいくらくらいですか。 a)預貯金を含む金融資産合計額、b)預貯金を除いた金融資産合計額 のそれぞれについてお知らせください。 なお、預貯金および信託以外の金融資産については時価でお考えください。(それぞれ1つだけ)
----	----	----	--

表頭

- | | | |
|--|---|-----------------|
| | 1 | 10万円未満 |
| | 2 | 10～50万円未満 |
| | 3 | 50～100万円未満 |
| | 4 | 100～300万円未満 |
| | 5 | 300～500万円未満 |
| | 6 | 500～1,000万円未満 |
| | 7 | 1,000～3,000万円未満 |
| | 8 | 3,000～5,000万円未満 |
| | 9 | 5,000万円以上 |

表側

a>b チェック

- | | | |
|--|---|----------------|
| | a | 預貯金を含む金融資産合計額 |
| | b | 預貯金を除いた金融資産合計額 |

Q1(1～14)	MA	Q3	あなたは金融商品を選ぶとき、 どのような点を重視 しますか。(いくつでも)
----------	----	----	--

- | | | |
|--|----|---|
| | 1 | 利回りが良いこと |
| | 2 | 現金に換えやすいこと |
| | 3 | 元本が安全なこと |
| | 4 | 値上がり期待できること |
| | 5 | 税制面で有利になること |
| | 6 | 各種料金の自動引き落としなどに利用できること |
| | 7 | インターネットで取引できること |
| | 8 | 店頭・窓口で取引できること |
| | 9 | 利用する金融機関や金融商品取引業者等が信用できること |
| | 10 | 現金を所持するよりは安全に保管できること |
| | 11 | 預金保護のように限度額があるものとは異なり、業者が破たんしても資産が全額保全されること |
| | 12 | その他(具体的に) |

全員	MA	Q4	では、(Q1であげた金融商品以外の) 投資を行ったことがありますか。次の中から これまで行ったことのあるもの(預貯金は除く) をお選びください。(いくつでも)
----	----	----	--

- | | | |
|--|----|------------------------------|
| | 1 | 貯蓄型の保険 |
| | 2 | 年金型の保険 |
| | 3 | 国内の不動産(ご自身の居住用での購入は除く) |
| | 4 | 海外の不動産 |
| | 5 | 金 |
| | 6 | 金以外の貴金属 |
| | 7 | 宝石、宝飾品(投資目的の購入) |
| | 8 | 美術品、骨董品(投資目的の購入) |
| | 9 | ゴルフ会員権、リゾート施設などの利用権(投資目的の購入) |
| | 10 | その他(具体的に) |
| | 11 | 行ったことはない |

■先物取引やオプション取引、証拠金取引、CFD取引についておうかがいします。			
全員	SA	Q5	あなたは先物取引やオプション取引、証拠金取引、CFD取引という金融商品取引を 知っていますか 。(それぞれ1つだけ)
		表頭	
			1 よく知っており、内容を十分に理解している
			2 知っているが、内容を十分には理解していない
			3 名前を聞いたことがある程度
			4 知らない
		表側	
			a 先物取引
			b オプション取引
			c 証拠金取引
			d CFD取引
Q5a～dのいずれかが(2-4)	SA	Q6	あなたは先物取引やオプション取引、証拠金取引、CFD取引の内容や取引方法について 理解したいと思いますか 。(1つだけ)
			1 とても理解したい
			2 機会があれば理解したい
			3 あまり理解したくない
			4 全く理解したくない
Q6(3-4)	MA	Q7	あなたが先物取引やオプション取引、証拠金取引、CFD取引の内容などについて 理解したいと思わない理由 をお知らせください。(いくつでも)
			1 理解すること自体が難しそうで面倒だから
			2 危険な取引なので、利用したいと思わないから
			3 投資対象は、株や債券、投資信託で十分であり、先物取引などを理解する必要はないから
			4 勉強する時間がないから
			5 投資する資金がないから
			6 興味がないから
			7 その他(具体的に)
Q5a～dいずれか(1)orQ6(1-2)	MA	Q8	あなたが先物取引やオプション取引、証拠金取引、CFD取引を理解するためには、どのような方法(環境)があるとよいと思いますか。(いくつでも)
			1 学校等での投資教育の一部にこれらの取引の情報を含める
			2 金融商品取引業者や金融機関の担当者によるお客様向けの説明をわかりやすくする
			3 金融商品取引業者や金融機関からの取引に関する教材の提供
			4 金融商品取引業者や金融機関によるインターネットでの学習環境の提供
			5 金融専門誌や書籍(一般書籍)の充実
			6 テレビや新聞での情報発信
			7 その他(具体的に)
			8 わからない
Q5a～dいずれか(1-2)	SA	Q9	先物取引やオプション取引の利用方法として「ヘッジ取引」があります。これは、「先物等の取引を利用して、外貨建て資産・負債、借入金利などの将来の変動による損失を抑える」というものですが、あなたは このことを知っていましたか 。(1つだけ)
			1 知っていて、利用したことがある
			2 知っていたが、利用したことはない
			3 知らなかった
Q5a～dいずれか(1-2)	SA	Q10	もしあなたが、投資を検討している人に投資商品を教えるとしたら、先物取引やオプション取引、証拠金取引、CFD取引を 勧めたいと思いますか 。(1つだけ)
			1 そう思う
			2 ややそう思う
			3 あまりそう思わない
			4 全くそう思わない
Q10(1-2)	MA	Q11	前問で、 そのようにお答えになった理由 をお知らせください。(いくつでも)
			1 ハイリターンが期待できるから
			2 現物株式や外国通貨などの原資産の価格変動に対するリスクヘッジができるから
			3 少額の元手で多額の投資ができて効率的だから
			4 その他(具体的に)
Q10(3-4)	MA	Q12	前問で、 そのようにお答えになった理由 をお知らせください。(いくつでも)
			1 ハイリスクだから
			2 リスクヘッジをする必要のある資産を、保有している相手がいないから
			3 元手を上回る損失が発生する可能性があるから
			4 商品内容が難しいから
			5 興味を持つ人が少なそうだから
			6 その他(具体的に)
			7 わからない

■デリバティブ取引の利用方法などについておかがいします。			
全員	SA	Q13	先物取引やオプション取引などのデリバティブ取引は、投資者が自分の判断で直接投資する方法以外に、投資信託など、プロが運用した結果を受け取る間接的な投資方法が考えられます。 デリバティブ取引を行う場合、あなたは どちらの方法によって投資したいと思いますか。 (1つだけ)
			1 直接自分で行うほうが良い 2 プロに任せて間接的に投資を行うほうが良い 3 直接投資と間接投資を状況によって使い分ける 4 いずれの方法によっても取引は行わない 5 わからない
全員	SA	Q14	デリバティブ取引を含めて、金融商品の売買では、所定のコンピュータープログラムに従って自動的に売買を行う方法があります。 あなたは 自動売買を利用したいと思いますか。 (1つだけ)
			1 利用したい 2 利用したくない 3 わからない
■外国為替証拠金取引(FX)についておかがいします。			
全員	SA	Q15	あなたは 外国為替証拠金取引(FX)を知っていますか。 (1つだけ)
			1 よく知っており、内容を十分に理解している 2 知っているが、内容を十分に理解していない 3 名前を聞いたことがある程度 4 知らない
Q1(11)	SA	Q16	現在、 外国為替証拠金取引(FX)を行っていますか。 (1つだけ)
			1 行っている 2 行っていない
Q16(2)	MA	Q17	あなたが、 現在、外国為替証拠金取引(FX)を行っていない理由 をお知らせください。(いくつでも)
			1 目標とする利益を得たので 2 期待したほどの利益が得られなかったので(期待に反して損失となったので) 3 急激な相場変動によって、予期せぬ大きな損失を被ったので 4 他の金融商品取引のほうが効率的と判断したので 5 投資する余裕がなくなったので 6 その他(具体的に)
全員	SA	Q18	外国為替証拠金取引(FX)とは:取扱い業者・投資会社等にお金(証拠金)を預け、外国通貨の売買を行う。元金の数倍～数十倍程度の取引が可能であり、差額の授受による差金決済を行う。元金に対して高い倍率の取引を行った場合は、大きな利益が期待できる一方、リスクも大きい。 あなたは 今後、外国為替証拠金取引(FX)を行いたい(継続したい)と思いますか。 (1つだけ) ※現在、取引を行っている・いないにかかわらず、意向をお聞かせください。
			1 取引を行いたい 2 やや行いたい 3 あまり行いたくない 4 全く行いたくない
Q18(1-2)	MA	Q19	前問で、 そのようにお答えになった理由 をお知らせください。(いくつでも)
			1 ハイリターンが期待できるから 2 多くの投資者が利益を得ているから 3 外貨建て資産(または負債)の為替リスクをヘッジしたいから 4 手軽に外国通貨への投資が行えるから 5 外貨の両替よりも有利に実物の外貨を入手できるから(外貨を円に換えられるから) 6 その他(具体的に)
Q18(3-4)	MA	Q20	前問で、 そのようにお答えになった理由 をお知らせください。(いくつでも)
			1 リスクが高いから 2 多くの投資者が損失を被っているから 3 外貨建て資産を持っていない・外貨建て資産に関心がないから 4 外国為替証拠金取引(FX)を含むデリバティブ取引全般について、関心がないから 5 商品内容が難しいから 6 投資する余裕がないから 7 その他(具体的に) 8 わからない

全員	SA	Q21	外国為替証拠金取引(FX)について、現在、日本国内では、東京金融取引所の上場取引(商品名くりつく365)と、金融商品取引業者が顧客と相対で行う店頭取引の2つの市場があります。 あなたはこのことを ご存知でしたか 。(1つだけ)
			☐ 1 知っていた ☐ 2 知らなかった
全員	SA	Q22	外国為替証拠金取引(FX)に限らず、金融商品取引において、日本国に登録した金融商品取引業者以外の者が、日本に居住する者を勧誘し、取引を行うことは違法であり、そうした行為を行う業者は違法業者です。 あなたはこのことを ご存知でしたか 。(1つだけ)
			☐ 1 知っていた ☐ 2 知らなかった
全員	SA	Q23	近年、金融商品取引法に基づく登録を受けていない無登録の海外所在業者が、インターネットに日本語ホームページを開設する等により、外国為替証拠金取引(FX取引)や有価証券投資等の勧誘を行っている例が見受けられます。 無登録の海外所在業者は業務の実態等の把握が難しく、仮にトラブルが生じても業者への追及は極めて困難です。また、実際にトラブルも生じていることから、金融庁や国民生活センターなどの機関でも、無登録業者との契約は行わないように注意喚起しています。 あなたは、このような取り組みについて、 ご存知でしたか 。(1つだけ)
			☐ 1 知っていた ☐ 2 知らなかった
全員	SA	Q24	外国為替証拠金取引(FX)を取り扱う、金融商品取引法に基づき登録された金融商品取引業者の自主規制団体として、 一般社団法人 金融先物取引業協会 があります。あなたはこの団体を ご存知でしたか 。(1つだけ)
			☐ 1 団体の内容も含めて知っている ☐ 2 名前は聞いたことがある ☐ 3 全く知らなかった
全員	SA	Q25	外国為替証拠金取引(FX)を含め金融商品取引に関し、金融商品取引法に基づき登録された金融商品取引業者との間で生じたトラブルについては、特定非営利活動法人 金融商品あっせん相談センター (通称FINMAC) を利用し、解決を図ることができます。あなたはこの団体を ご存知でしたか 。(1つだけ)
			☐ 1 団体の内容も含めて知っている ☐ 2 名前は聞いたことがある ☐ 3 全く知らなかった
全員	MA	Q26	外国為替証拠金取引(FX)業者について、 どのような印象 をお持ちですか。(いくつでも)
			☐ 1 安心して取引を行うことができる ☐ 2 破たんリスクが高そう ☐ 3 公正なイメージがある ☐ 4 信頼性が低い ☐ 5 インターネット取引が多い ☐ 6 伝統的な会社が多い ☐ 7 新しい会社が多い ☐ 8 個性的な会社が多い ☐ 9 海外の会社が多い ☐ 10 その他(具体的に) ☐ 11 特にない・わからない
全員	SA	Q27	外国為替証拠金取引(FX)市場について、 今後どのようになると感じていますか 。(1つだけ)
			☐ 1 ますます一般投資者が参加して市場が拡大する ☐ 2 現在がピークで今後は市場縮小に向かう ☐ 3 現状と変わらない ☐ 4 その他(具体的に) ☐ 5 わからない
■金融商品に対する知識についておうかがいします。			
全員	3MA	Q28	あなたは金融商品を選択する際の 知識・情報 を、主に どのような機会 で得ていますか。(3つまで)
			☐ 1 金融商品取引業者や金融機関の窓口での相談(販売員の説明) ☐ 2 金融商品取引業者や金融機関においてあるパンフレット ☐ 3 講演会・セミナーへの参加 ☐ 4 専門家・アドバイザーへの相談 ☐ 5 マスメディア(テレビ・ラジオ番組、新聞・雑誌等) ☐ 6 ウェブサイト ☐ 7 家族・友人との会話(クチコミ) ☐ 8 学校(社会人向けを含む)での授業・講演 ☐ 9 金融商品・投資に関する書籍 ☐ 10 その他の情報源(具体的に) ☐ 11 どこで知識・情報を習得すればいいかわからない ☐ 12 金融商品を選択することはない

全員	MA	Q29	あなたは金融商品とその投資に関して、 どのような知識を得たいですか。 (いくつでも)
			1 個別の金融商品(デリバティブ商品を含む)の仕組みやリスクに関する知識
			2 金融商品取引の始め方に関する知識
			3 金融商品税制の仕組みに関する知識
			4 経済における金融商品の役割に関する知識
			5 経済に関する全般的な知識
			6 外国為替や金利に関する基礎的な知識
			7 個別の金融商品(およびその銘柄など)を分析するための知識
			8 個別の金融商品(デリバティブ商品を含む)の運用手法に関する知識
			9 その他(具体的に)
			10 わからない
			11 知識は必要ない
■最後に、あなたご自身のことについておうかがいします。			
全員	SA	Q30	あなたのご 職業 をお知らせください。(1つだけ)
			1 自営業主(農林水産業、商工、サービス)
			2 自由業(開業医、弁護士など)
			3 家族従業者(家事手伝い含む)
			4 常勤雇用(役員・管理職)
			5 常勤雇用(非管理職)
			6 パート・アルバイト
			7 専業主婦・主夫
			8 無職・年金受給者
			9 学生
			10 その他(具体的に)
全員	SA	Q31	あなたのご 最終学歴(就学中・中退を含む) を、お知らせください。(1つだけ)
			1 小学校・中学校(旧制高等小学校含む)
			2 高等学校(旧制中等学校含む)
			3 各種専門学校
			4 短期大学・高等専門学校
			5 大学
			6 大学院
			7 その他(具体的に)
全員	SA	Q32	あなたのご家庭(世帯)のご 家族全員の1年間の税込み収入(世帯年収) はどのくらいでしょうか。(1つだけ)
			1 100万円未満
			2 100～200万円未満
			3 200～300万円未満
			4 300～400万円未満
			5 400～500万円未満
			6 500～700万円未満
			7 700～1,000万円未満
			8 1,000～1,500万円未満
			9 1,500～2,000万円未満
			10 2,000万円以上

平成 28 年度 金融先物取引に関する個人投資家の意識調査 調査結果報告書

発行者 / 一般社団法人 金融先物取引業協会

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 1－3 NBF 小川町ビルディング

編集 / 株式会社日本リサーチセンター

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 2－7－1

禁無断転載 Copyright ©The Financial Futures Association of Japan